

第二編 各 論

第四章 空軍問題

目次

第四章 空軍問題	二七九
第一節 總說	二七九
第一項 構成	二七九
一、設置	二七九
二、幹部選任	二七九
第二項 事業概觀	二七九
第二節 質的軍縮問題	二八〇
第一項 軍用航空	二八〇
第一、總說	二八〇
第二、各論	二八一
一、空軍委員會議事經過(一)	二八一
第六回會合(四月二十七日)(民用航空問題討議方法ノ研究)	二八一
二、空軍委員會小分科會議事經過	二八四
第一回會合(四月二十七日)(四月二十二日決議ニ對スル各代表部提案提出ヲ促ス)	二八四
第二回會合(四月二十九日)(「西」案討議ノ基礎タラントスル海上航空兵力ニ關シ我方發言ス)	二八四

第三回會合(五月二日)〔白〕提案「西」案ニ代ル)	二八五
第四回會合(五月三日)〔有效搭載量決定標準ニ關スル討議〕	二八七
第五回會合(五月四日)〔英〕案提出)	二九五
第六回會合(五月五日午前)〔エアームメント〕ナル用語定マル)	二九六
第七回會合(五月五日午後)〔瑞西〕案討議ノ基礎トナル)	二九八
第八回會合(五月六日午前)〔標準的性能ニ關スル四國案〕	三〇一
第九回會合(五月六日午後)〔一應具體的成果ヲ得〕	三〇三
第十回會合(五月九日)〔海上航空兵力ニ關スル我方聲明〕	三〇五
第十一回會合(五月十日)〔報告案ノ討議〕	三〇六
第十二回會合(五月十一日)〔報告案討議終了〕	三〇八
三、空軍委員會議事經過(二)	三〇八
第七回(五月十八日)〔小分科會報告討議開始〕	三〇八
第八回(五月十九日)〔右續行〕	三〇九
第九回(五月二十日)〔同〕	三一二
第十回(五月二十三日午前)〔海上航空兵力ニ關シ我方發言ス〕	三一五
第十一回(五月二十三日午後)〔小分科會報告決議〕	三一九
海上航空兵力問題ニ關スル起草委員會	
第十二回(五月二十四日)〔海上航空兵力ニ關シ我方聲明ス〕	三二二
第十三回(五月二十五日)〔佛〕自重定義案提出)	三二九

第十四回(五月二十六日午前)〔有效搭載量決定標準ニ付採擇〕	三三二
第十五回(五月二十六日午前)〔白〕具體的數字提出)	三三五
第十六回(五月二十七日)〔議長具體的數字提出ヲ督促ス〕	三三七
第十七回(五月三十一日)〔米〕數字提示ハ歐洲問題ナリトス)	三三八
四、五月三十一日設置小分科會議事經過	三四〇
第一回(六月一日)〔佛〕決議案審議)	三四一
第二回(六月二日)〔同〕	三四五
第三回(六月三日)〔同〕	三四七
五、空軍委員會議事經過(三)	三四九
第十八回(六月三日)〔對一般委員會報告討議〕	三四九
第十九回(六月四日)〔同〕	三五二
第二十回(六月七日)〔同〕	三五六
第二十一回(六月八日)〔同〕	三六一
第二項 民用航空	三六四
第二、總 說	三六四
第二、各 論	三六五
一、空軍委員會議事經過(一)	三六五
第二回(三月十日午前)〔民用航空問題討議方法審議〕	三六五
二、三月十日設置ノ分科會議事經過(三月十日午後)	三六六

三、空軍委員會議事經過 (二)	三六七
第三回 (三月十四日) (分科會決議案ヲ採擇ス)	三六七
第四回 (三月十六日) (民用航空國際化問題ノ專門的研究ヲ開始ス)	三六七
第五回 (三月十七日) (民用航空國際化關係資料蒐集方ヲ決定ス)	三七〇
四、空軍委員會議事經過 (三)	三七〇
第二十二回 (六月十四日) (「西」討議基礎案ヲ提出ス)	三七一
第二十三回 (六月十五日) (討議基礎案ニ付審議セルモ未決)	三七二
第二十四回 (六月十七日) (「西」案ニ付辛ウシテ審議ヲ始ム)	三七四
第二十五回 (六月二十二日) (「佛」國際化ニ對スル自國見解ヲ述フ)	三七五
第二十六回 (六月二十四日) (國際化ニ關スル「獨」「佛」舌戰)	三七七
五、六月二十四日設置ノ空軍委員會小分科會議事經過	三七九
第一回 (六月二十七日) (「西」案討議)	三七九
第二回 (六月二十八日) (「白」提出議事「プログラム」採擇)	三八〇
第三回 (七月一日) (「レーグルマンタシオン」ニ關スル討議)	三八四
第四回 (七月四日) (同)	三八八
第五回 (七月八日) (同)	三九五
第六回 (七月十一日) (同)	三九八
第七回 (七月十三日) (同)	四〇二
第八回 (七月十五日) (同)	四〇七

第九回 (七月十八日) (「レーグルマンタシオン」ニ關スル討議終了) 四〇九

第四章 空軍問題

第一節 總 說

第一項 構 成

一、設 置

一般軍縮會議ハ昭和七年二月二十五日一般委員會決議ニヨリ空軍委員會ヲ設ケ同委員會ヲシテ空軍軍備ニ關スル専門的の研究ヲ行ハシムルコトトシタリ

二、幹 部 選 任

空軍委員會ハ其ノ第一回會合(二月二十七日)ニ於テ議長(「西」代表 Madariaga)ヲ第二回會合(三月十日)ニ於テ第一副議長(「ボリツ」代表 Costa du Reis)第二副議長(「勃」代表 Colonel Marinoff)及報告者(「典」代表 E. C. Bohannaw)ヲ選舉セリ

其後第一副議長ハ他ニ轉任ヲ理由トシ辭任ヲ申出テ報告者ハ個人的理由ニヨリ一時代理者ヲ任命セムコトヲ求メタル結果「瑞西」代表(H. Valaton)及「諾」代表(Dr. C. Lange)ヲ夫々之ニ充テタリ

第二項 事 業 概 觀

空軍委員會ハ第一會期ニ於テ委員會ヲ開クコト前後二十六回又特種事項ノ研究審議ノ爲幹部會、起草委員會及小分科會等ヲ開催セルコト約三十回ニ及ヘル處其ノ事業ノ跡ヲ概觀スレハ大體左ノ如シ

軍縮會議報告者ニテ作成セル各委員會議題(Conf. D. 103)ニ付空軍委員會ハ自己ニ附託セラレタル議題ヲ研究シタル結果先ツ軍用航空處理ニ隨伴スル意味ニ於テ民用航空ニ關スル研究ヲ行フコトトナシ店リシ處四月二十二日一般委員會ノ質的軍縮ニ關スル決議ニ基キ空軍兵器中(一)特ニ進攻的ナルモノ(二)最モ國防破壊ニ有效ナルモノ(三)最モ一般

市民ニ脅威ヲ與フルモノノ何タルヤヲ決定スルコト必要トナリタル爲民用航空問題ヲ離レ軍用航空ノ討議ニ全力ヲ盡シ其ノ間(一)軍用航空保有ヲ條約上禁止セラレオル國ト然ラサル國(二)民用航空ニ對シ嚴重ナル規律、取締ヲ加ヘムトスル國ト之ヲ最小限ニ止メムトスル國(三)民用航空ノ國際化ヲ軍用航空制限ノ條件トスルモノト然ラサル國(四)軍用航空全廢ヲ主張スル國ト之ニ反對スル國(五)空中爆撃ヲ全禁セムトスル國ト然ラサル國トノ間ニ議論ノ對立ヲ見タルカ他方海上航空兵力ノ進攻性等決定ニ關スル我方主張モ遂ニ多數ヲ以テ空軍委員會ノ認ムル所トナリタリ

空軍委員會ハ斯クシテ軍用航空ニ關スル研究ヲ終了セルヲ以テ更ニ從前ノ日程即民用航空問題ニ復歸シ其ノ國際規律、取締及國際化ニ關シ討議ヲ行フコトトナリ小分科會ニテ國際規律問題ヲ議了セルカ後二者ニ及フ暇ナク右ハ會議後期ニ讓ルコトシタリ

第二節 質的軍縮問題

第一節第二項事業概觀記載ノ如ク空軍委員會ハ民用航空問題ヲ先議シタルモノナルモ右ハ勿論軍用航空ト相關聯シテノ討議ナルヲ以テ本報告ニ於テモ先ツ第一項ニ於テ軍用航空ニ關スル委員會討議ヲ記述シ次テ第二項ニ於テ民用航空ニ及ハムトス

第一項 軍用航空

第一、總 說

昭和七年四月二十二日一般委員會ニ於ケル質的軍縮ニ關スル決議ニ因リ空軍委員會ハ空軍兵器中特ニ進攻的ナルモノ、國防破壊ニ最も有效ナルモノ及一般市民ニ最も脅威ヲ與フルモノノ何タルヤヲ研究スルコトナリ(Conf. D./C.G./282)空軍委員會ハ其ノ第六回會合(四月二十七日)以來第二十一回會合(六月八日)迄前後十六回ニ涉リ審議ヲ重ネ別ニ本問題審議ノ爲メ空軍委員會ノ設ケタル小分科會ノ會合ハ其間十二回ニ及ヒ六月八日一般委員會ニ對スル報告(Conf. D. 123. 1 Conf. D./C.A./347)ヲ議了セリ

第二、各 論

一、空軍委員會議事經過(一)

空軍委員會第六回會合(四月二十七日)

(一)議長ヨリ本項第一總說記載一般委員會決議(Conf. D./C.G./282)ニ基キ行ハルヘキ空軍委員會ノ審議ハ(イ)一般委員會決定三標準ニ適合スヘキ空軍兵器ノ何タルヤ及(ロ)右三標準カ當該兵器ニ對シ何ノ程度迄適合スルヤノ二點ヲ専門の見地ヨリ研究スルニアリテ右ハ勿論空軍委員會自身ニ於テ質的軍縮ニ關スル原則的決定ヲ行フカ爲メニ非スト述ヘ次テ各國委員ヨリ一般の意見ノ開陳ヲ爲シタル上「日」「英」「米」「獨」「伊」「蘇」「波」「白」「瑞西」「亞」及委員會「ビューロー」ヨリ成ル小分科會ヲ設ケ右小分科會ヲシテ各國提案(後記「獨」決議案ヲ含ム)ニ基キ空軍委員會ニ提出スヘキ討議基礎案ヲ作成セシムルコトトシタリ

(二)右會合中特ニ注意スヘキ發言左ノ如シ

(イ)我 方

四月二十六日海軍委員會會合ニ於テ航空母艦ヲ以テ一般委員會標準ニ適合スルモノト宣セルモノ數國ニ達セル處日本代表部ニ於テモ之ト同見解ヲ有シ同委員會四月二十七日會合ニ於テ其ノ意見ヲ開陳スルコトトナシオリ因テ本日ノ空軍委員會ニ於テハ特ニ且專ラ飛行機搭載ヲ任トスル處ノ航空母艦ハ其レ自體ニ於テ特ニ進攻的性質ヲ有スルニ非サルモ其ノ搭載スル飛行機ニ因リ前記一般委員會決定三標準ヲ具備スルニ至ルモノニシテ歸着甲板又ハ臺ヲ有スル軍艦ニ付テモ亦同シ因テ日本代表部ハ航空母艦並ニ歸着甲板又ハ臺ヲ有スル軍艦ニ搭載セララル飛行機ヲ以テ本標準ヲ具備スル空軍兵器ト認ムト宣シ海上航空兵力ヲ重視セルコトヲ示ス

(ロ)「伊」

特ニ進攻的ナル航空機トハ領域極メテ限定セラレ且重要都市カ空襲ニ暴露セラレ居ル國ノ人命、財産及工業ニ對シ損害

ヲ與ヘ得ルモノ及被攻撃國国防禦準備ヲ爲シツツアルニ際シ右防禦手段ヲ破壞セサル迄モ之ヲ危殆ナラシムルモノヲ指
ス之カ爲ニハ航空機ノ航續力ヲ制限スル要アリテ詳細ハ千九百三十二年四月三日附「伊」覺書中ニアリト述ヘ軍用機ノ
性能ヲ極メテ低キ點ニ限定セムトスル趣旨ヲ仄メカセリ

(六)「獨」

「一般委員會ヨリ廻付セラレタル問題ノ討議ハ「ヴェルサイユ」條約並ニ之ト類似ノ平和條約中ニ存スル特定兵器ノ廢止ニ關スル規定ニヨリ大ニ容易トナルヘシ千九百十九年特ニ進攻のナリト認メラレタルモノハ今日ニ於テモ依然進攻のニシテ殊ニ大戰以來驚異スヘキ進歩ヲ遂ケタル空軍兵器ニ付然リ

而テ爆撃機カ一般委員會決定ノ標準ニ適合スルコトニハ何人モ異論ナカルヘク又他ノ軍用機（驅逐機、偵察機）トテモ「ジュルサイユ」條約ニ於テ右爆撃機ト同様ノ取扱ヒヲ受ケ居ル點ヨリ空員委員會ハ軍用航空全部ヲ以テ前記三標準ニ合致スルモノナルコトヲ宣スヘシト述ヘ左ノ決議案ヲ提出セリ（Conf. D./C.A./11）

致スルモノナルコトヲ宣スヘシト述ヘ左ノ決議案ヲ提出セリ (Conf. D./C.A./11)

「空軍委員會ハ一般委員會ノ委囑ニ依リ空軍兵器ヲ左ノ三標準ニ基キ審査シタリ

(1) 特二進攻的ナル兵器如何

(2) 最モ國防破壊ニ有效ナル兵器如何又ハ

(3) 最モ一般市民ニ脅威ヲ與フル兵器如何

委員會ハ軍用航空全部及特ニ空中ヨリ投下セラルル一切ノ兵器ハ前記三種ニ屬スルモノナリト認ム」

斯ノ如ク「獨」ハ（１）軍用航空全部ヲ以テ特ニ進攻のナルモノナルコト（２）空中ヨリ投下セラルル兵器ハ特ニ右見地ヨリ取扱フヘキコト（３）舊敵國航空ニ對シ各平和條約及大使會議ノ加ヘラレタル制限ハ今ヤ舊敵國以外ノ自ラ受諾スヘキモノナルコトヲ宣明シ空軍委員會議中有ユル機會ニ於テ強ク前記諸點ヲ強調セリ

(二)「白」

「空軍委員會ノ任務ハ特定軍用機否場合ニヨリテハ軍用航空全部ノ廢止ヲ定ムルト共ニ先ツ軍用航空ノ何モノタルカヲ定ムルヲ要スヘシ」「ヴェルサイユ」條約第百九十八條軍用航空ノ定義存スルモ同條ハ技術の見地ヨリ見テ缺點多ク千九百二十二年及千九百二十六年ニ至リ始メテ「獨」ニ於テ廢止スヘキ軍用航空機ノ何タルカヲ決定スルヲ得タル次第ナルカ他方千九百二十九年國際航空會議ニ於テ「獨」代表自ラ軍用航空機ノ何タルカヲ左ノ如ク定義シタリ

「左ノ航空機ヲ軍用航空機ト見做ス

(a) 軍用機個別標ヲ有スルモノ

(b) 装甲、若ハ何等カノ方法ニヨル防禦施設アルカ又ハ砲、機關銃、魚雷、爆彈ノ如キ器材ヲ搭載スル爲ノ設備

アルカ又ハ照準器若クハ前記器材投下機ヲ有スルモノ

(c) 繰縦者又ハ乗員カ軍隊ニ屬シ且ツ右軍隊ノ爲ニ飛行スルヲ任務トスルモノヲ搭乘セシムルモノ

(d) 軍隊ニ屬スルモノ

“Sont considérés comme aéronefs militaires :

“a) Les aéronefs qui portent les marques d'identité militaires;

“b) Les aéronautes qui sont blindés ou protégés d'une façon quelconque ou munis de dispositifs pour recevoir du matériel de guerre quelconque, comme canons, mitrailleuses, torpilles, bombes, ou d'appareils de visée ou de jet pour du matériel de ce genre;

“ c) Les aéronautes dont les pilotes ou l'équipage sont des ressortissants d'une armée et commissionnés au vol pour ce but ;

"d) Les aéronefs qui font partie des forces militaires."

“The following shall be deemed to be military aircraft:

"(a) Aircraft which bear military identification marks;

“(b) Aircraft which are armoured or protected in any way or arranged to take any kind of weapon of war such

(c) Aircraft whose pilots or crew belong to an army and are detailed to fly for this purpose;
(d) Aircraft which form part of the military force."

二、空軍委員會小分科會（四月二十七日設置）議事經過

小分科會第一回會合（四月二十七日）

(二) 四月二十八日午後一時迄ニ各國代表部ヨリ四月二十二日一般委員會決定三標準ヲ參酌シ精確ナル提案ヲ爲サシメ空軍委員會幹部會ハ同日中ニ之ヲ整理シ印刷配付ス (Conf. D./C.A./12 參照)

尙我方主張ハ Conf. D./C.A./13 第八頁ニ詳細記載ス

小分科會第二回會合（四月二十九日）

「西」案ハ
小分科會
討議ノ基
礎タラム
トス

我々方海上空に航空機を飛ばすに
二つの問題がある。第一は燃料
の確保である。第二は燃料の運
搬である。燃料の確保は、燃料
の生産と消費のバランスをどう
取るかである。燃料の消費は、
燃料の生産と消費のバランスを
どう取るかである。燃料の生産
は、燃料の消費と生産のバランス
をどう取るかである。燃料の消
費は、燃料の生産と消費のバ
ランスをどう取るかである。燃
料の生産は、燃料の消費と生産
のバランスをどう取るかである。
燃料の消費は、燃料の生産と消
費のバランスをどう取るかであ
る。燃料の生産は、燃料の消費
と生産のバランスをどう取るか
である。燃料の消費は、燃料の
生産と消費のバランスをどう取
るかである。燃料の生産は、燃
料の消費と生産のバランスをど
う取るかである。燃料の消費は
、燃料の生産と消費のバランス
をどう取るかである。燃料の生
産は、燃料の消費と生産のバラ
ンスをどう取るかである。燃料
の消費は、燃料の生産と消費の
バランスをどう取るかである。燃
料の生産は、燃料の消費と生産
のバランスをどう取るかである。
燃料の消費は、燃料の生産と消
費のバランスをどう取るかであ
る。燃料の生産は、燃料の消費
と生産のバランスをどう取るか
である。燃料の消費は、燃料の
生産と消費のバランスをどう取
るかである。燃料の生産は、燃
料の消費と生産のバランスをど
う取るかである。燃料の消費は
、燃料の生産と消費のバランス
をどう取るかである。燃料の生
産は、燃料の消費と生産のバラ
ンスをどう取るかである。燃料
の消費は、燃料の生産と消費の
バランスをどう取るかである。燃
料の生産は、燃料の消費と生産
のバランスをどう取るかである。

(三) 其他「佛」「白」「蘇」「米」ヨリ夫々議事方法ニ付意見出テシカ結局空軍本委員會ヲシテ「西」案ヲ審査セシムルコトナク引續キ小分科會ニ於テ其ノ儘議事ヲ繼續スルコトトシ決定セリ

第三回會合（五月二日）

(一) 劈頭「伊」ハ前回會合ニ於テ數字提出ノ必要ヲ強調セルモ熟考ノ結果専門家小委員會ヲ組織シ各種飛行機ニ付ノ共通セル性能ヲ決定セシメ以テ今後ノ討議ニ便ナラシムル方可ナリトノ結論ニ達セリト披露セル處「佛」ハ軍用飛行機ト雖モ其ノ目標ノ如何ニヨリテ其ノ進攻性ノ程度ニ著シキ差ヲ生スルヲ以テ(註右標準の性能ヲ定ムルニ當リテハ之ヲ劃一簡單ナラシムヘカラストノ留保の注意ヲ述ヘタル上右専門家小委員會設置ニ同意ヲ表セシモ「白」「瑞西」「蘇」ハ議事進行ヲ遲滯セシムルモノナリトノ見地ヨリ其ノ設置ニ反對シ「白」ハ左ノ如キ提案ヲナセリ(Conf. D./C.A./Bureau 2)

代リ討議
ノ基礎ト

「特ニ進攻的ナル航空機左ノ如シ

(1) A 「キロメートル」ノ距離へB 「キログラム」ノ爆彈ヲ携行シ得ル航空機

左ノ性能ヲ備フル航空機ハ右機種ニ屬ス

自重C 「キログラム」ヲ超エ

馬力D馬力ヲ超エ

及ヒ

馬力ト翼面積ノ比率カ一定比率ニ至ラサルモノ

(2) 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

Les aéronefs les plus offensifs sont :

1) Les aéronefs capables de transporter : à A Kms.

B Kgs. de bombes

Doivent être considérés comme rentrant dans cette catégorie :

Les aéronefs dont :

Le poids à vide dépasse C Kgs,

La force motrice D c.v.,

et dont le rapport de la puissance motrice à la surface alaire est inférieur à une valeur déterminée.

2) 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

“The most offensive aeroplanes are :

(1) Aeroplanes capable of carrying : up to A kms.

B kg. of bombs

The following should be regarded as coming under this category :

Aeroplanes of which :

the tare weight exceeds C kg.

the power exceeds D h.p.

and the ratio between power and wing area is less than a specified value.

(2) 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

(註) 同一軍用機ニテモ城塞攻撃ト都市爆撃又ハ主力艦爆撃ト通商船破壊トニヨリ進攻性ノ程度ニ著キ差アリトス

(11) 然ルニ「獨」ハ軍用航空全部カ而シテ軍用航空ノミカ一般委員會決定三標準ニ適合ストノ立場ヨリ「航空機」(「エーアクラフト」「アエロネフ」)ナル語ノ使用ニ對シ強硬ニ反對シ「米」ヨリ(イ)軍用航空全部カ進攻的性質ヲ有ストノ原則ヲ認メ(ロ)次テ右性質ノ發揮ハ一ニ其ノ使用法如何ニ倚ルモノナルヲ以テ現存スル一切ノ軍用航空機及之ニ裝備シ得ル武裝ニ關スル一覽表ヲ作り(ハ)特ニ進攻的ナルモノト然ラサルモノトノ限界ハ之ヲ空軍委員會本會議ヲシテ決定セシムヘシト提セルカ議纏ラス結局「西」案ハ影ヲヒソメ「白」案ニ基キ討議ヲ續行スルコトシテ散會ス

小分科會第四回會合(五月三日)

我的航空機
ヲ決定ムヘ
キ標準極
メテ困難
ナルヲ指
摘ス

(1) 前記「白」提案(Conf. D/C.A./Bureau 2)ニ就キ討議ヲ開始セルカ佐藤全權ハ特ニ進攻的ナルモノト然ラサルモノトノ限界ノ劃一的決定ハ各國ノ地理的位置其他特殊事情並當該國民用航空發達ノ程度等ヲ考慮ニ入ルルヲ要スルヲ以テ極メテ困難ナリト信ス然レトモ右ハ勿論本小分科會ニ於ケル他代表部ノ討議ニ反對スルノ趣旨ニハ非スシテ日本代表部ニ於テ此種疑點ヲ抱懷スルモノナルコトヲ明瞭ニシ以テ本件討議ニ加ハルモノナリト述フ

(11) 次テ「白」提案中特ニ進攻的ナル航空機トシテ(1)ハアルモ(2)カ「ブランク」トナリ居ルハ如何ナル次第ナリヤトノ「獨」ノ疑義ニ對シ「白」ヨリ右ハ本小分科會ニ於テ一應討議ノ基礎トスルコトニ定マリタル「西」案(Conf. D/C.A./13 第三頁)ヲ基礎トシ(1)ヲ作り次テ(2)ニ及フ趣旨ニテ作成セルモノナリト説明セルカ「佛」ハ右「白」案ヲ以テ不完全ナリトシ飛行機ト飛行船ヲ區別シ前者ニ付テハ自重、後者ニ付テハ容積ヲ考慮スヘク飛行船ノ如キハ特

有效搭乗
決定スル
ノ單一機

「佛」ハ自重力好箇ノ標準ノ一タルハ之ヲ認ムルモ自重ノミヲ以テ足レリトスルハ考ヘモノ
 標準ニ對シテ
 立ノ端對
 飛ハ進
 攻的ナリ
 トシハ伊
 ハ然ラス
 トス

ニ進攻のナリト述ヘ(註一)「伊」ハ自重力好箇ノ標準ノ一タルハ之ヲ認ムルモ自重ノミヲ以テ足レリトスルハ考ヘモノ
 ナリ又飛行船ヲ特ニ進攻のナリトスル「佛」説ハ謬レリト反駁ス
 「獨」ハ本分科會ノ任務ハ兵器(「アルム」)ノ討議ニシテ兵器タラサル民用航空機ヲモ討議ニ加ヘムトスルハ普通自動車
 ヲモ兵器ナリト云フニ等シト同國從來ノ主張ヲ繰返シ(註二)討議混亂ニ陥リタルカ此ノ間「西」ハ註三ノ如キ數字ヲ提
 出シタリ (Conf. D/C.A./Bureau 6)

(註一) 佛案 (Conf. D/C.A./Bureau 5)

「最モ進攻のナル性質ヲ有スルモノト認メ得ヘキ航空機トハ最大距離ニ至リテ最モ有效ナル爆撃ヲ自ラ行ヒ得ルモ
 ノ即最大有效搭載量ヲ有シ得ルモノヲ云フ

航空機ノ最大有效搭載量ハ飛行船ニ付テハ容積、飛行機ニ關シテハ自重ニヨリ決定セラル

佛國代表部ハ右性能ヲ以テ一般委員會カ四月二十二日決議ニヨリ航空機比較ノ三要點トシテ定メタル標準トセムコ
 トヲ提議ス」

“Les aéronefs que l'on peut considérer comme présentant les caractères les plus offensifs sont ceux capables de
 l'action directe de bombardement la plus efficace, à la distance la plus grande, c'est-à-dire, capable d'apporter le maximum
 de charge utile.

La charge utile maximum des aéronefs étant déterminée par :

le volume pour les dirigeables
 le poids à vide pour les avions.

La délégation française propose de prendre ces caractéristiques comme critère pour comparer les aéronefs aux trois
 points de vue fixés par la résolution de la Commission générale du 22 avril.”

“The aircraft which may be regarded as presenting the most offensive features are those capable of the most

effective direct action of bombardment at the greatest distance, that is to say, capable of carrying the maximum useful
 load.

The maximum useful load of aircraft being determined by :

volume in the case of dirigibles

tare weight in the case of aeroplanes.

The French Delegation proposes to take these characteristics as a criterion for comparing aircraft from the three
 points of view laid down in the General Commission's resolution of April 22nd.”

(註一) 「獨」提案 (Conf. D/C.A./Bureau 3)

(1) 一切ノ軍用航空機(註)ハ其ノ使用方法ニ從ヒ左ノ性質ヲ有スヘシ

(a) 特ニ進攻のナル性質

(b) 國防破壊最大ノ效力

(c) 非戦闘員ニ對スル最大ノ脅威

右ハ航空機ニ對シ空中又ハ陸上ノ防禦手段ヲ有セサル國ニ適用セララルコト言フ俟タス

(2) 前項ヲ考慮シ軍用航空器材ヲ左ノ如ク類別ス

(a) 上空ヨリ投下セラルヘキ一切ノ兵器

(b) 爆撃航空機(追テ定義ス)

(c) 近距離及遠距離偵察航空機(同)

(d) 驅逐機(同)

(註) 別ニ軍用航空機ノ定義ヲ掲ク

“Le Sous-Comité de la Commission aérienne estime

1^o—que tous les aéronefs militaires(*) pourront avoir selon leur utilisation

- a) un caractère spécifiquement offensif,
- b) le plus d'efficacité contre la défense nationale,
- c) être le plus menaçant contre la population civile.

Ceci s'applique à fortiori aux pays n'ayant aucun moyen de défense contre aéronefs ni aérien ni terrestre.

2^o—que, en tenant compte du numéro 1), la classification du matériel de l'aéronautique militaire est la suivante :

- a) moyens de combat de toute espèce destinés à être lancés du haut des airs ;
- b) aéronefs de bombardement—définition réservée ;
- c) aéronefs d'observation et de reconnaissance—définition réservée ;
- d) avions de chasse—définition réservée.

“The Sub-Committee of the Air Commission considers

1. that according to the manner in which they are employed all military aircraft (†) may be
a) of a specifically offensive character,

(*) On entend par aéronefs militaires tous les aéronefs (par exemple avions, dirigeables, ballons libres et captifs)

1^o—qui sont identifiés, par des marques d'identification, comme aéronefs militaires, ou

2^o—qui ont des spécifications militaires, à savoir des installations pour recevoir des engins de guerre de toute espèce, tels que canons, mitrailleuses, torpilles, bombes ou des instruments de visée ou de lancement pour tels engins, ou

3^o—qui sont fabriqués pour les forces armées d'un pays, ou

4^o—qui sont montés par un pilote militaire, ou un équipage militaire commandés à cet effet, ou

5^o—qui font partie de l'équipement d'une force armée ou sont réquisitionnés par elle.

(†) Military aircraft shall be understood to mean aircraft (for example, aeroplanes, dirigibles and free or captive balloons)

1. which can be identified by identification marks as military aircraft ; or

2. which possess military characteristics, viz., installations for carrying weapons of any kind, such as guns, machine guns, torpedoes or bombs, or or instruments for aiming or launching such weapons ; or

3. which are manufactured for the armed forces of any country ; or

4. which are manned by a military pilot or a military crew specially employed for the purpose ; or

5. which form part of the equipment of any armed force or are requisitioned by such force.

- b) most efficacious against national defence,
- c) most threatening to the civilian population.

This applies a fortiori to countries which have no means of defence against aircraft, either air or land defences.

2. that in view of No 1 military aviation material should be classified as follows :

- a) means of warfare of any kind intended to be launched from the air ;
- b) bombing aircraft—definition reserved ;
- c) observation and scouting aeroplanes—definition reserved ;
- d) chasing aeroplanes—definition reserved.

(註三)「西」案 (Conf. D./C.A./Bureau 6)

「特ニ進攻的ナル航空機左ノ如シ」

(1) 千疋ノ爆彈ヲ三〇〇基米輸送シ得ルモノ

(略)

飛行機ハ高度一、〇〇〇米時速少クトモ一五〇基米ニシテ出發點ニ歸着シ得ルモノト見做ス

右機種ニ入ルモノノ性能左ノ如シ

自重、、、、三、〇〇〇ヲ超ユルモノ

馬力、、、、五〇〇馬力ヲ超ユルモノ

馬力ト翼面積トノ比率カ一平方米ニ付一〇馬力ヲ超ヘサルモノ

(略)

右ノ如キ「爆撃」航空機ノ性能左ノ如シ

總重量

五、〇〇〇疋

自重

三、〇〇〇疋

爆彈重量	一、〇〇〇 瓩
燃料	五〇〇 瓩
乘員及武裝	五〇〇 瓩
翼面積	五〇 平方米
馬力	五〇〇 馬力
地上速度	時速一九〇 基米
高度千米ニ於ケル速力	時速一五〇 基米
全速航續時間	四時間
航續距離	六〇〇 基米
最低時速（全積荷）	時速一一〇 基米
最低時速（爆彈及燃料ヲ搭載セシメシ）	九二 基米」

Les aéronefs les plus offensifs sont :

1) Les aéronefs capables de transporter : à 300 kms.

1000 kgs. de bombes.

En évaluant à 300 kms. la largeur moyenne des zones de l'avant additionnées des deux armées en présence, un tel aéronef qui partirait de la zone propre de l'arrière, pourrait traverser en vol les deux zones des armées et lancer une tonne d'explosifs dans l'intérieur du pays ennemi. Cette quantité d'explosif serait suffisante pour détruire même un ouvrage blindé de fortification, couler un bateau ou écrouler une maison.

L'avion est censé voler à 1000 m. de hauteur avec une vitesse propre de 150 kms. à l'heure, au moins, et devant atterrir à son point de départ.

Doivent être considérées comme rentrant dans cette catégorie :

Les aéronefs dont :

le poids à vide dépasse 3000 kgs.

la puissance motrice dépasse 500 C.V.

et dont le rapport de la puissance motrice à la surface alaire est inférieur à 10 chevaux par mètre carré.

Un avion avec 3000 kgs. de poids à vide peut avoir normalement un poids total de 5 tonnes, dont une tonne de bombes, 500 kgs. d'équipage et armement et 500 kgs. de combustibles, huile et eau.

S'il est muni d'un moteur de 500 C.V. et si ses ailes sont de très bonne (mais pas extraordinaire) qualité sustentatrice et de 50 m² de surface portante, un tel appareil pourra voler à 1000 m. de hauteur à 150 kms. à l'heure, à plein gaz, pendant 4 heures au moins, en parcourant 600 kms. aller et retour, sans compter l'influence du vent ni l'allègement de l'appareil dû à la consommation d'essence et au lancement des bombes.

Les caractéristiques d'un tel appareil "de bombardement" seraient :

Poids total	5000 kgs.
Poids à vide	3000 "
Poids des bombes	1000 "
Essence.....	500 "
Equipeage et armement	500 "
Surface alaire	50 mètres carrés
Puissance.....	500 chevaux
Vitesse au sol	150 kms./h.
Vitesse à 1000 m. de hauteur.....	150 "
Autonomie à pleine vitesse	4 heures
Rayon d'action	600 kms.
Vitesse minima à pleine charge	110 kms./h.
Vitesse minima sans bombes ni essence	92 kms./h.

Etane donné qu'un avion qui pourrait accomplir un tel bombardement aurait besoin d'avoir au moins 50 mètres carrés de surface alaire et que la surface alaire est la caractéristique la plus facile à mesurer, l'on pourrait tout simplement considérer comme avion de bombardement, ou qui peut être employé comme tel, tout avion qui aurait plus de 50 mètres carrés de surface alaire.

(四)「英」ハ註四記載提案ヲナシ且進攻の性質ニ付テハ數箇ノ段階ヲ設クヘシトセル處「瑞西」「白」「亞」等ハ右提案ヲ以テ討議ヲ本小分科會開始ノ當時ノ事態ニ逆歸セシムルモノナリト反對シ「佛」ハ大體ニ於テ之ヲ支持セルモ未決ノ儘次回ニ持越スコトナレリ

(註四)「英」案 (Conf. D./C.A./Bureau 4)

「英」案ノ
趣旨ハ其
中ノ後報
告ニ採擇
セラル

「小分科會ハ一切ノ航空機ハ進攻の目的ノ爲ニ使用セラルルト同時ニ防禦の用途ニモ使用セラルルニ因リ航空機ノ進攻の性質ハ全ク其ノ使用方法ノ如何ニヨリテ定マルモノナルコトヲ認ム

小分科會ハ一般ニ

(1) 特ニ進攻の性質ヲ有シ、國防破壊ニ最モ有效ニシテ又ハ一般市民ニ對シ最モ脅威ヲ與フル航空機ハ重量及航續力共ニ大ナル航空機ナルコト及

(2) 一航空機ノ發揮シ得ル進攻の適性ノ程度ハ其ノ有效搭載量ニヨリ定マル

“The Sub-Committee is of opinion that all aircraft can be used offensively and that all can likewise be used defensively; hence the offensive character of aircraft depends entirely upon the use made of them.

The Sub-Committee considers that in general (1) those aircraft which may be regarded as “the most specifically offensive”, as being “the most efficacious against national defence” or as being “most threatening to civilians” are aircraft of heavy tonnage and having a wide radius of action” and (2) that in general the degree of potential offensiveness of any aircraft is a function of the useful load it can carry.

“Le Sous Comité est d'avis que tous les aéronefs peuvent être utilisés pour des fins offensives et que, de même,

ils peuvent tous être utilisés pour des fins défensives: il s'ensuit que le caractère offensif des aéronefs dépend entièrement de l'usage qui en est fait.

Le Sous-Comité estime qu'en général: 1) les aéronefs qui peuvent être considérés comme ayant “les caractères les plus spécifiquement offensifs”, comme ayant “le plus d'efficacité contre la défense nationale” ou comme étant “les plus menaçants pour les populations civiles” sont les aéronefs d'un lourd tonnage et qui ont un vaste rayon d'action; 2) le degré de potentiel offensif d'un aéronef est fonction de la charge utile qu'il peut transporter.”

小分科會第五回會合(五月四日)

(一)「獨」ハ技術的「フーミテラ」ニヨリ特ニ進攻のナルモノ等ト然ラサルモノトノ限界ヲ求メトスルハ至難ナルニ因リ之ヲ放棄シ四月二十七日第六回空軍委員會ニ提出セル「獨」案 (Conf. D./C.A./11) ヲ討議ノ基礎トスヘク殊ニ軍用航空ヲ有セサル同國トシテハ右限界ハ無意義ナリト述ヘ報告者(典)ハ本小分科會ノ議事複雜ヲ極メタルモ現在ニテハ大體原則的論議モ盡サレタリト認メラルルカ故ニ何等結論ヲ付スルコトナク今日迄ノ小分科會討議經過ヲ空軍本委員會ニ報告スヘシト提案ヲ爲セルモ「佛」ハ此際標準ヲ定メスルハ今後ノ議論ハ徒ラニ紛糾スルノミナリトテ第四回會合ノ際提示セル自國案 (Conf. D./C.A./Bureau 5) ノ採擇ヲ主張シ又「英」亦前日ノ主張ヲ敷衍説明セリ

「英」案
「瑞西」
修正ヲ加
ヘテ討議
ノ基礎
トス
「獨」案
「瑞西」
修正ヲ加
ヘテ討議
ノ基礎
トス
「佛」案
「瑞西」
修正ヲ加
ヘテ討議
ノ基礎
トス

(二) 右ニ對シ「瑞西」ハ「英」提案 (Conf. D./C.A./Bureau 4) 第一項中「一切ノ航空機ハ或程度迄」ト「或程度迄」ナル語ヲ挿入シ又「因テ航空機ノ進攻の性質ハ全ク」トアリシヲ「主トシテ」ト修正シ第二項ノ標準ハ自重、馬力及翼面積ノ三トナシタル上之ヲ討議ノ基礎トスヘシト提議シ「白」之ヲ支持シ「英」ハ第一項ニ關スル右「瑞西」修正案ヲ受諾セリ

(三)「獨」ハ航空機ナル一般の用語ハ民用航空機ヲモ包含セシムルヲ以テ之ニ代フルニ「軍用航空機及一切ノ兵器投下裝置ヲ有スル航空機」ト修正スヘク然ラスムハ今日會合當初報告者提言ノ如ク本小分科會討議ヲ此ノ儘空軍委員會ニ整理報告スルニ止ムルカ又ハ「獨」提案 (Conf. D./C.A./11) ニ付直チニ決ヲ採リ其ノ小數意見ナルコトヲ明ニスヘシト強硬

我方右
「英」案ニ
付決ヲ採
ルコトヲ
提ス
我方民用
航空ヲ考
慮ニ入レ
サルカ如
キ案ヲ受
諾シ得ス
トス

小分科會第六回會合（五月五日午前）

- (一) 議長(西)ハ「瑞西」案(註)ニ基キ左ノ如キ順序ニテ議事ヲ進メ度シト提議ス
- (イ) 先ツ一切ノ航空機ハ進攻的及防禦的性質アリトノ原則ヲ認ム
- (ロ) 一定ノ標準ニヨリ進攻性ノ程度ヲ定ムトノ方針ヲ認ム
- (ハ) 次ヲ右標準ノ何タルカヲ定メ從テ之ヨリ來ル程度ヲ分ツ
- (ニ) 前記標準ニ關スル數字ヲ定ム

二) 然ルニ「伊」ハ航空機ハ悉ク進攻のニシテ特ニ進攻のナル航空機ヲ定ムル標準ヲ決定ハ技術のニハ不可能ナリトノ前回會合ニ際シ述ヘタル處ヲ再說シ從テ

(イ) 國境外ニ至リ爆彈ヲ投下シ得ルモノヲ進攻的

(口) 軍事上ノ中心地ニ攻撃ヲ加ヘ得ルモノヲ國防破壊ニ有效

(ハ) 主要都市ニ爆撃ヲ加ヘ得ルモノヲ以テ一般市民ニ最脅威ヲ與フルモノ

トスヘク一定量ノ爆彈即有效搭載量ヲ一定ノ高度（五〇〇米トス）ニ於テ一定距離（一五〇基米）迄携行シ得ルモノヲ以テ右ニ適合スルモノト認ムヘシ要スルニ本點ニ付キ高キ限界ヲ認ムルハ技術的ニ不可能ニシテ低キ限界決定ノミ可能ナリトテ自重六五〇瓩、馬力二〇〇馬力、翼面積一二平方米半ヲ提議ス

(註) 瑞西案 (Conf. D./C.A./Bureau 7)

(1) 一切ノ航空機ハ或程度迄進攻的及防禦的目的ニ使用セラルルヲ得

航空機ノ進攻的性質ハ主トシテ其ノ使用方法如何ニヨリテ定マル

(2) 航空機ノ發揮シ得ル進攻的適性ハ其ノ自重、馬力及馬力ト翼面積トノ比率ニヨリ定マル

“1) Tous les aéronefs peuvent être utilisés dans une certaine mesure pour des fins offensives et des fins défensives,

Le caractère offensif des aéronefs dépend en grande partie de leur emploi.

2) Les possibilités offensives qu'offrent les rétrojets sont fonction de leur poids à vide, de la force motrice et du rapport de la force motrice à la surface alaire".

"1) All aircraft can be used to some extent for offensive and defensive purposes.

2) The offensive possibilities offered by aircraft depend on their unladen weight, their power and the ratio between power and wing surface."

(三) 次テ「瑞西」ノ前記(註)所載自國案ノ(3)トシテ空中ヨリ投下セラルル一切ノ兵器ハ專ラ進攻のナルコトヲ揭ケ又(4)トシテ特ニ進攻のナル航空機ト認メラルルモノヲ各代表部ヨリ提出セシメ其ノ表ヲ作ルヘシト提出セル處「航空機」ナル總括の用語使用ニ對スル「獨」側ノ強キ反對及航空機ハ防禦の目的ノ爲ニモ使用シ得ルモノナリトノ原則ヲ否認セムトスル「伊」ノ主張ノ爲議論再ヒ混亂ス

(四) 其ノ間「獨」ハ軍、用、航、空、全部ヲ以テ進攻的ナリトスル自國主張ハ一切ノ場合ニ於テ民、用、航、空、ヲ除外セムトスルノ趣旨ニハ非スシテ「獨」ハ軍事上ノ目的ノ爲メニ徵發セラレタル民、用、機、ハ之ヲ考慮スルノ用意アリト自國ノ立場ヲ釋明シ之ト同時ニ軍用航空機及兵器投下裝置ヲ有スル航空機ナル用語ノ使用ヲ提議ス

(五) 他方「米」ハ「一定時期ニ於テ軍事上ノ管理ヲ受クル一切ノ航空機」ナル用語ヲ又「佛」ハ「進攻の用途ニ充テラルル

小分科會第七回會合（五月五日午後）

議ス

7
A、
進攻性

I

得ヲルルセラシムル二的使用的

(2) 航空機ノ進攻的性質ハ主トシテ其ノ使用方法ノ如何ニヨリ定マル

飛行機及飛行船ノ發揮シ得ル進攻的適性ハ其ノ自重(註)馬力及馬力ト

II 飛行機及飛行船ノ發揮シ得ル進攻的適性ハ其ノ自重(註)馬力及馬力ト翼面積トノ比率ニヨリ定マル

III
空中ヨリ投下セラルヘク製造セラレタル一切ノ兵器ハ専ラ進攻的ナリ

IV
各代表部ヨリ提示セラレタル左ノ航空機ハ専ラ進攻的ナリ

表

.....

(註) 飛行機ニ關シテハ自重、飛行船ニ關シテハ容積トス

A. *Offensivité*

I. 1) Tous les aéronefs peuvent être utilisés dans une certaine mesure pour des fins offensives sans préjudger leurs fins défensives.

2) Le caractère offensif des aéronaves dépend en grande partie de leur emploi.

II. Les possibilités offensives qu'offrent les avions et dirigeables sont fonction de leur poids à vide,^{*)} de la force motrice et du rapport de la force motrice à la surface alaire.

III. Sont essentiellement offensifs les moyens de combat de toute espèce destinés à être lancés du haut des airs.

IV. Sont essentiellement offensifs les aéronefs définis comme suit par les délégations :

Tableau

A. Offensiveness

I. 1) All aircraft can be used to some extent for offensive purposes without prejudice to their defensive purposes.

2) The offensive character of aircraft largely depends on their use.

II. The offensive possibilities offered by aircraft and dirigibles depend on their unladen weight(^o), their power and the ratio between power and wing area.

III. Means of warfare of every kind intended to be launched from the air are essentially offensive.

IV. The aircraft defined by the delegations as follows are essentially offensive:

Table

*) (poids à vide pour les avions, volume pour les dirigeables).

(c) (Unladen weight in the case of aircraft, volume in the case of dirigibles.)

(二)「佛」ハ「アルママン、アエリアン」ノ定義ヲ右壹ノ(2)ニ設クルコトトシ其ノ定義トシテハ軍縮準備委員會第一小委員會報告書第四十九頁乃至第五十一頁當該項ヲ採用スヘシト提議セル處「獨」ハ右ハ民用航空ヲ本用語中ニ含メ

シムルモノナルヲ以テ賛成スルヲ得スト酬ヒタルヲ以テ「英」ハ小分科會報告中ニ「民用航空ハ軍用ニ轉用シ得ルコト從テ進攻の目的ノ爲メニ使用シ得」ルコトヲ明記センコトヲ提議シ我方之ヲ支持ス

(三) 次テ「伊」カ午前中ニ述ヘタル處ヲ再說セルヲ切掛ケトシ議論紛糾シタルニ因リ議長(西)ハ前記「英」案ヲ左ノ如ク修正シテハ如何ト提議ス

「小分科會ハ民用航空ハ軍用上且進攻の用途ニ充テ得ルコトヲ合併セテ茲ニ明記ス」

“Le Sous-Comité rappelle aussi que l'aéronautique civile peut être adaptée à des usages militaires et offensifs”

(四) 右ニ對シ「蘇」ハ「民用航空中或種ノ機ハ、ト修正スヘシト提議シ「獨」モ

「小分科會ハ軍用上ノ用途ニ充テラレタル民用航空機ハ進攻の性質ヲ有シ得」

トナスヘシト修正案ヲ出セリ

(五) 「蘇」ハ右「獨」修正案ヲ民用航空機ノ中軍用上ノ用途ニ充テラレタルモノトナスコト又「佛」ハ右「獨」修正案後段ヲ「、、、有シ得ルコトアルヘシ」ト改メムコト他方議長ハ「軍用上ノ用途ニ充ツルヲ得ル民用航空機ハ、、、ト修正方提議セリ

(六) 於茲「獨」ハ前記各種修正意見ヲモ參酌シ左ノ案ヲ出シ其ノ採擇ヲ見スムハ留保ノ外ナシトス

「小分科會ハ軍用上ノ目的ノ爲メニ建設セラレタル民用航空機ハ進攻の性質ヲ有シ得ヘキコトヲ明記ス」

“Le sus-Comité rappelle que les aéronautes civils construits pour des buts militaires peuvent avoir un caractère offensif”

(七) 修正意見ハ右ニテモ未タ終リヲ告ケス「米」モ左ノ提案ヲナセリ

「小分科會ハ特定民用航空機ハ軍用上ノ目的ノ爲メニ特定改造ヲ加ヘラルルニ於テハ、國ノ空軍々備ノ一部分ヲ構成シ得ルコトヲ明記ス」

“Le sous-comité rappelle que certains types d'appareils de l'aéronautique civile peuvent constituer un facteur des armements aériens d'un pays après certaine adaptation à des fins militaires”

(八) 我方ハ「特定改造ヲ加ヘラルルニ於テハ」ナル語ノ削除ヲ主張シ「波」モ之ニ贊ス

(九) 「伊」ハ更ニ「航空機(アルムマン、アエリアン)ハ爆彈ヲ搭載シ國境外ニ飛行シ得ルトキ特ニ進攻のナリ」ト提案シ議長ハ「航空機(アエロネフ)ハ有效ニ爆撃ヲ加フルコトヲ得ル場合ニ於テ特ニ進攻のナリ」トノ對案ヲ出シタルカ「米」ハ國境ヲ越ユルトノ觀念ハ陸境國ノ場合ニハ然ルヘキモ海洋ニ圍マレタル國ニ付テハ不可ナルヲ以テ國境ヲ越エ他國ノ領域ニ至ルトノ觀念ヲ入ルルヲ要スト述フ斯クノ如ク議ノ盡クル處ヲ知ラサリシヲ以テ本會合席上ニ於テ具體案ヲ提出シタル「獨」「蘇」「佛」「伊」四國ニ於テ次回會合迄ニ「瑞西」案(Conf. D/C.A./Bureau 8)ノ式ノ代案ヲ起草スルコトトセリ

小分科會第八回會合(五月六日午前)

(一) 劈頭「米」ハ一國ノ空軍々備使用ノ態様ハ其ノ地理的位置ニヨリ影響セララルコト大ナリト「米」代表部ノ見解ナルニ付テハ此ノ點何等カノ形式ニヨリ報告中ニ明ニセラレタク又進攻のナル「エア、アーマメント」中ニ飛行船ヲモ包含セシムル趣旨ナルニ於テハ技術の見地ヨリ留保スト述ヘタル處報告者(典)ハ飛行船ハ包含セラレ居レリト答ヘ小分科會ハ「瑞西」案(Conf. D/C.A./Bureau 8)第二點即標準的性能ニ關スル「蘇獨佛伊」案(Conf. D/C.A./Bureau 9)ヲ基礎トシテ討議ニ入レリ該案左ノ如シ

「最も進攻のナリ性質ヲ有スト認ムヘキ航空機(アルムマン、アエリアン)トハ軍事又ハ非軍事目標ニ對スル一切ノ兵器ノ投下ニヨリ直接ニ最も有效ナル行動ヲナシ得ルモノヲ云フ
單一航空機ノ進攻の適性ハ其ノ有效投載量ニ定マル」

「米」ハ一國ノ空軍々備使用ノ態様ハ其ノ地理的位置ニヨリ影響セララルコト大ナリト「米」代表部ノ見解ナルニ付テハ此ノ點何等カノ形式ニヨリ報告中ニ明ニセラレタク又進攻のナル「エア、アーマメント」中ニ飛行船ヲモ包含セシムル趣旨ナルニ於テハ技術の見地ヨリ留保スト述ヘタル處報告者(典)ハ飛行船ハ包含セラレ居レリト答ヘ小分科會ハ「瑞西」案(Conf. D/C.A./Bureau 8)第二點即標準的性能ニ關スル「蘇獨佛伊」案(Conf. D/C.A./Bureau 9)ヲ基礎トシテ討議ニ入レリ該案左ノ如シ

“Les armements aériens que l'on peut considérer comme ayant le caractère le plus offensif sont ceux capables de l'action directe la plus efficace par le lancement des moyens de combat de toute espèce, dirigés contre des buts militaires ou civils.

La capacité offensive d'un aéronef faisant partie de ces armements et considère isolément est fonction de sa charge utile.”

“The air armaments which can be regarded as presenting the most offensive character are those capable of the most effective direct action by the launching of means of warfare of any kind directed against military or civil objectives.

The offensive capacity of an aircraft forming part of those armaments and considered individually depends on its useful load.”

(一) 右ニ關シ大勢有效搭載量ヲ以テ標準的性能トナスコトニ傾キタルモ之カ決定ニ際シ「西」ハ翼面積ニ關スル提案 (Conf. D/C.A./Bureau 11) ヲ「伊」ハ自重、馬力及馬力ト翼面積トノ比率ヲ「露」ハ飛行機ニ付テハ「伊」ト同様ナルモ飛行船ニ付テハ容積ヲ「佛」ハ同國從來ノ主張タル自重説ヲ説フ

「伊」議事
進行振
ナ調整
ス

(二) 次テ「伊」ハ議事進行ニ關シ發言シ(イ)有效搭載量ハ數ケノ要素ニヨリ定マルコトヲ認メ次テ(ロ)右要素ノ何タルカラ定メ最後ニ(ハ)具體的數字ヲ考慮スヘシト提議シ結局其ノ通リトナル

(四) 「波」ハ前記「佛」案即自重標準説ニ贊シタルカ「伊」ハ更ニ左ノ如キ具體案ヲ提出セリ

「技術的進歩ノ一定段階及飛行機ノ一定高度ニ於ケル有效搭載量ハ自重、翼面積及右高度ニ於ケル馬力ニヨリ定マル」

(五) 右ニ對シ「佛」モ左ノ對案ヲ出セリ

「航空機ノ有效搭載量ハ多數ノ變數(ヴァリアブル)ニヨリテ定マル、右變數トシテ飛行機ニ付テハ自重、馬力及

「英」ハ具
體的數字
ノ取扱ニ
關シ常ニ
體面重シ
ス應度チ
ナナル持

翼面積飛行船ニ關シテハ容積及馬力ヲ考究スルヲ適當トス」

(六) 「英」「露」ハ「佛」案ニ贊シ「伊」モ讓歩シ大勢「佛」案採擇ニ決シタルカ同時ニ「英」ハ右諸性能ニ關スル精確ナル計算換言セハ具體的數字ノ決定ハ困難ナル旨ヲ報告中ニ記錄セムコトヲ求メタリ

小分科會第九回會合(五月六日午後)

(一) 「英」ハ午前會合散會ニ先テ述ヘタル處ニ言及シ「佛」案中ニ「之等要素(自重等ヲ指ス)ノ精確ナル決定ニハ相當ノ困難ヲ伴フ」トノ趣旨ヲ明記スヘキコトヲ主張シタル處「伊」ハ「英」案ヲ更ニ左ノ如ク補足スヘシト提案ス

「、、、殊ニ技術上ノ進歩ヲ考慮スルニ於テ然ルカ故ニ合意ニヨル「フォーミュラ」ヲ採用セサルヘカラス」

(二) 次テ「西」ハ前顯第八回會合(二)所載自國ノ主張 (Conf. D/C.A./Bureau 11) ヲ改メテ爲セル處ヨリ議論ハ又々逆歸ノ體ヲ呈シ「佛」ハ出發點ニ於ケル全重量ノミヲ「白」ハ自重、馬力及馬力ト翼面積ノ比ノミヲ採用セムコトヲ提議シ右ニ關シ「獨」ハ「佛」説ノ如ク單一標準ヲ以テスルハ不足ナリト駁セリ反之「英」ハ特ニ其ノ何タルヤハ必シモ之ヲ固執セサルモ標準ハ一タルヘシト「佛」案ヲ間接ニ支持シ結局表決ニ付シタル處(イ)飛行機ニ關シテ自重(全會一致ニテ採擇)馬力(贊成九、反對四、我方ハ後者ニ屬ス)馬力ト翼面積トノ比率(同前)ノ三ヲ(ロ)飛行船ニ付テハ容積ト馬力トノ二ヲ(我方贊成)採擇ス

自重ハ全
會一致ニ
認メラ
ルデ

(三) 於茲「英」ハ進攻的適性ノ程度ハ前掲標準ニヨリ定マルコトスルニ異議ナキモ飛行機ニ付テハ自重、飛行船ニ關シテハ容積ヲ主タル標準トシ他ハ隨伴的標準トナスヘキコトヲ一般委員會ニ報告スヘキコトヲ求メタルモ固執スルコトナク後ニ撤回セリ

(四) 「瑞西」案 (Conf. D/C.A./Bureau 8) ヲ討議ノ基礎トシ右ノ如キ複雑ナル討議ノ末五月六日午後迄ニ到達シ得タル結果左ノ如シ (Conf. D/C.A./Bureau 10)

「A 進攻性、」

I

(1) 一切ノ航空機（アルママン、アエリアン）ハ其ノ防禦的目的ヲ留保シ（註一）或程度迄進攻的目的ニ使用セラ
ルヲ得

(2) 航空機ノ進攻的性質ハ主トシテ其ノ使用方法ノ如何ニヨリ定マル

(3) 小分科會ハ民用航空機中特定ノモノハ軍事上ノ目的ノ爲メニ改造ヲ加ヘラルルニ於テハ（註二）國（註三）ノ空
軍々備ノ一部分ヲ構成シ得ルモノナルコトヲ明記ス

II 特ニ進攻的ナル性質ヲ有スト認ムヘキ航空機（アルママン、アエリアン）トハ軍事又ハ非軍事目標ニ對スル一切
ノ兵器ノ投下ニヨリ直接ニ最モ有效ナル行動ヲナシ得ルモノヲ云フ

單一航空機ノ進攻的適性ハ其ノ有效搭載量ニヨリ定マル

III 航空機ノ有效搭載量ハ多數ノ變數ニヨリ定マル、右變數トシテ飛行機ニハ自重、馬力及翼面積、飛行船ニ關シテ
ハ容積及馬力ヲ考究スルヲ適當トス

（註一）「伊」「其ノ防禦的目的ヲ留保」ナル字句ヲ除キタル部分ニ對シ同意ス

（註二）我方及「波」ハ「軍事上ノ目的ノ爲メニスル改善ヲ加ヘラルルニ於テハ」ナル語ノ削除ヲ主張ス

（註三）「獨」ハ「空軍々備ヲ有スル國」ト修正附加方ヲ主張ス

小分科會
討論ニ漸
ク目録附

(五) 尙本會合ニ於テ今後前記 (Conf. D./C.A./Bureau 10/3) ノIノ(1)等ト云フ場合ニIノ(a)ト稱スルコトトシ討
議ヲ再開セルカIノ(a)ニハ伊太利ノ留保ノ外異議ナク(b)ニ移レル處「蘇」ハ航空機ノ進攻的性質ハ其ノ使用方
ノ如何ニヨリ定マルモノニハ非スシテ其ノ構造如何ニヨリテ定マルモノナリト執拗ニ主張セシヲ以テ議長ハ左ノ案ヲ示
セルモ「蘇」ハ依然「構造」ナル語ノ挿入ヲ主張ス

「航空機カ其ノ使用方法ニヨリテ有シ得ル進攻的性質ト關係ナク航空機ノ進攻的適性ハ本小分科會カ左ニ研究セル性
能中ノ若干ニヨリ定マル」

(六) 次テIVトシテ爆撃行爲ニ關スル項ヲ設クルコトトシ議長(西)ハ第七回會合記事(一)所載「瑞西」案 (Conf. D./
C.A./Bureau 8)ノIIIヲ討議ノ基礎トセルカ米ハ特ニ新項ヲ設クルコトナク前新「テキスト」(Conf. D./C.A./Bureau 10) III
ノ適當ナル箇所ニ入ルレハ足レリトシ「佛」「伊」之ニ贊セルモ「獨」ハ獨立ナル項ニ此ノ種事項ヲ記スヘシト強ク主
張シ他方「佛」ハ自國領域侵入軍ニ對スル爆撃行爲ハ之ヲ進攻的行爲ト見ルヘキニ非ス其ノ趣旨ノ修正ヲ加フヘシト述
ヘタルモ未決ノ儘次回ニ讓レリ

小分科會第十回會合（五月九日）

「米」ハ小
分科會討
議結果ヲ
蒐録セル
一方案ヲ
提出シテ
討論提
出ナル

(1) 「米」ハ新案 (Conf. D./C.A./Bureau 13) ヲ披露シ右ハ今日迄本小分科會ニ於テ行ハレタル討議ノ結果ヲ蒐録セル
モノニシテ新シキ案文ハ「米」ノ留保ヲ避クル趣旨ヨリ同案IIノ(b)末段ニ「其ノ目的物到達ノ適性」ナル語ヲ附加
セルニ過キスト説明シ「佛」「英」「典」等何レモ「米」案ハ從來討議ノ結果ヲ收録セルニ過キサルノミナラス且議事進
行上有益ナレハ採擇スヘシト述フ

(二) 我方ハ最初「西」案 (Conf. D./C.A./13 第八頁) ニアリシカ如ク三群ニ分ツテ論スヘキヲ信シ居ルモノナルカ本小
分科會ノ大勢「米」案ヲ基礎トスルニ傾クニ於テハ異議ナク只日本代表部ハ其ノ既ニ言及シ置キタル海上航空兵力ニ付
キ右「米」案ニ關聯シ自國ノ見解ヲ述フヘキ機會ヲ有シタシト述ヘ議長之ヲ了承シ直ニ「米」案IIニ付キ討議ヲ開始
ス

(三) IIノ(a)ニ關シ「英」ハ本項ノ存置ヲ以テ特ニ必要ト認メ居ラサルモ小分科會ノ大勢ノ力保持ヲ可トスルニ於テハ
國防ノ語ヲ國防上ノ施設及組織ト改メラレ度シト述ヘ又「伊」ハ「空中ヨリ投下セラルル爲メニ作製セラレタル一切ノ
兵器ハ特ニ進攻的ニシテ國防破壊ニ關シ最モ有效ナルノミナラス其ノ性能ノ程度ニヨリ國防機關ノ集中及使用ヲ遲滯又

我方「米」
案ヲ討論
スルニ異
議ナキモ
議事進行
上ハ航空
兵力ニ關
スル主張
主シテ我
方ニ對シ
注意シト
ス

IIノ(一)
ノ討議

「佛」質問
集ノ提出

ハ防止スルヲ得」ト改ムヘシト提議シタル處「佛」ハ然ラハ右ノ如キ兵器ノ何タルカヲ知ルカ爲先ツ質問集ヲ出シテハ如何ト一ノ具體案 (Conf. D./C.A. Bureau 14) ヲ提出セルモ大勢右ヲ以テ徒ラニ議事ヲ停頓セシムルモノナリト反對シタルニ因リ「佛」亦固執スルコトナク報告中ニ右質問集ニ關シ記載スルノミニテ可ナリト妥協ス

海上航空
兵力ニ關
スル我方
聲明

(四) 佐藤全權ハ海上航空兵力ハ搭載艦船ノ移動力ニヨリ極メテ容易ニ目的物ニ近寄り得ルヲ以テ固定根據地所屬飛行機ニ比シ少量ノ燃料ニテ多量ノ爆彈ヲ搭載スルヲ得ルモノニシテ有效搭載量増加ト同一結果トナルヲ以テ此種飛行機ハ四月二十二日一般委員會決議三性質ヲ共ニ具フルモノニシテ其ノ進攻性ハ之ヲ暫ク擱クトスルモ艦隊ノ策戰ヲ著シク進攻的ナラシメ又他ノ海上兵力ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノナリ因テ日本代表部ハ右兩見地ヨリ此種飛行機ヲ以テ最も進攻的ナリトスル所以ナリトノ趣旨ヲ述ヘ具體案トシテIIノ(C)トシテ

「艦船ニ搭載シアル飛行機ニ就テハ艦船ノ運動力ニヨリ飛行機ノ有效搭載量ヲ増加スルト同一ノ結果ヲ生ス」ト新ニ挿入スヘシト提議ス

(五) 「伊」ハ直ニ之ニ贊シ「英」ハ本件ハ寧ロ空軍本委員會ニ廻付スルヲ可トセサルヤト云ヒ「佛」モ亦分科會ニ於テハ議事録ヲ作成セサルヲ以テ議事録ヲ作成スル空軍本委員會ニ廻付シ以テ議事ヲ明瞭ナラシメ本件ニ關スル海軍委員會ニ於ケル本件討議ト比較シ得ル様爲スコト便宜ナラスヤト「英」ヲ支持セルモ佐藤全權讓ラス報告者(「典」)ハ同人ハ海上航空兵力ノ問題ニ關シ全然日本代表ト同意見ヲ有スルモノナルカ議事進行ノ方法トシテハ「英」「佛」案ノ如ク空軍本委員會ニテ之ヲ行ヒIIノ(b)ニ關聯シ空軍關係ニ於テモ海軍委員會同様空軍委員會ニテ本問題ヲ討議スル趣旨ノ「ノート」ヲ付スルコトニテ同意ヲ得度シト德意スル處アリタリ因テ佐藤全權ハ必要アラハ海、空兩委員會ノ混合委員會設置ノ可能性ヲ保留スルコトトシ報告者案ニ同意シ散會セリ

小分科會第十一回會合(五月十日)

(一) 一般市民ニ對シ最も脅威ヲ與フル兵器ナル標準ニ關シ討議ヲ行フコトナリ報告者ヨリ討議ノ基礎案トシテ (Conf.

D./C.A./Bureau 16) ニ關シ説明アリ(イ)項ヨリ逐項審議セリ

「佛」ハ「一切ノ攻撃法」ヲ代フルニ「進攻的性質アルモノ」ヲ以テセムコトヲ提議シ「英」之ヲ支持ス佐藤全權ハ(イ)ニ於テ「一切ノ飛行機ハ攻撃的ナル意味」ヲ記入スルノ要アリト指摘シタルモ「佛」ハ「特ニ進攻的」ナルモノニ付キ討議シツアル此際ナレハ強テ其ノ要ナキヤニモ察セラルト自己ノ見解ヲ述フル處アリタリ

「獨」ハ原案ノ末段ヲ「非軍用目標」ノ代リニ「軍事又ハ非軍用ノ目標」ト修正セムコトヲ求メタルモ「佛」之ニ反對シ次テ「白」「英」「蘇」等ノ間ニ應酬アリシカ結局議長ハ報告者案ニ前記「佛」ノ修正意見ヲ加味シタルモノヲ採決セリ

(二) (ロ)項審議ニ際シ「佛」ハ「大體トシテハ報告者案ニ同意スルモ更ニ航續距離ニ關スル觀念ヲ入ルル要アリ之等ハ航續距離、目標ニ達スル能力、携行爆彈量及性質ニ依ルヘク結局「佛」主張ノ如ク有效搭載量ノ問題ニ歸着スヘシ」ト主張シタルモ「伊」ハ之ニ同意セス

我方ハ二ノ(ロ)ニ付前日會合ニ於テ述ヘシト同様ノ提議ヲナスヲ以テ可然考慮セラレ度シト求メ議長之ヲ承諾ス次テ「伊」ハ目標、到達能力ニ付討議セムコトヲ求メタルカ我方ハ之ニ贊シ有效搭載量ニ關聯スル一切ノ事項ヲモ審議セムコトヲ希望スル旨ヲ付言セリ

(三) (ハ)項ニ關シテハ「米」ハ最後ノ部分「有效搭載量ハ自重、馬力、翼面積ト馬力ト比率ニ依ル」トノ一句ニ關シテハ更ニ研究ヲ了スル迄「レザーク」スヘキ旨言明セリ

(四) (ニ)項ニ關シテハ「獨」ヨリ最後ノ部「焼夷彈」ノ外ニ「爆發彈」ヲ追加セムコトヲ提言シ採決セラレタリ又「伊」ハ人民脅威ヲ單ニ物質的方面ニ止メス精神的方面ニモ之ヲ及ボスヘキコトヲ主張シ各國間ニ應酬アリ最後ニ「獨」ハ「ガス」中ニハ凡テノ「ガス」ヲ含マシムヘキコトヲ主張セルカ議長ハ結局報告者ヲシテ從來ノ各國提案ヲ綜合シタル報告原案ヲ作製セシムヘシト宣言ス

第十二回會合（五月十一日）

議長ハ報告者ヲシテ豫テ作成セシメタル報告書案 (Conf. D./C.A./14) ヲ披露セシメ各國ヨリ言句ニツキ若干ノ修正アリ且最後ノ「毒ガス」ヲ「致死、窒息性及同類似ガス」ニ修正スルコトトシ原案ヲ可決セリ

三、空軍委員會議事經過（二）（自五月十八日至六月八日）

四月二十七日第六回空軍委員會會合ノ席上ニ於テ設置ヲ決セラレタル小分科會ハ第一項第二各論ニ所載ノ經緯ヲ經タル後一ノ報告書 (Conf. D./C.A./14) ヲ起草作成シ之ヲ空軍委員會ニ提出シ空軍委員會ハ其ノ第七回會合（五月十八日）ヨリ第二十一回會合（六月八日）迄前後十五回ノ會合ヲ之カ審査ニ充テタルカ討議經過左ノ如シ

空軍委員會第七回會合（五月十八日）

報告者ヨリ小分科會報告 (Conf. D./C.A./14) ニ付キ一般の説明アリ直ニ該報告ヲ討議ノ基礎トスルコトセルカ同文書第一頁前文ニ付テハ別段ニ異議ナク第二頁第三頁所載報告本文ノ審議ヨリ開始ス

（一）報告本文ノ討議ニ入ルヤ「獨」ハ直ニ起テ自國代表部ノ立場ヲ更ニ明カナラシムルカ爲ニ發言セリト前提シ「獨」ハ協調ノ精神ニヨリ小分科會ニ於ケル報告ノ起草ニ協力シタル次第ナルモ右報告ヲ以テ決シテ満足ナルモノトハ認メ居ラス即（イ）同報告書ハ一般委員會決議ノ三標準殊ニ特ニ進攻のナル空軍兵器ノ何タルカニ對シ何等明瞭精確ナル解答ヲ與ヘ居ラサルノミナラス（ロ）該報告ハ航空機ニ對スル空中又ハ地上ノ防禦手段ヲ有セサル國ノ地位ヲ考慮セサルニ大缺點アリ故ニ「獨」代表部トシテハ本委員會カ「ヴェルサイユ」條約カ「獨」軍用航空ニ加ヘタル措置ニ倣ヒ軍用航空全部及特ニ空中ヨリスル兵器投下ヲ以テ一般委員會決定三標準ニ適合スルモノト指定セムコトヲ望ムテ已マスト同國從來ノ所說ヲ再言シ又報告書自體ニ付テ云ハムニ其ノ（ア）ハ航空機ヲ以テ攻防兩用ニ使用セラルルモノナリトノ趣旨存スルモ防禦の兵器ノ研究ハ本委員會ノ任務以外ニ屬スルモノト云フヘク吾人現在ノ責務ハ進攻の兵器即一國ノ侵略的政策實現ニ最モ有效ナル兵器ノ何タルヤヲ究ムルニアリ而シテ軍用航空全部ヲ以テ此種兵器タルコトヲ認ムヘキナリ

「獨」小分科會報告ニ不滿ヲ示ス

ト主張シタル處議長（西）ハ小分科會ノ任務ハ討議基礎ノ作成ニシテ其ノ不完全ナル箇所ヲ補填スルコソ本委員會ノ任務ニ非サヤト述ヘ又手續問題トシテハ既ニ小分科會報告ハ本會合討議ノ基礎トナリ居ルヲ以テ結局四月二十八日「獨」提案 (Conf. D./C.A./13 第一頁) ヲ以テ「獨」側ニ於テ改メテ該報告書ニ對スル修正案トシテ提出スルコトニ議長「獨」代表間ニ妥結ヲ見ムトセシ處「白」「佛」「典」右措置ニ異議ヲ唱ヘ之ニ反シ「蘇」「澳」「洪」ハ右「獨」案ヲ以テ一層明確且現實ニ即セルモノナリト述ヘタリ

（二）「智慧古」ハ本軍縮會議ノ根本規定ハ聯盟規約第八條ニ從テ「獨」主張ノ如ク現存最低基準ニ迄一切ノ參加國ノ軍備ヲ低下セシムルヲ以テ吾人ノ目的トスヘキニハ非ス故ニ「獨」等ノ立場ヲモ考慮シ先ツ軍用航空ヲ以テ進攻の等ナリト簡單ニ認メ次テ他ノ國ノ主張ヲ書キ列ヌルカ如キ形式ヲ探ルコトトシテハ如何ト提議シ次テ「瑞西」モ從來ノ討議ニヨリ「獨」代表部ノ立場ハ充分了解セラレタリ因テ「獨」ハ一般の留保ノ下ニ委員會討議ニ參加セラレ審議進捗ヲ阻害セサルコトヲ望ムト懇適シ議長亦之ニ贊シ「獨」ニ對シ同國提案撤回方ヲ希望セシモ「獨」ハ讓ラス因テ表決ニ附シタル處多數（二十一對七）ヲ以テ該「獨」提案ハ否決セラレタリ尙「蘇」ハ本會合ニ於テ（ア）及（b）ニ付留保セリ

空軍委員會第八回會合（五月十九日）

前回一般討議ヲ終リタルヲ以テ小分科會報告 (Conf. D./C.A./14) ノ項目別討議ニ入ル

◎Iノ（a）

「一切ノ航空機ハ或程度迄進攻の目的ノ爲メニ使用セラルルヲ得但シ右ハ航空機ノ防禦の使用ノ問題ヲ豫斷スルコトナシ」

“Tous les armements aériens peuvent être utilisés dans une certaine mesure pour des fins offensives, sans préjuger la question de leurs fins défensives.”

“All air armaments can be used to some extent for offensive purposes, without prejudice to the question of their defensive uses.”

「獨」案否決

I (a) 後
段ニ對シ
「伊」留保
ス

報告者ハ防禦的目的ノ爲メニスル航空機使用ノ問題ハ四月二十二日一般委員會決議ノ趣旨ノ範圍ニ屬セストノ見地ヨリ「伊」代表部ハ本項後段“sans préjuder la question de leurs fins défensives”“without prejudice to the question of their defensive uses”ナル字句ニ付留保アリト披露セル處「諾」ハ空軍委員會ハ單ニ一ノ兵器ノ進攻性若クハ防禦性ノ考察ヲ以テ足レリトスルニ非ス因テ右「伊」留保ノ如キモ此際一ノ提案トシテ本委員會ニ提出スルヲ可トスヘク何レニセヨ「或程度迄」ナル字句ノ削除ヲ必要トスヘシ若シ右削除ニ異議ヲ唱フル代表部存スルニ於テハ票決ニ付セラレ度シトシ「伊」亦票決ヲ求メシヲ以テ決ニ付セル處十八對十二ヲ以テ原案維持ニ決ス

◎I (b) (9)

「特定民用航空機ハ軍事上ノ目的ノ爲メニスル改造ヲ加フルニ於テハ一國ノ空軍軍備ノ一部分タルヲ得」

“Certains appareils d'équipement civil peuvent devenir partie intégrante des armement aériens d'un pays après adaptation à des fins militaires”.

“Certain civil aircraft may become an integral part of the air armaments of a country after adaptation for military purposes”

(b) ニ
對スル
「日」波
留保

(一) 報告者ヨリ本項ニ關シ「獨」ヨリハ本項ノ趣旨ハ軍用航空ヲ有セサル國ニ適用セラレサルモノト認ムトノ留保アリ又「日」「波」ヨリ「軍事上ノ目的ノ爲メニスル改造」ハ「特定民用航空機カ一國ノ空軍軍備ノ一部分タリ得」ルカ爲メノ必須條件ニ非ストノ趣旨ノ留保アルコト及本項ニ關シ「羅」「智恵古」「ユーゴスラヴィア」三代表部ヨリ左ノ共同修正案 (Conf. D/C.A./16) アリタリト披露ス

「一切ノ民用航空機ハ軍用航空機ト等ク一國空軍軍備ノ一部分タリ得ルコト及此等民用航空機ハ其馬力及構造上ノ性能ニ從ヒ何等改造ヲ施スコトナクトモ(千九百十四年千九百十八年戰後ノ場合ノ如シ) 學校用、連絡用、偵察用、戰闘用特ニ爆撃機トシテ軍事上ノ目的ノ爲メニ戰爭ニ使用シ得ラルルコトヲ思ヒ

空軍委員會小分科會報告I (b) (ニ) 對シ左ノ修正ヲ提議ス

冒頭「特定」ノ語ヲ「一切ノ」ノ語ヲ以テ代ヘ且「軍事上ノ目的ノ爲メニスル改造ヲ加フルニ於テハ」ノ語ヲ削除ス因テ同項新案文ハ左ノ如クナル

民用航空
ハ空軍軍
備ノ一部
タリトス
ル國案

「一切ノ民用航空機ハ一國ノ空軍軍備ノ一部分タルヲ得」

我方三國
案ヲ支持
ス

(一) 「波」ハ民用航空器材ハ何時タリトモ空軍ノ一部タルヲ得ルモノニシテ之カ爲メニハ同器材ヲ軍事上ノ目的ニ供スヘキコトヲ決シ次テ之ヲ微發スレハ足ルモノニシテ何等改造ヲ要セス報告者ノ本會合冒頭ニ於テ言及セル「波」留保モ右事實ニ基クトシ堀田公使ハ日本代表部ハ一切ノ民用航空機ヲ以テ進攻的兵器トナリ得ルモノナリトノ見解ヲ有スルモノニシテ此ノ見地ヨリ三國共同修正案ニ同意スト述フ

「獨」民
用航空機
ハ自
動車ニ
比スル
「米」民
用航空機
ニ反對
ス

(二) 「獨」ハ一般委員會ハ兵器ニ關スル一定研究ノミヲ求メタルカ故ニ商船又ハ自動車ト同一視セラルヘキ民用航空機ヲ包含セムトスル三國案ノ挿入ニハ反對ニシテ民用航空機ノ濫用ヲ防クニハ「軍用航空機及軍隊ニ微發セラレタル航空機」ヲ以テ本委員會討議ノ對象トスレハ足レリト同國從來ノ主張ヲ繰リ返シ又「米」民用航空ハ米國日常生活ノ重要ナル一部分ヲナシ「エアール、メーブル、サーヴィス」ノ如キニ於テ殊ニ然ルヲ見ル次第ニテ學理的見地ヨリモ寧ロ實際的理由ヨリ三國案ニ反對ナリ然レトモ民用航空全部ヲ包含セントスル主張ニモ鑑ミI (b) 末段ニ「而シテ特定ノ場合ニハ一國ノ軍隊ニ編入セラレ得ル民用航空機ハ何レモ軍事上ノ目的ノ爲メニ使用セラルルヲ得ヘシ」(註)ト附加シテハ如何ト提議セルカ「佛」ノ動議ニ基キ討議ヲ次回ニ延期スルト共ニ「英」ノ提案ニ因リ報告者ニ於テ前顯三國共同修正案前記「米」案等ヲ參酌シ次回會合迄ニ單一案ヲ作成シ置クコトトシ散會ス

(註) “... and under certain circumstances any civil aircraft which might be incorporated into the military forces of a State could be used to subserve military end”

“... et, dans certaines conditions, tous les aéronefs civils qui peuvent être incorporés aux forces militaires d'un Etat peuvent servir à des fins militaires”.

空軍委員會第九回會合（五月二十日）

前回ニ引續キ小分科會報告 (Conf. D./C.A./14) ノ討議ヲ行フ

◎Iノ(b)

「I(b)新
テキスト」

(一) 報告者ハ前回ノ決定ニ基キ作成セル左ノ如キ新「テキスト」ヲ披露ス (Conf. D./C.A./18)

「民用航空機ハ一國ノ兵力ニ編入セラルコトアルヘキ程度ニ從ヒ軍事上ノ目的ノ爲メニ使用セラルルヲ得（シ）」

“Les aéronefs de l'aéronautique civile peuvent être, à des degrés divers, utilisables pour des fins militaires, dans la mesure où ils seraient incorporés dans les forces armées d'un pays”.

“Civil aircraft, to the extent that they might be incorporated into the armed forces of a State, could in varying degrees subserve military ends”.

(1) 「智恵古」ハ報告者ノ右新提案ニ同意ヲ表シ自國「羅」及「ユーゴースラヴィア」ノ名ニ於テナセル三國共同修正案 (Conf. D./C.D./16) ハ民用航空ノ發達ヲ阻害セムトスル趣旨ニ非サルコト勿論ニシテ同航空ノ重要ナル點ニ注意ヲ喚起シ以テ一般委員會ニ於ケル議事ニ資セムカ爲ニ外ナラスト説明ス次テ「洪」ハ軍用航空ヲ有セサル國ニ付民用航空ノ同航空編入ハ考慮シ得サルヲ以テ報告者新案 “...to the extent that they (civil aircraft) might be incorporated into the armed forces” “dans la mesure où ils seraient incorporés dans les forces armées” ヲ “air forces” “forces aériennes” ト修正方ヲ提議シタル處「智恵古」「ユーゴースラヴィア」及報告者ハ原案ヲ支持シ反之「獨」「蘇」ハ「洪」修正案ヲ可トセシモ「洪」ハ報告中ニ自國修正案ヲ記載スルニ於テハ敢テ自説ヲ固持セスト述ヘタル結果報告者案通リニテ採擇セラレ「獨」ハ棄權ス

◎Iノ(c)

「其ノ使用方法如何ヨリ來ル進攻性ト關係ナク航空機ノ進攻的適性ハ右航空機ノ構造上ノ特定ノ性能ニヨリ定マル」

“Indépendamment du caractère offensif que les armements aériens peuvent emprunter du fait de leur emploi, la capacité offensive de ces armements dépend de certaines de leurs caractéristiques de construction”.

“Independent of the offensive character which air armaments may derive from their uses their capacity for offensive action depends on certain of their constructional characteristics”.

其儘採擇「獨」棄權ス

Iノ(p)

◎Iノ(p)

「右ノ如キ構造上ノ性能ニ基ク航空機ノ進攻的適性ハ先ツ右航空機ノ國防破壊ニ關スル效力次テ一般市民ニ對スル脅威ノ見地ヨリ考究セラルルヲ要ス」

“La capacité offensive des armements aériens dépendant de ces caractéristiques de construction, doit être examinée d'abord du point de vue de l'efficacité de ces armements contre la défense nationale et ensuite du point de vue de la menace pour les populations civiles”.

“The capacity for offensive action of air armaments resulting from such constructional characteristics should first be considered from the point of view of the efficacy of such armaments against national defence and secondly from the point of view of the threat offered thereby to the civilian population”.

其儘採擇「獨」棄權

IIノ討議開始

國防破壊ノ效力

(1) 議長ヨリ「獨」提案 (Conf. D./C.A./11) ハ右ニテ討議ヲ終了シタル本報告第一部ノミナラス國防破壊ノ效力ニ關スル第二部及一般市民ニ對スル脅威ニ關スル第三部ニモ關スルモノナル處第一部ト關聯シ否決セラレタル同案ハ第二部ニ付テモ然ルモノト解スト宣シ報告者ハ本第二部ニ關シ「米」「亞」「佛」「英」ノ爲セル左ノ趣旨ノ留保ヲ朗讀セリ

「國防破壊ニ最モ有效ナル航空機ハ特定ノ場合ニ於テ自國國防確保ニ最モ有效ナリ」

“Les armements aériens les plus efficaces contre la défense nationale peuvent être aussi, le cas échéant, les plus efficaces pour assurer la défense nationale”.

“The air armaments most efficacious against national defense may also, in certain circumstances, be the most efficacious for the national defense”.

(二)「佛」ハ右留保ヲ報告本文中ニ挿入セムコトヲ求メタル處「伊」「諾」ハ本委員會ニ於テ未タ討議セラレタルコトナキ右事項ニ對シスノ如キ措置ヲ與フヘカラスト反對セシニ因リ票決ニ付シタル處二十對十七(我方ハ挿入ニ賛成)ヲ以テ挿入説ハ否決セラレ四國留保案ノ趣旨ハ賛意ヲ表セシ一切ノ國ノ名ニ於テナサレタル留保トシテ報告中ニ記載スルコトナキ

II(a)ノ
討議

◎II(a)

「一國空軍軍備ニ屬シ最モ國防破壊ニ有效ナル航空機トハ一切ノ兵器ノ投下ニヨリ最モ有效ナル直接動作ヲ行ヒ得ルモノヲ云フ」

“Les aéronauts faisant partie des armements aériens d'un pays que l'on peut considérer comme ayant le plus d'efficacité contre la défense nationale sont ceux capables de l'action directe la plus efficace par le lancement des moyens de combat de toute espèce”.

“The aircraft forming a part of the air armaments of a country that may be regarded as most efficacious against national defense are those capable of the most effective direct action by the dropping or launching of means of warfare of any kind”.

「獨」修正
案

(一) 報告者ハ本項ニ關シ左ノ「蘭」修正案(Conf. D./C.A./17)アリト披露ス

「I(a)」「最モ有效ナル直接動作」ヲ單ニ「直接動作」ト修正シ「從テ特ニ進攻的ナル兵器トシテ先ツ爆撃機次テ一切ノ空中爆彈最後ニ右爆彈ノ照準器及投下器ヲ舉クヘシ但化學戰及細菌戰兵器ニ付テハ別ニ特別委員會ニ於テ考究方ヲ依囑セラレ居ルヲ以テ茲ニ論セス」

(二) 右「蘭」案ニ對シ「智惠古」「英」「佛」「伊」「亞」等シク原案ヲ可トセシカ「瑞西」ハ「蘭」案モ小分科會案モ其ノ趣旨ニ於テ大差ナキヲ以テ報告者ニ於テ報告中ニ右「蘭」案ニ言及スルニ止メテハ如何ト提議シ「蘭」ハ右ニテ満足ヲ表シ自國案ヲ撤回セリ

斯テII(a)ハ原案ノ儘採擇シ「獨」ハ棄權ス

空軍委員會第十回會合(五月二十三日午前)

本會合ニ於テ我方ハ更ニ海上航空兵力ニ付キ發言シタリ

前回ニ引續キ小分科會報告(Conf. D./C.A./14)II(b)ヨリ討議ヲ開始ス

◎II(b)

「右軍備ニ屬スル一航空機ノ個別的ニ考慮セラレタル場合ニ於ケル國防破壊ニ關スル效力ハ其ノ有效搭載量及目標到達能力ヨリ定マル」

“L'efficacité contre la défense nationale d'un aéronaut faisant partie de ces armements, et considéré isolément, est fonction de sa charge utile et de sa capacité d'atteindre son but”.

“The efficacy against national defence of an aircraft making part of such armaments, and considered individually depends upon its useful load and its capability of arriving at its objective”.

(一) 劈頭堀田公使ハ日本代表部ハ既ニ數回ニ互リ其ノ重要視シツアル海上航空兵力ノ問題ニ關シ委員會及小分科會ノ注意ヲ喚起シタル處アリシカ其ノ理由ニ關シテハ其ノ都度充分ニ敷衍セルノミナラス殊ニ四月二十八日附日本提案中(Conf. D./C.A./13)ニ明瞭ナルヲ以テ茲ニ其ノ詳細ニ入ルヲ避クヘキモ佐藤全權カ本委員會小分科會ニ於テナサムトシタル提案即「艦船ニ搭載シアル飛行機ニ付テハ艦船ノ運動力ニヨリ飛行機ノ有效搭載量ヲ増加スルト同一結果ヲ生ス」トノ提案ハ之ヲII及III(c)トシテII及III(b)ノ直後ニ夫々挿入セラレタシト求ム

我方「米」
ノ反對論
ヲ駁ス

(五)「佛」ハ左ノ案ヲIノ(c)直後ニ挿入方ヲ提議シ我方之ニ同意ス

「佛」我方
案ニ對ス
ル代案ヲ
提出ス

「英」亦一案ヲ提示ス

我方案ニ
議論生シ
起草委員
會ヲ設ケ

七)「洪」ハIIノ(b)及IIIノ(b)ノ末尾ニ存スルニ“bu-adjective”及“capacite—capability”ナル語ノミニテハ何レモ複雑且不明瞭ナルカ故ニ之ヲ

三七

ト修正セムコトヲ提議セルカ「典」「英」何レモ原案ノ儘ニテ支障ナキコトヲ説キ「洪」亦固執スル處ナク單ニ今後再ヒ本問題ニ言及スルコトアルヘキコトヲ保留シ自國案ヲ撤回ス斯クテIIノ(b)ハ其ノ儘採擇「獨」「洪」「蘭」棄權ス

II(c) ◎IIノ(c)

「佛」ノ要求ニヨリ後廻シトス

II(d) ◎IIノ(d)

「空中ヨリ投下セラルヘキ一切ノ兵器ハ其ノ防禦手段ノ製出、集中及使用ヲ防止若クハ遅延セシメムル能力ノ程度ニ從ヒ國防破壊ニ關シ最も有效ナリ」

“Les moyens de combat de toute espèce destinés à être lancés du haut des airs ont le plus d'efficacité contre la défense nationale suivant leur capacité d'empêcher ou de retarder la production, la concentration et l'utilisation des moyens de défense”.

“Means of warfare of every kind to be launched from the air are efficacious against national defence in proportion to their capacity to prevent or delay the production, concentration and utilization of means of defence”.

「蘭」ハ空中爆撃全廢ヲ主張スルモノナルカ故ニ原案ノ如ク段階ヲ設クルカ如キ趣旨ニ賛成スルヲ得ストシ「佛」ハ本項ノ意義明瞭ヲ缺クヲ以テ左ノ修正案ニ代ヘラレタシト提案ス

「空中ヨリ投下セラルル兵器ハ右兵器ノ與ヘ得ル物質的效果ノ程度ニ從ヒ國防破壊ニ最も有效ナリ」

“Les moyens de combat lancés du haut des airs ont le plus d'efficacité contre la défense nationale suivant l'effet matériel qu'ils produisent”.

委員會ハ右「佛」修正案ヲ更ニ左ノ如ク修正ノ上採擇シ舊(d)項ニ代ヘタルカ「獨」「埃」「蘭」「蘇」ハ棄權セリ

「空中ヨリ投下セラルル兵器ノ國防破壊ニ關スル效力ハ右兵器ノ與ヘ得ル物質的效果ニヨリ定マル」

“L'efficacité, contre la défense nationale, des moyens de combat lancés du haut des airs dépend de l'effet matériel qu'ils sont susceptibles de produire”.

空軍委員會第十一回會合(五月二十三日午後)

空軍委員會小分科會報告(Conf. D./C.A./4)中「一般市民ニ對スル脅威」ニ關スル第三部ノ審議ヲ開始ス

III 一般市民ニ對スル脅威

III(e)ノ(α) 討論

◎IIIノ(a)

「一國ノ空軍軍備ニ包含セラルル航空機ニシテ一般市民ニ對シ最も脅威ヲ與フルモノト認ムヘキモノハ一切ノ兵器ノ投下ニ最も有效ナル直接行動ヲ行ヒ得ル航空機ナリ

右效力ハ特ニ使用セラルル兵器ノ性質及右兵器ノ使用方法如何ニヨリ定マル」

“Les aéronautes faisant partie des armements aériens d'un pays que l'on peut considérer comme étant les plus menaçantes pour la population civile sont ceux capables de l'action directe la plus efficace par le lancement des moyens de combat de toute espèce ; cette efficacité résulte d'une façon particulière de la nature des moyens de combat employés et de leur mode d'emploi”.

“The aircraft forming part of the air armaments of a country which can be regarded as the most threatening to the civil population are those capable of the most effective direct action by the dropping or launching of means of warfare of any kind ; this efficacy depends primarily upon the nature of the means of warfare employed and the manner in which they are employed”.

本項ハ其儘採擇「獨」棄權

III(b)ノ(β) 討論

◎IIIノ(b)

「右軍備ニ屬スル一航空機カ個別的ニ考慮セラレタル場合ニ於テ構成スル一般市民ニ對スル脅威ノ程度ハ該航空機ノ有效搭載量及目標到達能力ニヨリ定マル」

“Le degré de menace que constitue contre la population civile un aéronaef faisant partis de ces armements, et considéré isolément, est fonction de sa charge utile et de sa capacité d'atteindre son but”.

“The degree of threat to the civil population represented by an aircraft forming part of these armaments, and considered individually, is in proportion to its useful load and its capability of arriving at its objective”.

本項ハ其ノ儘採擇「獨」棄權

III(c)ノ
III(d)ノ
III(e)ハII(c)ト一括討議ノ爲後廻シトス
III(d)ノ
◎III(c)ノ

「空中ヨリ投下セラレヘキ一切ノ兵器ハ一般市民ニ對シ重大ナル脅威ヲ構成スルヲ得ヘシ

一般市民ニ對シ最も脅威ヲ與フル兵器トハ個別的ニ考慮シ最も廣汎ナル動作及最も大ナル精神上若クハ物質上ノ影響ヲ與フルモノ換言セハ直接ニハ中心都市ノ住民ヲ最も殺傷シ固定シ若クハ其ノ志氣ヲ沮喪セシメ將來ニ對シテハ人體ノ生活力ニ最も危害ヲ及ホシ得ルモノヲ指ス。此種兵器中小分科會ハ特ニ致死瓦斯、窒息性及同類似瓦斯、細菌並燒夷彈及爆彈ヲ指摘ス」

“Les moyens de combat de toute espèce destinés à être lancés du haut des airs peuvent comporter une menace grave pour la population civile.

Les moyens de combat les plus menaçants pour la population civile sont ceux qui, considérés isolément, produisent l'action la plus étendue, le plus grand effet moral ou matériel, c'est-à-dire ceux qui sont le plus capable de tuer, de blesser, d'immobiliser les habitants des centres de la population civile ou de les démoraliser, pour ce qui a égard aux conséquences immédiates, et, pour ce qui se rattache aux conséquences futures, d'atteindre les êtres humains dans leur vitalité. Parmi ces moyens, le Sous-Comité signale spécialement les gaz mortels, toxiques et similaires, les bactéries et les engins incendiaires et explosifs”.

“Means of warfare of all kinds which are intended to be dropped from the air may constitute a serious threat to the civil population.

The means of warfare which are most threatening to the civil population are those which, considered individually, produce the most extended action, the greatest moral or material effect, that is to say, those which are the most

capable of killing, wounding, immobilising the inhabitants of centres of civil population or of demoralising them, so far as concerns immediate consequences, and so far as concerns future consequences, of impairing the vitality of human beings. Among these means the Sub-Committee specially mentions poisonous gases, bacteria and incendiary and explosive appliances”.

(1) 第一項

III(d)第
一項ノ討
議

(イ)「蘭」ハ第一項ニ“peuvent constituer”トアル處空中ヨリ投下セラルル兵器ハ常ニ一般市民ニ對スル最大ノ脅威ナルカ故ニ同項ノ趣旨ヲ強カラシムルカ爲“peuvent—may”ノ語ヲ削除スヘシト求メ「伊」ハ之ヲ支持スルト共ニ“menace grave—serious threat”ヲ單ニ“menace—threat”トナスヘシトシ「蘇」「諸」「洪」右「蘭」案ヲ支持シ「獨」亦出來得ル限り廣汎ナル案文ヲ可トストノ希望ヲ述フ

(ロ)右ニ對シ報告者(典)ハ本項ハ爆彈ノ投下ニ止ラス一切ノ兵器(機關銃ノ彈丸其他ノ彈丸ヲモ含ム)ニモ關係スルモノナルカ代表部中特定彈丸ハ必シモ一般市民ニ對スル脅威ヲナスモノニ非ストスルモノアリ又他方此等兵器自體カ脅威タリ得ルニ非スシテ寧ロ目標如何ノ問題ナリトセルモノアリタリト説明シ「英」ハ單ニ兵器ノ存在ヲ以テ直ニ一般市民ニ對スル脅威ヲナストスルハ誤リニシテ緊要點ハ使用セラルル方法換言セハ此種兵器使用ニ關スル意思如何ニアリ因テ原案通リ“peuvent—may”ノ語ヲ保持スルヲ必要トスト「蘭」ニ反對セリ

(ハ)「白」ハIII(d)第一項ノ趣旨ヲ一層強カラシムルニ於テハ航空機ニ搭載セラルル一切ノ兵器ヲ廢止スヘキコトトナルヘキ處斯クテハ爆撃機ノ如ク一般市民ニ對シ大ナル脅威ヲササル單座式驅逐機及複座式偵察機ノ武裝ヲモ禁止スルコトトナリ「白」代表部ノ受諾ヲ不可能ナラシムル結果トナルカ故ニ「一切」ノ語ヲ削除シ考慮ヲ要スヘキ兵器ヲ列舉スヘシトス

(ニ)「佛」ハIII(d)ノ二項ハ同時ニ考慮セラルルヲ要スヘシ如何トナレハ「英」代表ノ述ヘタルカ如ク兵器ノ存在ハ夫レ自體ニ於テ一般市民ニ對スル脅威トナルニハ非スシテ要ハ之ヲ如何ニ使用セムカトノ意思ニアリ之ト同様ニ特定

「佛」
III
(d)第
一項
削除
ス

兵器使禁止ニ關スル國際約定ノ存在モ同約定ニテ無視セラルルニ於テハ吾人ニ對スル保障ト見做スヘキニ非サルヘシ
因テ「蘭」「白」兩代表部ノ希望ニ沿フ爲第一項ハ之ヲ削除スルヲ可トスヘシ實ニ第二項中「最モ脅威ヲ與フル兵器」
ナル用語ハ特定兵器ノ構成スル脅威ノ程度ヲ豫斷スルコトナケレハナリト述ヘタル處「白」ハ委員會ニ於テ自國提案
採擇ノ意思ナクンハ「佛」案ニ贊スヘシト云フ

(ホ) 於茲議長(西)ハ第一項削除ニ關スル前記「佛」提案ヲ決ニ付シ十八對十ヲ以テ削除ニ決ス

(二) 第二項

III
(d)第
二項ノ
討

「蘇」ハ第一項削除ノ結果第二項ノ意義稀薄トナレルカ故ニ第二項ニ付棄權スト述ヘ「獨」ハ兩項ニ對シ棄權ス尙第二
項ニ付テハ「米」ノ希望ニヨリ若干ノ修辭上ノ修正ヲ加フルコトナレリ

起草委員
會ハ海上
航空問題
ニ付何等
案文ヲ得
ズシテ終
了

(三) 前記第十一回會合ニ引續キ第十回會合(五月二十三日午前)ニ於テ設置セラレタル我方主張海上航空兵力ニ關スル
起草委員會開催セラタルモ何等具體的結果ニ達スルヲ得サリキ

空軍委員會第十二回會合(五月二十四日)

(一) 海上航空兵力ニ關スル我方主張ハ本報告記載ノ處ニヨリテ既ニ明ナルカ如ク凡ユル機會ニ於テ之カ闡明ニ勉メ來レ
ル處空軍委員會小分科會報告(Conf. D/C.A./15)ノ審議モ前記兵力ニ關スル我方提案ト關係アルIIノ(c)及IIIノ(c)ニ
及ヒ來レルヲ以テ帝國代表部ハ本會合ニ先チ具體案ヲ會議事務局ニ送付シ各代表ニ送付セシメ置ケリ

(二) 因テ討議開始後報告者(典)ハ劈頭我方提案(Conf. D/C.A./22)ヲ披露シ「日」代表部ハ小分科會報告中ノ一項ト
シテ艦載飛行機ノ進攻性ニ關スル前記提案ヲ挿入セムコトヲ求ムルモノナルカ右「日」要求ニ關シテハ小分科會及空軍
本委員會ニ於テ既ニ屢次討議交ハサレタルカ反對ノ向キモ有之前日(五月二十三日)開催ノ起草委員會(第十一回會合
記事(三)參照)ニ於テモ遂ニ何等具體的成案ヲ見ス他方海軍委員會ニ於テモ本點ニ關シ全會一致ノ意見ニ到達スルコ
ト不可能ニ終リシニ付報告者自身トシテハ本點ニ關スル各國代表部ノ意見ヲ報告中ニ記載スルノ外ナシト信スト述フ

(三) 我方提案左ノ如シ

“La capacité offensive des avions transportés par les porte-aéronefs ou par les navires de guerre munis de plate-
formes (ou ponts) d'atterrissage doit être considérée comme accrue du fait de la mobilité de ces navires qui les trans-
portent”.

“The offensive capacity of aeroplanes carried by aircraft carriers or warships equipped with landing platforms
(or landing decks) must be regarded as being increased by the mobility of the vessels which carry them”.

(四) 報告者ノ言終ルヤ佐藤全權ハ直ニ發言ヲ求メ左ノ如ク聲明セリ

II
(c)ニ
關スル我
方聲明

「日本代表部ハ既ニ數次ニ互リ其ノ重要視スル處ノ艦載飛行機ニ關スル見解ヲ述ヘタルノミナラス小分科會ニ於テハ
報告書二ノ(ハ)及參ノ(ハ)トシテ提案付加方ヲ提議シタルカ當時報告者ノ慫慂モアリ且議事促進ノ見地ヨリ一應空
軍本委員會ニ廻付スルコトニ同意シタリ右ノ如キ經過アリタルカ故ニ日本代表部ハ本委員會第十回會合(五月二十三
日午前)ニ於テ改メテ右提議ヲナシタル次第ナルカ自國案其ノ儘ヲ且全會一致ヲ以テ採擇セシムルノ困難ナルヲ推シ
且協調ノ精神ヨリ「佛」提案(第十回會合記事(五)參照)ニ同意ヲ表シタリ

然ルニ右我方主張ニ關聯シ特ニ設置セラレタル起草委員會ハ本件討議ノ基礎タルヘキ單一案ヲ作成シ得サリシニ因リ
(第十一回會合記事(三)參照)今日日本代表部ハ報告者Iノ(b)直後原案(c)ノ直前ニ新(d)項トシテ“La capacité
offensive des avions transportés par les porte-aéronefs ou par les navires de guerre munis de plate-forme (ou de pont
d'atterrissage) doit être considérée comme accrue du fait de la mobilité de ces navires qui les transportent.”ナル一項ヲ
新ニ挿入スヘキコトヲ提議ス

我方「米」
反對ヲ駁

日本代表部ハ自己主張ノ正シキヲ確信スルモノニシテ其ノ所論ノ根據ハ既ニ四月二十八日附日本提案(Conf. D/C.A./
13)ノ第八頁ニヨリ明白ナリ只前日「英」「米」委員カ日本提案ニ關聯シ述ヘラレタル處ニ對シテハ一言自己ノ見解ヲ
披瀝シタシ「米」代表ハ艦載飛行機ハ陸上飛行機ニ比シ小型ニシテ進攻的適性極メテ小ナリト述ヘラレタルカ現ニ航

我方英
所
言
主
張

空母艦ニ搭載セラレタル攻撃機中ニハ數時間ノ燃料ト重量一、〇〇〇近内外ノ爆彈又ハ魚雷ヲ搭載スル能力アリ其ノ進攻の適性ハ主力艦ニ對シテスラ致命的の打撃ヲ與ヘ得ルモノアリ況ヤヨリ堅固ナラサル國防及市民ニ對シテ然ルヲ見ルナリ又之ト同時ニ航空技術ハ未タ其ノ發達ノ途上ニアルコトニ留意スヘキヲ信スルモノナリ又「英」委員ハ艦載飛行機ハ單ニ搭載軍艦ノ移動性ニヨリ其ノ行動半徑ヲ増加シ得ルモノナリト述ヘラレタルモ余ハ同一有效搭載量ニ付キ燃料ヲ減少シ即行動半徑ヲ縮減シ以テ其ノ搭載兵器ヲ増加シ得ルコトヲ指摘セムトス此ノ點ニ關シ搭載軍艦ノ移動性ハ極メテ重要ナル意義ヲ有スルモノナリ如何トナレハ是等飛行機ハ右移動性ヲ利用シ容易ニ目標ニ達シ得レハナリ斯クノ如ク艦載飛行機ハ單ニ自己ノ行動半徑ニ止ラス進攻の適性ヲモ増加スルヲ知ル余ハ日本提案カ空軍委員會ニヨリ採擇セラレムコトヲ欲ス然ラサル場合ニ於テハ議長ニ於テ報告「デキスト」中ニ日本提案ヲ少數意見トシテ多數意見ト相竝ムテ記載セシメラルルコトヲ求ム、何レニセヨ余ハ本委員會カ日本提案ニ付キ決ヲ採ラムトコトヲ望ム」

「米」ハ更
ニ我方
主張
ス
反
對

(五) 佐藤全權ノ聲明ニ次テ「米」ハ「日」提案ハ空軍委員會報告ノ一般態様ヲ變更スルモノナリ、如何トナレハ第一ニ空軍委員會カ技術の見地ヨリ航空機全般ニ付キ研究ヲナシツアルニ際シ海上航空兵力ニ付テノミ特別ナル考慮ヲ與ヘムトスルハ如何ナル理由ニ基クモノナリヤ、又第二ニ右「日」提案ハ報告書Iノ(e)ニ記載セラレアル「進攻の適性ハ構造上ノ特定性能ニヨリ定マル」トノ趣旨ニ一致セサレハナリ

航空母艦上ノ飛行機ハ其ノ構造上陸上基地所屬同一機ト同一有效搭載量ヲ有シ得サルヲ以テ此種飛行機ノ進攻性増加ヲ云フハ精確ナラサルナリ、日本提案ノ趣旨カ行動半徑ノ問題ヲ提起スルモノナルニ於テハ右ハ貳ノ(ロ)末段即「Capability of arriving at its objective」中ニ包含セラレ居ル次第ナルカ然ル場合ニ於テモ母艦上ノ飛行機ハ國境ニ近接スル陸上基地ヲ出發點トスル飛行機ニ比シ一層進攻のナル性質ヲ有スルモノト特記スルノ正當ナルヲ疑フト述ヘタリ

我方又
「米」ハ
主張
ス
反
對

(六) 右ニ對シ佐藤全權ハ其ノ構造ノ如何ニ拘ラス此種飛行機ハ基地タル搭載艦船ノ移動性ニヨリ進攻性ヲ増大スルコト疑フ容レサルカ故ニ之ヲ重要視スルモノナリ「米」代表カ本委員會ハ飛行機ヲ一般の見地ヨリ論シ居レリト述ヘラレタルハ事實ニ即スルモ日本代表部ハ此種飛行機ノ其ノ基地移動性ヨリ來ル全ク特種ノ事態ニ鑑ミ之ヲ特別ニ扱ハムトシ修正案ヲ出セル次第ナリ、事單ニ行動半徑ノミニ關スルニ於テハ「米」代表所言ニ同意シ得ヘキモ、行動半徑ノミナラス有效搭載量ノ増加ト同一結果トナルモノト日本代表部ニ於テハ考ヘ居ルモノニシテ換言セハ此種飛行機ノ有效搭載量ハ、技術的ニハ同一ナリトモ、搭載艦船ノ移動性ニヨリ増加セリト見做スヲ得トナスモノナリ是レ日本代表部最初ノ提案理由ナルカ過日ノ起草委員會(第十回會合記事(三)參照)モ單一案ヲ得ルニ至ラス又小分科會報告原案モ日本代表部ノ懸念ヲ完全ニ除去シ居ラサルカ故ニ改メテ本案ヲ提出セル次第ナリ、尙「進攻の適性」ノ用語ヲ以テ「カテゴリック」ニ過キ受諾ヲ困難トスル向アルヲ耳ニセルカ余ハ原案ヲ勿論可トスルモ之ヲ代フルニ「possiblité d'action offensive」ヲ以テスルコトカ議事ヲ容易ニスルニ於テハ之カ受諾ニ吝ナラス」ト説キ議長途ニ決ニ附ス

我
方
提
案
採
決

(七) 我方提案ハ賛成十六ノ多數ニ對スル反對二「米」及「葡」ヲ以テ我方提案採擇セラレ「英」「佛」「支」等ハ棄權セリ尙右機會ニ於テ「米」ハ右修正案表決ニ關シ報告中ニ聲明ヲナスノ權利ヲ留保スト述ヘタリ

II 及 III
の
討
論

我方提案ニ關スル討論ハ右ノ如ク終結シ委員會ハ有效搭載量ニ關スル小分科會報告ノ部分即從來後廻シトナシ來レルIIノ(e)及IIノ(e)及右ニ關シテ爲サレタル「西」提案(Conf. D./G.A./20)ニ關スル審議ヲ開始セリ

◎IIノ(e)

「航空機ノ有效搭載量ハ多數ノ變數ニヨリ定マル小分科會ハ右變數ハ飛行機ニ付テハ自重、馬力及翼面積、飛行船ニ關シテハ容積及馬力ヲ考慮スルコトトシタリ

絶エス技術上ノ進歩アルカ爲メ變更又ハ改定ヲ必要トスル關係上一定「フォーミュラ」ヲ得ルハ困難ナルモ小分科會

ハ比較ノ目的ヲ以テスル航空機ノ有效搭載量ハ左ノ如ク測定セラルルモノト思考ス

飛行機

自重、馬力及馬力ト翼面積ノ比率ニヨル

飛行船

容積及馬力ニヨル

III (c)

(有效搭載量ニ付テハII (c) 参照)

II (c) "La charge utile des aéronauts est fonction d'un grand nombre de variables. Le Sous-Comité a retenu, parmi celles-ci, le poids à vide, la puissance motrice et la surface alaire pour les avions, le volume et la puissance motrice pour les dirigeables.

"Bien qu'il soit difficile d'exprimer des formules qui, vu les progrès constants de la technique, sont sujettes à modification ou à révision, le Sous-Comité estime que, pour la comparaison, la charge utile des aéronauts peut être mesurée :

"Pour les avions : par le poids à vide, la puissance motrice et le rapport de la puissance motrice à la surface alaire.

"Pour les dirigeables : par le volume et la puissance motrice".

III (c) "Pour la charge utile, voir paragraphe II (c)".

II (c) The useful load of aircraft is determined by a large number of variable factors. Among these the Sub-Committee has noted for purposes of examination, the unladen weight, the horse-power and the wing area for aeroplanes, and the volume and horse-power for dirigibles.

Although it is difficult to arrive at formula, since they are subject to modification or revision in view of the continual technical progress that is being made, the Sub-Committee considers that for purposes of comparison

the useful load of aircraft can be measured :

For aeroplanes : by unladen weight, horse-power and the ratio between horse-power and wing area ;

For dirigibles : by volume and horsepower.

III (c) For the useful load, see paragraph under II (c).

II (c) 從來經過
ニ關スル
報告者ノ
說明

(一) 報告者(典) 飛行機有效搭載量決定ノ爲ニスル要素ヲ如何ニ定ムヘキヤニ付テハ小分科會ニ於テ意見ノ一致ヲ見ルニ到ラス「日」「英」「佛」「波」ハ有效搭載量測定方法トシテハ自重ノミヲ以テ充分トスルノミナラス自重ハ檢證ニ簡單ナル利益アルモ反之他ノ要素ヲモ併セテ考慮スルトキハ檢證ニ困難ナルノミナラス問題ヲ著ク複雑ナラシメ且技術ノ健全ナル發達ヲ阻害ストノ見地ヨリ自重單一標準說ヲ說キ「獨」「亞」「白」「勃」「西」「伊」「典」「瑞西」「蘇」ハ自重ノミヲ以テシテハ精確ナル結果ヲ得難キニヨリ自重ト同時ニ馬力及馬力ト翼面積トノ比率ヲ考慮スヘシトセルカ「米」ハII (c) 第一項ノ趣旨ニ賛スルモ専門的見地ヨリ今少ク研究ヲ加ヘタル上自己ノ意見ヲ發表スヘシトノ態度ヲトリ居レリト小分科會ニ於ケル本件討議ノ經過ヲ略述セリ

(二) 「西」ハ (Conf. D/C.A./20) ニ關シ此種技術的内容ヲ有スル一項ヲ報告中ニ附加スルハ原案II (c) ヲ補足スルト同時ニ一般委員會ニ對スル空軍委員會ノ解答ヲ明瞭ナラシムルノ益アリト提案理由ヲ説明シタル處「波」ハ委員會議事ノ現狀ハ此際「西」案ノ如キ數字提出其他詳論ニ入ルヲ得策トスルモノナルヤ否ヤ疑ナキ能ハス他方「波」代表部トシテハ有效搭載量決定ノ標準ハ飛行機ニ關シテハ自重、飛行船ニ付テハ容積ヲ採ルヲ可トスルモノニシテ要スルニ標準ハ簡單ナルモノヲ以テ可トスル趣旨ナリ。右以外ノ標準ヲ考慮ニ容ルルハ問題ヲ複雑ナラシメ健全ナル航空技術ノ發達ヲ阻害スルノミナラス一般委員會ヨリ廻付セラレタル質問外タル監督然カモ嚴重ナル監督ノ問題ヲモ惹起スヘシトシ「伊」ハ「西」案ニ主義上賛成スルモ二三ノ修正ヲ試ミ度シト前提シ之カ技術的批評ヲ試ミ飛行機ノ有效性ニ關スル部分ニ於テ自重ニ言及セラレ居ラサルヲ大ニ可トスルモ航空將來ノ發達ヲ豫見セサルハ遺憾ナリト述ヘ最後ニ該「西」案第三頁結論トシテ掲ケラレアル修正案第一項末段…… est fonction 以下ヲ一層明瞭トシ同項ヲ

“La capacité d'atteindre le but pour la même charge utile transportée est fonction d'un certain nombre d'éléments parmi lesquels la Commission a retenu, pour examen, le rayon d'action et le plafond”.

“The capacity of arriving at its objective for the same useful load depends upon a number of factors among which the Commission has retained for examination the radius of action and the ceiling”.

ト趣旨ニ修正シ又第二項(一)ノ“Le rayon d'action-radius of action”及(二)ノ“...est fonction-depends upon”ノ後ニ夫々“à partir d'autres conditions—other conditions being equal”ナル字句添加方ヲ提議ス

(三) 次テ「埃」「獨」ハ空軍並防空施設ヲ有セサルニ國トシテハ「西」案ハ無意義ナリト駁シ「典」モ「西」案ニ賛意ヲ拒ミ「佛」ハ一般委員會ニ報告スヘキ標準ハ精確ナルモノタルト同時ニ簡單ナルコトヲ要スト信シ居ル處「西」案ハ却テ之ヲ複雑ナラシムルコトナキヤトテ自重標準說ノ可ヲ説キ右「西」案ヲ參酌シIIノ(c)ヲ左ノ如ク修正セムコトヲ提案ス

e) La charge utile des aéronefs et leur capacité d'atteindre leur but sont fonction d'un grand nombre de variables. La commission aérienne a retenu parmi celles-ci, pour examen, le poids à vide, la puissance motrice et la surface alaire pour les avions, le volume et la puissance motrice pour les dirigeables.

Bien qu'il soit difficile d'exprimer des formules qui, vu les progrès constants de la technique, sont sujettes à modification ou à revision, la commission estime qu'aux fins de comparaison pratique, le meilleur moyen d'apprécier la charge utile des aéronefs et leur capacité d'atteindre leur but est de prendre pour critère,

- a) Pour les avions et hydravions : le poids à vide
- b) Pour les dirigeables : le volume

(四) 「英」亦馬力ノ如キ算定困難ナル標準ヲ參酌セムトスル「西」案ハ徒ラニ問題ヲ複雑ナラシムトノ點ニ於テ「佛」代表所見ニ同意ニシテ「英」代表部ハ既ニ此點ニ關シ一ノ修正案(Conf. D./C.A./19)ヲ提出シ居ルモ前記修正案ヲ「佛」側ニ於テ正式ニ提出スルニ於テハ自國案ハ之ヲ撤回スルニ吝ナラスト述ヘタルモ「伊」ハ「佛」案ノ標準ハ簡單ニ過ク

トテ反對ノ意ヲ表明セリ

於茲「西」ハ依然三標準說ヲ可トスルモ委員會ノ大勢力自重ノミニテ充分ナリトスルニ於テハ必シモ自說ニ固執セスト述ヘ「米」ハ“et leur capacité d'atteindre son but”ナル觀念ハ地理的觀念ニシテ技術的決定不可能ナルヲ以テ之ニ代フルニ一層廣義ナル文句ヲ採用サレ度ク然ル場合ニ於テハ「佛」案ニ同意スヘシトス

最後ニ「佛」ハ三標準說ヲ可トスル向ハ其ノ凡テニ同一價值ヲ認ムルモノナリヤ否ヤト問ヘルニ對シ報告者(典)ハ小分科會ニ於ケル討議ノ狀況ヨリ察スレハ三標準中ノ一ニテモ之ヲ超過セル飛行機ハ特殊ノ取扱ヒヲ受クルモノナリトノ印象ヲ受ケ居レリト答ヘ散會ス

* * *

本會合終ルヤ議場ニ於テ米委員 Dulles ハ佐藤代表ニ對シ

“Au fur et à mesure que la distance de l'objectif diminue, soit en raison du fait que la base de départ des aéronefs est près d'une frontière, soit du fait qu'ils sont sur un navire qui approche cet objectif, la capacité offensive est considérée comme accrue”.

ナル一案ヲ起草シ右ナラハ「米」ニ於テモ受諾シ得ヘキヤニ信スト述ヘタルニ因リ佐藤全權ハ熟考ノ上回答スヘシト述ヘ置キタルカ後刻之ニ同意シ難キ旨ヲ申傳ヘタリ

空軍委員會第十三回會合(五月二十五日)

空軍小分科會報告書(Conf. D./C.A./14)IIノ(c)及右ニ關シ第十二回會合ニ於テ提出セラレタル「佛」案(Conf. D./C.A./21)及同シクIIノ(c)ニ關スル「伊」提案(Conf. D./C.A./23)ヲ討議ス

「佛」案(Conf. D./C.A./21)左ノ如シ

“II e) La charge utile des aéronefs et leur capacité d'atteindre leur but, sont fonction d'un grand nombre de variables. La Commission aérienne a retenu, parmi celles-ci, pour examen, le poids à vide, la puissance motrice et la

surface alaire pour les avions, le volume et la puissance motrice pour les dirigeables.

Bien qu'il soit difficile d'exprimer des formules qui, vu les progrès constants de la technique, sont sujettes à modification ou à révision, la Commission estime qu'aux fins de comparaison pratique, le meilleur moyen d'apprécier la charge utile des aéronefs et leur capacité d'atteindre leur but est de prendre pour critère :

pour les avions et les hydravions, le poids à vide ;
pour les dirigeables, le volume”.

II c) The useful load of aircraft and their capability of arriving at their objective is determined by a large number of variable factors. Among these the Air Commission has noted, for purposes of examination, the unladen weight, the horsepower and the wing area for aeroplanes, and the volume and horsepower for dirigibles.

Although it is difficult to arrive at formulae, since they are subject to modification or revision in view of the continual technical progress that is being made, the Commission considers that for purposes of comparison the best means of appreciating the useful load of aircraft and their capability of arriving at their objective is to take as a standard the unladen weight in the case of aeroplanes and hydroplanes and the volume in the case of dirigibles”.

「伊」案 (Conf. D./C.A./23) 左へ如し

II c) Proposition de la Délégation italienne.

La charge utile des aéronefs et leur capacité d'atteindre leur but sont fonction d'un grand nombre de variables ; la Commission a retenu, parmi celles-ci, pour examen, le poids à vide, la puissance motrice et la surface alaire pour les avions, le volume et la puissance motrice pour les dirigeables.

Bien qu'il soit difficile d'exprimer des formules qui vu les progrès constants de la technique, sont sujettes à modification ou à révision, la Commission aéronautique estime qu'aux fins de comparaison pratique, le meilleur moyen d'apprécier la charge utile des aéronefs et leur capacité d'atteindre leur but, est de prendre pour critère :

Pour les avions : le poids à vide, la puissance motrice et le rapport de la puissance motrice à la surface alaire.
Pour les dirigeables : le volume et la puissance motrice”.

II (c) 第二項ノ討議

II (c) 第二項

(一) 「西」ハ右「伊」案ハ自國案ト同一趣旨ナリトテ「西」案 (Conf. D./C.A./20) ヲ撤回シタル爲討議ノ基礎ハ爾後原

案「佛」案「伊」案ノ三個トナリタリ

「智慧古」ハ自重及有效搭載量ニ關スル定義ニシテ確定セルモノナク

僅カニ「伊」案 (Conf. D./C.A./13) アルノミナルヲ以テ先ツ之カ決定ヲ爲スヘシトシ「米」ハ“Capability of arriving at their objective”ナル語ハ佛伊兩案中ニ存スルモ右ハ地理的考慮ヨリ來リタルモノニシテ技術的見地ヨリ之ヲ決定スルコト不可能ナルカ故ニ削除スヘキコトヲ求メ「亞」之ヲ支持シタルカ決ニ付セル處多數ヲ以テ右字句存置ニ決シ第一項第一句ハ其ノ儘採擇

「佛」自重定義案

(一) 次テ「佛」ハ自重ノ定義決定方ヲ提案シ用意セル自重ノ定義ヲ朗讀セル處標準其ノモノノ決定ヲ先キニスヘキヤ其ノ定義ヲナスヘキヤニ付議論岐レシモ結局報告書第二部ノ討議終了迄定義決定ヲ延期スヘキコトトシ「佛」案第一項第二句ヲ決ニ付シ全會一致ヲ以テ之ヲ採擇シタリ

II (c) 第二項ノ討議

◎ II (c) 第二項

(一) 「波」ハ國際的ニ未タ其ノ算定方法ノ決定シ居ラサル馬力ヲ本文中ニ入ルルハ早計ナリト信スト述ヘ「佛」ハ目標到達能力ナル觀念ノ採擇ニ關シ困難ヲ感スル代表部アルカ故ニ之ヲ削除シ自國案第二項後段ヲ、、、、La Commission estime qu'aux fins de comparaison pratique, il serait nécessaire de prendre pour critère.....”ト修正スルモ可ナリト披露セル處「米」「伊」之ヲ支持シ「英」ハ寧ロ原案ヲ可トセサルヤト述ヘタルモ多數ニヨリ右修正ヲ加ヘタル「佛」案第二項第一句ヲ採擇ス

(二) 第三項末句即飛行機有效搭載量決定ノ標準カ一個タルカ三個タルカノ問題ニ關シ劈頭「伊」ハ前顯自國案 (Conf. D./C.A./23) ノ提案理由ヲ説明シ標準ノ數ヲ多カラシムルコト本軍縮會議ノ目的ニ添フヘシト述ヘ「佛」カニ標準採擇

ノ場合ニ於ケル相互ノ關係如何ト質ネタルニ對シテハ「白」ハ自重ヲ高キニ定ムレハ右自重ヲ超ユルノミニテ該飛行機ハ特別ノ扱ヲ受クヘク三標準共ニ低キニ定ムルニ於テハ三標準ノ總テヲ超ユルモノヲ然リトスヘク「白」代表部トシテハ技術的ニハ後者ヲ可ナリト信シ居レリト答フ

(三)「佛」「英」ハ再ヒ自重、單一標準說ヲ「伊」「典」ハ三標準說ヲ各々主張セシカ議長ハ議論ノ紛糾ヲ察シ他ノ標準ニ關シテハ此際何等決定ヲナスコトナク假ニ自重ヲ標準ノ一ト認メ專門家分科會ヲシテ前顯「佛」側ノ讀ミ上ケタル自重、定議案ヲ討議セシメテハ如何ト提議セル處「米」ハ凡ソ「フォーミュラ」ハ精確ヲ尊ムモ嚴格ニ過クルトキハ航空ノ發達ヲ阻害スル虞アルヲ以テ此點ヲ留保シ專門家分科會設置ニ賛成スト述ヘ「亞」「白」「米」「佛」「伊」「日」「波」及「西」ノ專門家ヨリ成ル專門分科會ヲ設ケタリ

(四)「獨」「蘇」兩國ハ右專門委員會參加方招請セラレタルモ辭退ス右專門分科會ハ同日午後三時半ヨリ開催「佛」案及新ニ提出セラレタル「米」案ニ基キ討議シタルカ結局「佛」案ヲ基礎トシ自重、ノ定義ヲ作成シタリ (Conf. D./C.A./24)
(五) 尙同日委員會ニ於テ「蘇」ハ數字ノ提出ヲ必要トナスニ於テハ同代表部ハ自重六〇〇馬力二〇〇馬力馬力ト翼面積ノ比ハヲ超ユルモノヲ以テ四月二十二日一般委員會決定三標準ニ適合ストノ見解ナリト述ヘタリ

空軍委員會第十四回會合(五月二十六日午前)

前日專門家分科會ノ作成セル自重、ノ定義(Conf. D./C.A./24)ニ若干ノ修正ヲ加ヘ採擇セル上小分科會報告(Conf. D./C.A./14)ノII(c)ノ討議ヲ續行ス

我方有效
搭載重量決
定標準ハ
簡單ナル
必要スト

(一) 劈頭佐藤全權ハ標準ハ簡單ナルヲ必要トシ殊ニ航空技術ノ進歩速ナル現狀竝ニ技術的複雜サヲ避クル必要ヲ考フルトキ然ルヲ感スルモノニシテ自重、ヲ可トスト述ヘタルカ「典」ハ軍用航空全廢及民用航空ノ國際化又ハ嚴重ナル監督ヲ可トスル自國見解ニ依然變更ナキモ他方軍用航空中ニ特ニ進攻的等ナルモノト然ラサルモノトニ區別ヲ設クルノ可能ナルコトヲ認ムルカ故ニ自重一、八〇〇(瓦)水上機ハ二、二〇〇(瓦)馬力六〇〇馬力及馬力翼面積ノ比率一〇ヲ超ヘサルモノ

ト然ラサルモノトヲ以テ右區別ノ限界線トナスヘク又自重、ミヲ標準トスルニ於テハ之ヲ低下シ陸上機ニ付テハ一、六〇〇(瓦)水上機ニ關シテハ二、〇〇〇(瓦)以下トスヘシトテ討議ノ基礎ヲ提供ス

大國側ハ
具體的數
據提出ス
藉ニ耳ヲ
サス

(二)「白」ハ決定セララルヘキ數字ノ如何ニヨリ標準モ一個タルカ數個タルカニ定メラルヘキモノナルヲ以テ先ツ數字ヲ決定スルコト討議ヲ明確ナラシムル所以ナルヘク「典」提示ノ數字ヲ討議ノ基礎トシテハ如何又自重ヲ可トスル代表部ニ於テ大凡ノ數字ニテモ提出ノ意ナキヤト詰メ寄セタルカ何人モ口ヲ開クモノナシ。ヤヤアリテ「佛」ハ自國ニ於テハ今後トモ絕對ニ數字ノ提出ニ反對ナリト云フニハ非ス先ツ「佛」提案ノ質問集ノ研究ヲナシテハ如何ト提議シ「西」ハ特定ノ技術的留保ヲナシタル上「典」代表所言ノ大綱ヲ受諾シ「白」ハ爆撃機ト然ラサルモノトノ境界線設定ニ努ムヘシト述フ

(三) 玆ニ於テ議長ハ數字提示ヲ必要トスルモノハ「西」「典」「白」「瑞西」「伊」「佛」及幹部會ノ七ニ及ヒタルカ他ニ反對ナクムハ本委員會ハ一般委員會ニ對シ數字提示ノ必要アリトノ意見ナリト認メテ差支ナキヤト述ヘタル處「伊」ハ自國提示ノ數字ハ三標準共ニ採擇セラレタル場合ノ數字ナリト注意シ「英」ハ委員會議事ノ現狀ハ數字ノ提示ヨリモ標準ノ決定ヲ先ツ必要トスルモノニシテ數字ノ討議ハ議事ヲ紛糾セシムルノミニテ利益ナシト議長說ニ反對ノ意ヲ表シ「智惠古」ハ自重、ヲ標準トスヘキモ之ヲ余リニ低キニ定ムルニ於テハ民用航空ノ大部分ヲ包含スルニ至ルヘク種々ノ技術的困難モ存スヘキニ因リ「西」案添付ノ表(Conf. D./C.A./20a)ヲ完成スヘキ專門家小分科會ヲ構成スヘシト提議シ「エストニア」モ自重、說ヲ支持ス

(四)「米」亦委員會議事ノ現狀ニ於テハ數字ノ研究ハ不可ナリト信スルモ委員會ニ於テ同意ナラハ「佛」質問集又ハ前顯「智惠古」提案專門家分科會設置ニ賛成ナリ只一般委員會ハ差當リ第一次報告トシテ現在迄ノ結果ヲ通報シ「佛」質問集其他技術的研究ノ結果ハ第二次報告トシテ提出スヘシト希望セルカ結局單一標準ト三標準トニ付記名投票ニ付セル處十八對十九ニテ後者採擇セラル

單一標準
ナ可トス
ルモ十
八國ノ
三標準
ヲモ
トスル
國ノ
十九

△單一標準ヲ可トスルモノ（十八國）

南阿、濠洲、加奈陀、「エストニア」、米、佛、印、日、「レトニア」、「リヌアニア」、蘭、波、葡、羅、英、暹、智惠古、
「ユーゴスラヴィア」

△三標準ヲ可トスルモノ（十九國）

獨、亞、埃、白、「ボリヴィア」、伯、勃、支、丁、西、芬、希、洪、伊、墨、典、瑞西、士、蘇

△棄 權

諾、「ヘルシヤ」

海上航空
兵力ニ
スル決
定ヲ
長通
報ヲ
ナス

（五）次ヲ議長ハ海上航空兵力問題ニ關スル五月二十四日ノ空軍委員會決議ニ關シ左ノ如ク通報ス

Dans sa séance du 24 mai, la Commission aérienne a adopté sur cette question la proposition japonaise. Je tiens à souligner que, par cette résolution, la Commission aérienne a voulu, avant de procéder au travail de coordination avec la Commission navale et pour faciliter ce travail, établir un avis purement technique. La Commission aérienne a estimé, en effet, que le travail de coordination serait plus facile si les deux Commissions navale et aérienne préparaient au préalable leur thèse purement technique, pour ensuite entreprendre l'oeuvre de coordination en vue, si possible, d'établir un texte unique.

Il est donc clair que la décision de la Commission aérienne a un caractère technique, que ce travail doit être coordonné avec celui de la Commission navale et que, de plus, la décision d'ensemble sur cette question appartient à la Commission générale. On voit donc que cette question comporte trois phases et que la Commission aérienne n'a fait que procéder à l'établissement de la première et en a avisé la Commission navale par lettre en date du 25 mai, adressée par son secrétaire au secrétaire de la Commission navale.

右通報ニ
對スル我
方ノ注意

（六）右ニ對シ佐藤全權ハ右通報ノ趣旨カ海上航空兵力問題ヲ改メテ審議ストナスモノナルニ於テハ同問題カ正式ニ議シセラレタル今日之ニ絶對ニ反對ノ意ヲ表スト聲明セル處議長ハ必要アラハ設置セラルヘカリシ空海混合委員會モ空軍委

員會トシテハ其ノ必要ヲ認メスシテ全ク技術的の見地ヨリ日本提案ニ付決ヲ採リタル次第ニテ本件ニ關スル決定ハ其ノ儘ナリト答フ

「英」「米」
ノ留保

（七）右機會ニ於テ「米」ハ本件ニ關シ留保スル處アルヘキ旨ヲ聲明シ又「英」ハ本件決議ハ航空母艦ノ問題ノ決定ヲ「ブレシチエー」セサルモノト了解スト述ヘタリ

空軍委員會第十五回會合（五月二十六日午後）

（一）「白」ハ委員會議事現狀ハ今ヤ數字提示ヲ必要トスル時期ニ達セルモノト認ムトテ小分科會ニナセル「白」提案（Conf. D./C.A./Bureau 2）ニ左ノ如ク具體的數字ヲ入レテ提示シタリ（Conf. D./C.A./26）

“Les aéronefs les plus offensifs sont :

I. Les aéronefs capables de transporter à a km, b kg. de bombes.

Doivent être considérés comme rentrant dans cette catégorie

Les aéronefs dont :

Le poids à vide dépasse 1.500 kg. ;

La force motrice 550 C.V.

et dont le rapport de la puissance motrice à la surface alaire est inférieur à 10”.

「白」ハ尙右ノ外一定機種ノ飛行機ニ關シ適當ノ制限ヲ提議スヘキ旨ヲ留保セリ

（二）「英」ハ標準ノ價值ニ付意見ノ一致ヲ見タル上ニ非スムハ數字ノ提示ハ困難ナリト述ヘ佐藤全權ハ數字ヲ公正ニ決定セムトセハ如何ナル目的ノ爲ニ如何ナル地理的状況ノ下ニ又如何ナル軍事的状況ニ於テ飛行機力使用セラルルカラ充分ニ研究スルヲ要スルヲ以テ至難ナリ例ヘハ地理的状況ニ付テ考フルニ陸境國ハ單ニ國境ヲ考慮スルヲ以テ足レリトスルモ海境國ニトリテハ大型機ト雖モ進攻的適性ヲ有スルヲ得サルヘク又海境國ノ中ニアリテモ海防ヲ以テ首位ニ置クモノト然ラサルモノノ別アルヲ見ルスクノ如ク各國ノ状況ハ異ルヲ以テ技術的の見地ヨリスルモ將又公正ノ觀念ヨリスルモ飛

行機ヲ二種ニ分ツ單一區劃線ヲ設ケムト試ムルカ如キハ無謀ナリ因テ余ハ委員會ハ數字決定ニ先テ前記諸般ノ事情ニ充分ナル研究ヲナサムコト希望ニ堪エスト説キ「佛」モ自重ノ定義ハ定マリタルヲ以テ他ノ二標準即馬力及翼面積ノ定義ヲ試ムルヲ可トスヘク何レニセヨ數字決定ニ先テ慎重ナル研究ヲナスヲ可トスヘシト我方ノ説ト大體同意旨ヲ述フ

(三) 次テ「波」ハ現在迄ニ提示セラレタル數字ヲ基礎トナスニ於テハ「波」代表部力特ニ進攻のナリト認メ居ラサル攻撃機迄モ之ニ包含セシムルヲ以テ該數字ニ同意スル能ハス此ノ際必要ナルハ有效搭載量ナル觀念ノ分析ナルカ之カ爲ニモ「佛」質問集ノ研究ハ必要ナルヘシト説キタルカ議長ハ然ラハ馬力及翼面積ノ定義ヲ今直チニ本委員會ニ於テ審議スヘシトシ前者ニ關シテハ專門家報告(G. 259. M. 115. 1931. VII)ヲ後者ニ付テハ「西」提案(Conf. D./C.A./27)ヲ討議ノ基礎トスヘク更ニ馬力ニ關シテハ一般委員會ニ對シ右專門家報告ヲ「メンション」スルコトトシテ可ナルヘシト諮リタル處「英」ハ右專門家報告中ノ「フォーミュラ」ハ必シモ満足ナルモノニアラスト指摘シ「米」ハ米國海陸飛行隊及二大飛行機製作所ハ三月月ニ互ル研究ヲ行ヒタルモ同報告中ニ記載ノ「フォーミュラ」ノ不完全ナルヲ見タリ加之本「フォーミュラ」ハ軍縮條約案中當該項ニ關聯シテ研究セラレタルモノニシテ個々ノ發動機ノ算定方法トシテ研究セラレタルモノニ非スト注意シ「波」亦大體同一趣旨ニテ反對シ議論紛糾ス

(四) 議長ハ本點ニ關スル一般委員會ニ對スル報告ハ自重ヲ飛行機ニ付キ一ノ標準トスルニ委員會ノ意見一致セルモ馬力算定方法ニ付テハ然ラストシ前記專門家報告ヲ「メンション」スル趣旨トナシテハ如何ト提議セルモ「英」ハ不完全ナル報告書ヲ「メンション」スルヨリハ寧ロ意見ノ不一致ヲ報告スルノ淡白ナルニ如カスト駁シ他方「佛」モ右報告ハ專門家間ニ於ケル概略の妥協案ニシテ關係國政府ニシテ右ニ關シ意見ヲ發表セシモノアルヲ聞カスト皮肉リ結局各代表部ニ本點ニ關シ熟考ノ時ヲ與フヘシトノ報告者ノ「サジェスション」ニ從ヒ翼面積ノ定義ニ移ル

(五) 「西」ハ自國案(Conf. D./C.A./27)ヲ説明セル處「英」ハ起草委員會ヘ廻付方ヲ提議シ結局本件審議ヲ後日ニ讓ル

(六) 終リニ「佛」質問集(Conf. D./C.A./14 第六頁)ノ採否問題ニ及ケルカ「獨」ハ議事遲延ヲ理由トシテ反對シ佐藤

全權ハ本質問集ノ討議ニ賛成ナルカ必要ニ應ジ之ニ他ノ事項ヲ添加スルノ權利ヲ留保スト述ヘ「米」ハ反對ハセサルモ「佛」質問集議丁迄一般委員會ニ對スル報告ヲ延期スルハ考ヘモノナリト述フ

空軍委員會第十六回會合(五月二十七日)

前回ニ引續キ小分科會報告(Conf. D./C.A./14) IIノ(c)及IIIノ(c)ニ關スル討議ヲ即チ有效搭載量決定標準ヲ討議シ自重ニ付テハ具體的數字提出ノ機運愈々濃厚トナル

(一) 「白」ハ大國中自重ノミヲ以テ有效搭載量決定ニ充分ナル標準トナスモノアリシニ因リ之ニ對シ具體的數字ノ提出ヲ求メシモ未タニ其ノ事ナシ思フニ一切ノ攻撃機ノ自重ハ一、八〇〇瓩ヲ超ユルヲ以テ幾分ノ餘裕ヲ設ケ一、五〇〇瓩ヲ以テ特ニ進攻的ナル飛行機ト然ラサルモノトノ限界トスルヲ可トスヘシ而シテ自重ニ關スル右數字ヲ大ナラシムルニ於テハ他ノ標準ヲモ考慮ニ入ルルコトヲ求メ「伊」「瑞西」之ニ贊意ヲ表シ「諾」モ具體的數字ニ付テハ目下本國政府ニ請訓中ルカ「白」聲明ノ趣旨ニ同意シ可ナリト述フ

(二) 「佛」ハ「佛」提案質問集(Conf. D./C.A./14)ノ研究ヲ以テ具體的數字提出ノ前提ナリトシ「蘭」ハ自重單一標準説ヲ可ナリトシ次テ攻撃機及空中爆彈ノ一切ヲ以テ四月二十二日一般委員會決議ノ三標準ニ適合スト信スルモノナルカ攻撃機以外ノ機ニアリテモ自重一、五〇〇瓩(水上飛行機ニ付テハ千八百瓩)ヲ超ユルモノハ容易ニ攻撃機トシテ使用シ得ルモノナルヲ以テ之亦前記三標準ニ合致スルモノト見ルヘキナリ因テ「白」提示ノ數字ニ賛成ヲスヘク又更ニ一層低キ數字ノ提示アラハ空中爆撃全禁ヲ強調スル自國代表部ハ喜ヒ考慮スヘシト述フ

(三) 次テ議長(「瑞西」)ハ具體的數字提示國ヲ更ニ數ヘ上ケ今日迄提出セルモノニ「伊」「白」「西」「瑞西」「典」「諾」及「蘭」ノ七國アリテ「佛」亦數字提示ノ必要ヲ認メ居ルモノト信スル處右以外ノ代表部ニシテ數字ヲ提示セムトスル向ハ至急之ヲ書記局ニ通報セラレ度シト討議ヲ具體的數字ノ提示ニ導カムトシ次テ「佛」質問集ニ言及シ海軍委員會ハ之ト同種ノ質問集研究ノ爲約一ヶ月ヲ要シタルカ空軍委員會ハ此際斯ル時間ヲ割クノ餘裕ナク「佛」代表部ニ於テ右質

問集ヲ撤回セラレマシキヤト尋ネタル處「佛」ハ之レカ撤回方ヲ拒絕シ我方及「英」ハ「佛」質問集研究ノ必要ヲ述ヘシカ何等決ヲ採ルコトナク次回ヘ譲レリ

空軍委員會第十七回會合(五月三十一日)

依然トシテ小分科會報告(Conf. D./C.A./14)ノIIノ(c)ト關聯シ有效搭載量決定標準ニ付討議ヲ行フコトナリオリタルカ議長(「瑞西」)ハ右討議開始ニ先チ一般委員會ハ六月十日頃開催ノコトニ略々定マリ從テ各種專門委員會報告ハ遅クトモ六月六日迄ニ提出スルヲ要スト議事促進方ヲ求メタリ

(一)「米」ハ具體的數字提示方ニ關シ自國ノ態度ヲ述ヘテ曰ク「白」代表ハ第十六回會合ニ於テ具體的數字提示ニ言及セルヲ以テ空軍委員會ハ今ヤ一般委員會ニ對スル自己報告中ニ右數字ヲ挿入スヘキモノナリヤ否ヤヲ決定スルヲ要スヘシ

「米」ト雖
モ軍事
的價值
ニ認
用機
合
アル
アリ

報告現在ノ形式ニヨレハ航空機ノ進攻的性質ハ有效搭載量及目標到達適性ニヨルトノミ記載アル處(防禦的性質ニ關シテモ大體同様ナルヘシ)一切ノ軍用機及軍事上ノ目的ノ爲ニ改造ヲ加ヘラレタル民用機ハ爆彈投下ニ使用セラルルヲ得ヘク又五〇〇斤ノ爆彈搭載ノ飛行機二機ハ千斤ノ爆彈ヲ有スル一機ニ比シ進攻的性質ヲ有スルコト明ナリ

從テ單ニ大體ニ於テ爆撃機ノ有スル大サヲ定メ右大サヲ超ユルモノヲ排除セムトスルモ之ト同時ニ量の軍縮ヲ伴ハサレハ無意義ナルノミナラス右區劃線ヲ定ムルニ當リテハ各國ノ地理的位置ヲ考慮セサルヘカラス例ヘハ「米」ノ大型軍用機ハ人員及器材運搬ノ爲メニ使用セラルルモノニシテ恐ラク將來ト雖モ爆撃ニ使用セラルルコトナカルヘキハ其一例ナリ

「米」數字
提示ハ歐
洲ノ問題
ナリトス

他方飛行スヘキ距離大ナル場合ニハ飛行機ノ型ハ其レ自體進攻的性質ニ關スル必要ナル證左タルニ非ス「米」カ報告中ニ目標到達能力ノ挿入方ヲ求メタルモ右理由ニヨルニ外ナラス要スルニ本委員會討議ノ現狀ハ幸直ニ云ヘハ歐洲本位ナリト云フヲ得ヘク斯ル現狀ニ於テ「米」代表部ハ進攻的ノモノト然ラサルモノトノ區別タルヘキ數字ノ提出ハ此際躊躇

セサルヲ得ス然レトモ右ハ「米」代表部カ本會議ニ冷淡ナルコトヲ意味スルニ非スシテ現ニ提示セラレツツアル數字ノ如ク數學的且專斷的ニ定メラレタルモノヲ採用スヘキニ非ストノ意味合ヒナリ故ニ一般委員會ニ對シテハ出來得ル限り速カニ報告ヲ提出シ右報告中ニハ現在數字ヲ記載スルト共ニ「空軍委員會ハ爆撃カ一般市民ニ對スル重大ナル脅威タルコトヲ全會一致ヲ以テ認メ空中爆撃ノ監督其他右脅威ヲ除クヘキ有效ナル方法ヲ審議セムコトヲ一般委員會ニ勸告ス」トノ趣旨ヲ記載シテハ如何ト述フ

(二) 次テ議長ハ同日午前九時ヨリ「ビュロー」ノ會合ヲ開キ討議現狀ニ付考究シタルカ右ハ

(イ)「佛」質問集ハ軍事上及技術上ノ見地ヨリ好箇ノ研究基礎タルヲ以テ之カ審議ヲナシ右審議中ハ一般委員會報告作成方ヲ待ツヘシトスルモノ

(ロ) 委員會討議ノ現狀ヲ報告スルニ止ムヘシトスルモノ

トノニアリトノ結論ニ達セリ然ルニ(イ)ニ關シテハ一方對一般委員會報告提出期日タル六月六日ノ目睫ニ迫レル事實ヲ考フルノ要アルト共ニ他方「佛」質問集ハ「日」「英」等ノ支持ヲ受ケラルヲ以テ簡單ニ之ヲ否決シ去ルカ如キハ禮讓ニ反スルト認メラルルカ故ニ

(イ) 空軍委員會ハ報告者ニ對シ速ニ其ノ討議現狀ニ關スル一般報告起草方ヲ委囑シ

(ロ) 同時ニ「佛」質問集ヲ研究スヘキ專門家小分科會ヲ設ケ六月六日迄ニ其ノ特別報告作成セラルレハ前記一般報告ノ一部トシテ一般委員會ニ提出シ然ラサル場合ニハ右特別報告ハ後刻別箇ニ提出スルコトト致シ度シト諮リタル處

「佛」ハ議長ノ前回會合ニ於ケル慫慂ニモ鑑ミ一ノ決議案ヲ作成シ事務局ニ提出シ置キタルカ議長所說ノ小分科會ハ「佛」質問集ノミナラス右決議案等ヲモ一般的且技術的見地ヨリ審議ヲナスヘク同分科會ノ議長長キニ互リ期日ニ間ニ合ハスニハ「佛」ハ一般報告中ニ自國獨自ノ見解ヲ記入スルノ權利ヲ留保スルコトトスヘシト述ヘ議長ヨリ右「佛」決議案ハ目下印刷中ナレハ同日夕ニハ配布ノ運ヒトナルヘク專門家小分科會設置ニ決スレハ六月一日午後ニ開催スヘ

シト披露ス

(三) 「蘇」ハ現在ニ於ケル一般委員會ニ對スル報告ハ其ノ辭句空漠ニシテ小分科會ノ作成セルモノニ比シテ何等新味ヲ加ヘタルモノナキノミナラス却テ其ノ調子ヲ弱メタル感アリテ何等具體的結論ニ達シ居ラサルヲ以テ具體的數字ノ提出最モ肝要ナリトテ自國提示ノ數字(第十三回會合記事參照)ヲ再說シ世界大戰中ノ空軍ト空軍現在發達ノ狀況ヲ數字ヲ舉ケ比較評論シ要スルニ軍用航空全部カ進攻のナリト斷シ轉シテ空軍委員會ハ他ニ化學兵器研究ニ關スル機關カ本會議中ニ設置セラレタル爲ナルヤモ知レサルカ化學兵器ニ對シ現在ノ如ク無關心ナレハ誤レリトシ最後ニ「佛」質問集ハ討論ヲ遅延セシムルノミニテ無益ナリト斷シ「獨」「伊」亦「佛」質問集研究無用論ヲ唱ヘタルモ「佛」ハ自國質問集研究ノ必要ヲ力說シテ讓ラス「獨」ハ「佛」質問集ノ研究ハ一般委員會ヘノ報告ト獨立シテ行ハルル研究ナリヤ將又該報告ノ一部ナリヤト質シ「白」ハ本問題ハ現在ニテハ主義上又ハ技術上ノ問題ト云ハムヨリハ寧ロ禮讓ノ問題タルカ故ニ全會一致ヲ以テ之ヲ採擇スルノ標度ヲ示ササト說ク

(四) 於茲議長ハ前記(二)所載提案ノ第一點即チ報告者ヲシテ速カニ議事現狀ニ關スル報告書起草方委囑ノ件ヲ決ニ付シ委員會之ヲ採擇シ次テ第二點即チ「佛」質問集及同決議案審議ノ要否ヲ決ニ付シタル處「伊」「蘇」其他極メテ少數ノ反對二十五對三アリタルノミニテ右審議ヲ行フコトニ決シ「日」「英」「米」「佛」「伊」「獨」「白」「亞」「波」「西」「智惠古」「洪」及「ビュロー」ヨリ成ル小分科會ヲ構成スルコトナレリ尙「蘇」ハ右分科會ニ列席ヲ指定セラレタルモ辭退セリ

尙右小分科會ハ前記ノ通り六月一日午後空軍委員會本會議ハ六月三日午前開催後者ハ小分科會ノ議事ト關係ナク報告書案ノ審議ヲ行フコトトセリ

四、五月三十一日第十七回空軍委員會ニ於テ設置セラレタル小分科會議事經過

五月三十一日第十七回空軍委員會ニ於テ佛國決議案(Conf. D/C.A./28)及佛國質問集(Conf. D/C.A./14 annexe)審議ノ

目的ヲ以テ設置セラレタル小分科會六月一日ヨリ同三日迄前後三回會合セリ其ノ經過左ノ如シ

小分科會第一回會合(六月一日)

議事公開
決定

(一) 議事進行ニ付「獨」發言ヲ求メ本小分科會ノ議事公開ヲ求メシカ「佛」ハ議事録ヲ作成スルニ於テハ同意スルモ可ナリト述ヘ「獨」ハ化學兵器特別委員會ハ議事録ヲ作成セザリシモ公開ナリシニ非サヤト駁シ結局公開ト決ス

(二) 次ニ「英」「米」ハ「佛」決議案ノ項目別ニ討議スヘシト提シ「佛」亦本決議案ハ質問集ニ代ルヘキモノナルヲ以テ「英」「米」提議ニ同意スト述ヘ項別審議ヲ開始ス

◎前文

「伊」ハ「佛」案ノ趣旨ハ國防(永久の築城ヲ以テ其ノ代表的觀念トス)破壊ノ效力詳言スレハ永久の築城ニ對スル爆撃ヲ其ノ根本的觀念トスルモノト察セララルモ(イ)永久の築城ノ現狀ニ就テ考フルニ其ノ國防ノ一要素タルコトニ疑ナキモ最重要ノ要素タルニハ非ス(ロ)又單一飛行機力之ヲ破壊スルヲ得サルノミナラス他方(ハ)一國內部ニ存スル抵抗力ノ考察ヲ緊要トシ(ニ)重要地點ノ防空設備モ亦然ルヲ認ム換言セハ近代戰爭ハ國ノ全勢力ヲ舉ケテ行ハルルモノニシテ永久の築城ニ付テノミ國防破壊ノ效果ヲ律セムトスルハ當ラスト述ヘ「蘭」之ヲ支持ス

「米」ハ「佛」決議案ヲ討議ノ基礎トセムコトヲ提セルハ永久の築城ヲ以テ根本的觀念トスルコトヲ受諾セルノ意ニ非スト辯シ其後二三應酬アリシモ前文ニ付テハ英文「テキスト」第一項“which it is desired to attain”ヲ“at which directed”ト第二項第二行目“relating”ヲ“relative”ト修正セルノミニテ討議ヲ終了ス

◎各論

Iノ1ノ討論

I 一般的考察

1ノ討論

「獨」ハ本點ニ關シ書面ニヨリ修正ヲ提出スルコトアルヘシト前提シタル後1ノ第二行“depend”ノ語ノ次ニ“dans le

cas des pays possédant des moyens de défense contre les attaques aériennes”ノ語ヲ加ヘ同末段“chaque pays”ノ後ニ Dans le cas des pays qui ne possèdent aucune défense aérienne, l'efficacité des armements aériens ne dépend pas de la charge utile. Tous les aéronefs devront être considérés comme efficaces contre la défense nationale.”トノ趣旨ノ辭句ヲ加ハラレタシト提議セルカ「佛」ハ書面ニヨリ修正案ヲ出サレ度ク「佛」ハ自國ノ見解ト一致スル限度ニ於テ之ヲ考慮スヘシトス右「獨」修正案ノ外「白」モ若干ノ辭句ノ修正案ヲ出セシモ「佛」「英」共ニ之ニ同意セス尙「米」ハ英文「テキスト」第二頁第三行冒頭“for scouting operations”ナル語ノ削除ヲ求ム

2 ノ 討 議

Iノ2ノ討議

「蘭」ハ永久的築城ノミヲ強調スルハ不當ナリト指摘セルニ對シ「佛」ハ永久的築城、重要地點其他ノ觀念ヲ組ミ入レタル「レダクシヨシ」ヲ作成スヘシト妥協ス

「米」ハ第一項二行“attack”ノ後ニ“by an aggressor”ノ語ヲ加ヘ第二項劈頭“However”ヲ“Furthermore”ニ改メ“against”ノ後ニ“mobile forces and others”ヲ加ヘ第三項第一行“fact that”ノ後ニ“various”ノ語ヲ加フヘシト提議シ「白」ハ第一項ハ

“L'efficacité des armements contre la Défense nationale est fonction des possibilités qu'ils offrent en ordre principal d'attaquer les centres vitaux du pays et en ordre secondaire de détruire des obstacles qui s'opposent...”

ト修正スヘシト主張ス「獨」ハ一ニ於テ“charge unitaire militaire—useful military load”ト云ヒIIノ特殊考察ノ前文ニ於テハ單ニ“charge util—useful load”ヲアルハ不一致ナリト指摘シ「佛」「米」ハ「國ノ狀況ニヨリ」トノ語ヲ附加スルコトヲ條件トシ賛成ス

IIノ討議

特別考察

△前文ノ討議

「英」前文三行目“is 27,000 lbs”ヲ“is about 27,000 lbs”ト修正方ヲ提議シ「佛」受諾ス

a 使用ノ一般條件ニ關スル考察

1 ノ 討 議

「白」ハ乗員三名乃至五名トアルモ單座式ニテモ茲ニ揭示性能ヲ有ス又永久的築城ヨリモ重要中心地ノ觀念ヲ可トスト述ヘ「獨」「伊」「米」ヲ支持セルモ「佛」ハ必シモ然ラストテ讓ラス「英」ハ“permanent fortification”ヲ“other objective”ト代フルヲ可トセスヤト提議ス

「米」ハ第三行ノ“3 to 5”ヲ“1 to 3”ト修正スヘシトセル處「佛」ハ「國ノ狀況ニヨリ」トノ語ヲ附加スルコトヲ條件トシ賛成ス

2 ノ 討 議

「波」ハ飛行船ノ有效搭載量ヲモ考慮ニ入レヨト提議セシモ問題トナラス「獨」ハ「航空發達ノ現狀ニ於テハ三〇基乃至四〇基米ノ行動半徑ハ飛行機ニ進攻的性質ヲ與フルニ充分ナリ」トノ趣旨ヲ挿入セムコトヲ提議シタリ

3 ノ 討 議

「獨」本項ノ受諾不可能ヲ宣シ議長ハ報告中ニ其旨記載スヘシトス「米」ハ第二句ヲ左ノ如ク修正セムコトヲ提ス
“An aircraft considered individually may hope to obtain result with the effort only by the launching of a salvo containing enough bombs to ensure at least one hit that will cause appreciable damage. The size, nature and strength of the target, the altitude of the aircraft, and the character of the defense influence the accuracy of bombing and determine the size and number of bombs that should be carried in one load.”

b 永久的築城ニ對スル動作

1 ノ 討 議

「獨」ハ本項ニ關シテモ修正案ヲ出スヘク又永久的築城ノ觀念ヲ除ク方可ナルヘシト述ヘ「米」ハ本項ニ關シテモ左ノ二提

案ヲ出ス

- (a) 第一行 “really” ヲ削除シ第二行 “national defense” ヲ “permanent fortification” トス
(b) 末項第五行 “really” ヲ削除シ第六行 “national defense” ヲ “such objective” トス

2 ノ 討 議

「米」ハ第二項ニ左ノ字句ヲ追加ス

“It should be noted that aircraft will seldom be employed in warfare against permanent fortifications if the attacker possesses reasonable numbers of heavy mobile guns, since the latter are more efficacious under these circumstances than are aircraft bombs”.

c 戦、闘、上、ノ、使用

「佛」獨
ノ小競合

「獨」カ留保の提議ヲナスヤ「佛」ハ本委員會一般報告ニ關シテモ包括的留保ヲナセル「獨」カ斯克ノ如ク屢々議事ノ進行ヲ遅々タラシムルカ如キ態度ヲ採ルハ丁解ニ苦シムト述フルヤ「獨」ハ一般委員會ニ對スル報告ト現在討議トハ自ラ別問題ト解スレハコソ自國見解ヲ述ヘ來タレルモ「佛」代表カ斯克ノ如キ態度ヲ採ルニ於テハ今後發言セスト答フ

1 直、接、攻、撃

我方海洋
國ノ地位
ニ付注意
ヲ促ス

我方第三項及第四項ニ關聯シ本項謂フ處ノ飛行機ハ陸上基地所屬ノモノト解スル處其ノ行動半径ノ如キハ防禦スヘキ海面ノ廣サニヨリ異ルモノニシテ劃一的ニ決定スルヲ得ヌ又(佛文)第四頁第一項ノ事項モ各國ノ多種多樣ナル地理的位置ニモ鑑ミ一概ニ決定シ得スト述フ

2 情 報 蒐 集

「米」ハ左ノ修正案ヲ出セリ

- (一) 英文第七頁 e f a t s i n 新ニ左ノ一項 e t s i t e 設クヘシ

“In addition to direct action against convoys and troops on the battlefield, aircraft will also be employed against troops in mobilization centers, and against railway yards and bridges. Where such objectives are located within centers of population, the attacking aircraft constitute a threat to civilians in the immediate vicinity.”

Aircraft effective against troops in mobilization centers should be at least as large as those mentioned above for use against columns on the march, and preferably would be airplanes of the largest size, armed with bombs weighing from 50 to 100 kgs.

Aircraft to be effective against railway yards and bridges should carry the maximum possible load of bombs weighing from 200 to 500 kgs.”

- (一) 舊 e n “chaser plane” e “pursuit plane” ト修正ス

- (二) 舊 e a r t 改メ其ノ前ニ新項ハ左ノ如ク加フ

Action against munitions factories and storehouses.

“While in a prolonged war the destruction of munitions factories and storehouses would become important this is not the cause in the early days of hostilities, as at that time the principal objectives of the attacker are the destruction of the defense forces and the capture of important communication facilities and territory.”

The aircraft most useful for the bombardment of munitions factories, etc., are similar to those required for attacks in lines of communications”.

- (四) 舊 e a “空軍々備カ一般市民ニ與フル脅威”ノ項第二行第三行 “if they are used by an army to attack civilians” トアルヲ whether employed directly against them or against objectives located in densely populated districts.” ト修正ス

小分科會第二回會合(六月二日)

「洪」ハ開會後直チニ「佛」新決議案(Conf. D./C.A./S.C.A. 1) e (前回會合後各國代表部ノ申出ヲ參酌シ新ニ「佛」側ノ作成セルモノ)極メテ重要ナルモノナルカ故ニ六日乃至七日迄研究ノ餘地ヲ得タシト述ヘ「伊」之ヲ支持セシカ結局「佛」ノ修正理由ヲ聽取シタル後次回會合ノ日取ヲ定ムルコトトシ「佛」ハ新案ノ説明ヲナシタリ

- (一) 前文ニハ變更ヲ加ヘス
- (二) 一般的考察
- 1 ノ第二項ノ末段ニ或ル代表部(我方ヲ指ス)ノ注意ニ依リ海洋國ノ地位ヲ特ニ「メンション」スル趣旨ニテ「pour ceux qui sont séparés des autres Etats par une étendue d'eau plus ou moins large」ノ字句ヲ加フ
 - 2 永久の築城ノミヲ考慮ニ容ルルコト不可ナリトノ說ヲ考慮シ本項ニハ大修正ヲ加ヘタリ
 - 3 ハ新ニ附加
- (三) 特種考察
- 前文、、、「英」ノ注文ニヨリ二七、〇〇〇「キログラム」ノ前ニ約ノ字ヲ加フ
- 1 ハ「米」「白」ノ希望ニヨリ「乗員一乃至五名」トセリ
 - 2 「白」「蘭」ノ希望ヲ汲ミ修正スル處アリタリ
 - 4 ハ新ニ附加
- (四) 國防破壊ノ效果(佛文第四頁)
- A 原案ヲ簡單ニシタリ
 - B Contres viraux ノ觀念ヲ新ニ汲ミ入レタリ
 - C D ハ共ニ「米」案ニ依ル
 - E 舊Dニシテ第二項ヲ若干修正セリ
 - G 些少ノ修正ヲ加ヘタルモ趣旨ニ變更ナシ
- (五) 一般市民ニ對スル脅威(佛文第九頁)
- 一、二、三項共「米」修正希望ヲ參酌シタリ

右佛代表ノ説明終ルヤ「米」ハ本特別報告ハ之ヲ空軍委員會ニ對スル一般報告ト共ニ一般委員會ニ提出シタシト希望ヲ述フ

小分科會第三回會合(六日三日)

「伊」小分科會ニ對シテ
「佛」決議案修正案
「佛」決議案修正案
「佛」決議案修正案

「佛」決議案修正案(Conf. D./C.A./S.C.)ニ付キ頁別討議ヲ開始ス「伊」ハ討議開始ニ先チ本小分科會ノ討議ニ今後參加セス只空軍本委員會報告中ニ自國見解ヲ記載スルコトトシ度シト留保の聲明ヲ爲セリ

第一頁

其ノ儘採擇

第二頁

「白」ハ第二項冒頭ヲ“En particulier les répercussions...”ノ、ノ、ト修正シ同第二項第三行“Voisins immédiate”ノ後ニ“dont les points vulnérables se trouvent près de la frontière”ノ字句ヲ附加セムコトヲ求メ其ノ通り決定ス

第三頁

II 特種的考察

(一) 「白」ハ「使用ノ、一般的條件ニ關スル考察」ノ一ニ左ノ如ク附加スヘシト提シタルモ「佛」ハ之ニ同意セス

“C'est précisément la possibilité que possèdent les avions multiples d'assurer leur défense propre qui leur permet de survoler profondément les pays ennemis et augmente, de ce fait, le caractère offensif de ces avions”.

(11) 「波」ハ第三項第三行“grande densité de population”ノ次ニ“contre les pays dont les points vulnérables se trouvent près de la frontière”ノ字句ヲ加ヘムコトヲ求メ又「白」ハ同項末句即“Par contre, ... un grand rayon d'action”迄削除ヲ求メ「蘭」之ヲ支持シ右ニ決ス

第四頁

「白」ハAノ(2)削除ヲ提議シ原案者「佛」ハ本項ハ「英」ノ提議ニ基クモノナレハ「英」ニ於テ異議ナクハ削除ニ同意スヘシトセルカ「英」ハ之カ存置ヲ主張シ其通リニ決ス

「白」ハ第二項第二句

“ Elle peut même être capitale dans le cas d'un pays dont la vie et l'existence dépendent de la résistance d'un obstacle élevé contre une menace naturelle ”.

ナル字句ハ意義不明瞭ナリト指摘セルニ對シ「佛」ハ本字句ハ「*concern*」ヲ重視スル「蘭」ノ提議ニ基クモノナリト説明シ結局「蘭」ト報告者トノ交渉ニ任スヘキコトトス

「蘭」ハ第三項第三行“projeciles à gaz et surtout incendiaires”ノ字句ハ不完全ナリトシ「米」ハ同ク第三項第三行末尾“ces projectiles”ヲ改ムシトス

第四項ニ付テハ果シテ同項カ専門的事項タルヤ否ヤニ付キ疑義アリシカ結局報告者ニ採否ヲ一任セリ

第六頁

(二) Dノ第一項第二行目ハ「米」ノ要求ニヨリ“qui deviendrait un *objectif* important, dans le cas d'une guerre prolongée, serait *probablement* *attaqué* au commencement des *hostilités*”. ト修正シ又「白」ハ同項第三行末以下ヲ“À ce stade de la guerre, en dehors de l'attaque des *centres vitaux*, les principaux *objectifs militaires* de l'agresseur... ト改メ且何ヘシモ

「市街」ヲモ考慮ニ容レヨト求メタルカ結局右「ミリテール」ノ語ヲ挿入スルコトニ決ス

我方本決
 議案中ノ
 數字ハ各
 代表部セ
 均東セザ
 解スト直
 解スト直

(二) 右機會ニ於テ佐藤全權ハ本決議案ニ諸種ノ數字アルモ右ハ各國ノ態度ヲ「コムミツト」セシムル趣旨ニ非ルヘキニ
 ヨリ此ノ點明ニスル要アルヘシト指摘シ議長及「佛」ハ右注意ニ從ヒII國國防破壞ニ關スル效力ノ項(佛文第四頁)ノ冒
 頭ニ「本項ニ掲クル數字ハ「a titre d'indication」ノ意ニ過キス」トノ趣旨ノ一句ヲ加フヘシト述(其ノ通りニ決ス

頭ニ「本項ニ掲クル數字ハ“a titre d'indication”ノ意ニ過キス」トノ趣旨ノ一句ヲ加フヘシト述ヘ其ノ通りニ決ス

「米」ハ直接動作ノ項b末行ノ、(4 bombes de 150 kilos) ヲ削除スヘシトス

H、各種用途ノ項第一行及第二行 “Unions coloniales et internationales” ヲ「佛」ト議長（「瑞西」）トノ話合ヒニヨリ
 “Unions entre les territoires et possessions” トヌルコトトス

「白」ハ第三行 “la zone des hostilités directes” ヲ “la zone de champs de bataille” ト又「米」ハ第七行 “bactéries” ノ前ニ “ou” ノ語ヲ入ルヘシトス

「獨」ハ議案ヲ決シテ
最後ニ「獨」ハ從來ノ所說ヲ繰リ返シ空軍々備及防空施設共ニ有セサル國ノ地位ヲ考慮セサル點ニ於テ本決議案ノ受諾ヲ不可能ナリトシ「洪」亦之ヲ支持セリ

空軍委員會第十八回會合（六月三日）

第十七回會合ニ於テ報告者ニ對シ對一般委員會報告案ノ起草ヲ命セシ處ニ基キ報告者（「典」）ハ自己ノ作成セル報告案（Conf. D./C.A./29）ニ對スル一般的説明ヲナシ第一頁乃至第八頁ハ討議ノ經過ヲ記載シ第九頁第十頁ハ暫定的ノモノニシテ「佛」決議案ニ關スル小分科會ノ審議ノ結果ニヨリ修正ヲ必要トス（ヘキモノナリトシテ次テ包括的留保ニハ特ニ言及セ

ナリシコト及右報告案記載以外ノ留保又ハ宣言ヲナサムトスル代表部ハ出來得ル限り同日中ニ書面ヲ以テ通告アリタシトシ直ニ報告ノ項別討議ニスル

第一頁

異議ナク可決

第二頁

(一)「蘇」ハIIノ(c)ハ馬力ト翼面積トノ比率ニ言及シ居ラサル處右比率ハ進攻の飛行機ト然ラサルモノトノ區別ヲナス上ニ必要ナリト指摘セル處報告者ハ委員會ノ大勢原案記載ノ通リト信シ從テ報告案末尾ニハ他ノ定義ヲ付セルモ比率ニ付テハ定義ヲ付セサリシ次第ナルカ故ニ原案ヲ維持シ度シト述ヘ「蘇」亦固執セス原案保持ニ決ス

(二)「獨」ハ本報告案形式及趣旨ニ付キ異議ヲ申述ヘサルヘキモ第二、第三頁共ニ受諾ヲ不可能トス何レニセヨ三日午前中ニ自國見解ヲ書面ヲ以テ提出スヘキニヨリ報告中ニ記載セラレ度シト述ヘタル處議長(「西」)ハ「獨」見解ハ本報告案第三頁及第四頁ニ記載アリト注意ス

(三)次テ報告者ノ提案ニヨリIIノ(c)ハ同趣旨ノ一項IIIノ(c)ニモ存スルヲ以テ之ヲ一括シIIノ後ニ別ニ一項Nヲ置クヘキコトニ決ス

第三頁

IIIノ(d)中第十一行目ニ“sous-comité”トアルハ空軍委員會ノ誤ナリト報告者ヨリ訂正アリタリ

第五頁

(一)「諾」ハ第一項直後ニ左ノ字句ノ挿入方ヲ強く主張シ「伊」「西」「白」之ヲ支持ス

“La Commission sérienne doit se placer dans l'hypothèse d'une attaque brusquée faite en temps de paix par un Etat visant à créer par cette attaque un état de chose nouveau, avant qu'il ne soit possible, soit pour la Société des Nations,

soit pour les Etats étrangers au conflit, d'interposer une action préventive et conciliatrice en vue d'empêcher une guerre.
Ce n'est qu'en interprétant ainsi la question posée par la Commission Générale qu'on sera à même de définir quels sont les armes ayant le caractère spécifiquement offensif?”

(二)「佛」ハ右ノ如キハ留保トシテ報告ノ末尾ニ付スヘキ性質ノモノナルヘク若シ假リニ報告中ニ記載ストセハ豫メ充分ナル審議ヲ要ストス議長(西)ハ如何ナル形式ニヨルニセヨ本提案ハ報告中ニ記載ヲ要スヘシト「諾」ヲ支持シ報告者(興)ハ第五頁第一項ノ討議ニ際シ本提案アリタリト報告中ニ記載シテハ如何トス

(三)「米」ハ重要事項ハ特ニ右「諾」案記載事項ニ限ル次第ニハ非スシテ一般市民ニ對スル脅威ノ如キモ亦然リトシ「英」ハ後刻自國見解ヲ述フコトアルヘキ旨ヲ留保シ結局第一副議長(瑞西)ヲ議長トシテ報告者、「英」、「米」、「佛」、「伊」、「西」、「諾」及「亞」ヨリ成ル起草委員會ヲシテ六月四日午前十時ヨリ右「諾」案ニ付單一案ヲ作成セシムルコトトス

「獨」我
「蘇」方
「英」空
「米」航
「佛」上
「伊」海
「西」力
「亞」ニ
「諾」關
「亞」ス
「佛」ル
「伊」米
「西」加
「諾」保
「亞」ニ
「佛」參
「伊」加
「西」ス
「諾」加
「亞」ス

第六頁

(一)「深」ハ上段ノ群即「進攻的ナルモノハ必要ニ應シ防禦的ナルモノニナリ得」トノ説ニ同意スル旨ヲ述ヘ「勃」ハ然ラサル群ニ同意スト述フ

(二)報告者ハ六頁後段ニ自重ヲ飛行機及飛行船ニ共ニ適用スルノ趣旨ノ記載アルモ自重ハ飛行機ノミニ關シ飛行船ニ付テハ容積ナリト訂正ス

(三)「蘭」ハ第三項第七行“On a généralement été d'avis...”ヲ“On a néanmoins...”ト修正方提議シ異議ナク採擇

(四)「伊」ハ同ク第三項終ヨリ二行目“...était un critère essentiel...”之ヲ“un des critères essentiels”ト修正ス(シ

トセルニ對シ「佛」ハ然ラハ “...était en tout cas un crière essentiel” ト修正スヘシト讓歩シ「蘭」之ヲ支持シ其ノ通り決定ス

第七頁

「米」ノ希望ニヨリ第一行冒頭 “définition” ノ語ノ後ニ “provisoire” ノ語ヲ加ヘ尙第二項第二句ハ「佛」案ニヨリ左ノ通り修正ス

“Elles ont soutenu la thèse que l'ajonction des deux autres crières pour les avions compliquerait singulièrement la question en raison de la facilité avec laquelle la surface alaire et surtout la puissance motrice pourraient être modifiées. Elles ont ajouté qu'elles trouvaient impossible de définir d'une manière saisissante, et de contrôler pratiquement la valeur de la puissance motrice et celle de la surface alaire et que cela pourrait empêcher un développement sain de la technique”.

尙「伊」ハ自重以外ノ二要素即馬力及翼面積ヲモ有、搭、載、量ヲ精確ニ計算シ得ル旨ヲ第七頁後段ニ附加スヘシト提議セル處議長ハ自重ニ付テハ全會一致ノ意見ヲ見タルモ他ノ二要素ニ付テハ然ラサルヲ以テ三者ヲ同一ニ取扱フヲ得サルヘシ因テ自重ノ定義ハ現在通り報告案第七頁第一項ニ於テ之ニ言及スルコトシ他ノ二要素ニ付テハ同第七頁末項ニ「伊」「獨」「白」「西」「瑞西」「土」「支」等二十國ノ主張トシテ記載スルコトトシ其ノ形式ニ付テハ「伊」代表ト報告者トニ於テ然ル可ク決定セラレタシト提議シ「伊」之ニ同意ス

空軍委員會第十九回會合（六月四日）

報告者（「典」）ヨリ一般委員會ニ對スル空軍委員會報告案（Conf. D./C.A./29）中馬力及翼面積ノ定義ニ關スル部分ハ單ニ討議ノ基礎タラシムルノ趣旨ニテ挿入セルニ過キスト説明シ次テ「伊」ヨリ新ニ右ニ關スル定義案ノ提出アリタリト披露シ直ニ該報告案第八頁以後ノ討議ヲ行フ

第七頁及第八頁

(1) 「伊」ハ新ニ馬力及翼面積ノ定義ヲ出シ（Conf. D./C.A./31）其ノ説明ヲ試ミ馬力ノ定義ハ専門家報告（C. 259, M. 115, 1931, VII）カ各種「モーター」ニ關シ單一「Coefficient」ヲ考慮セルニ過キサルニ對シ「伊」案ハ之ヲ三ニセル點ニ於テ異リ又翼面積ノ定義ハ實質上「西」案（Conf. D./C.A./27）ノ夫レト同一ニシテ單ニ若干ノ修辭上ノ小修正ヲ加ヘタルノミナリト披露シ轉シテ第七頁末尾ニ「三標準ヲ可トスル代表部ハ馬力及翼面積ヲ考慮スルハ自重ノミヲ標準トスルニ比シ有效搭載量ヲ精確ニ計算シ得ト信スルモノナルカ故ニ三標準カ假令完全ナラストスルモ一標準ニ比シ精確ナリ」トノ趣旨ノ挿入方ヲ主張セリ右ニ對シ報告者ハ六月六日正午迄ニ前記「伊」定義ニ贊否表明方ヲ求メ又「佛」ハ自重以外ノ三標準ヲ報告書中ニ記載ノ事實ハ自重單一標準說支持ノ代表部ノ態度ニ何等影響ヲ及ホスコトナキ旨ヲ報告中ニ明記セラレタク假令一般委員會カ三標準ヲ可トスル場合ニ於テモ之等代表部ハ完全ナル行動ノ自由ヲ有スヘキナリト委員會ノ注意ヲ促シ次テ三標準相互間ノ價值明ナラサルカ故ニ之ヲ明瞭ニスル要アルヘシト注意シ右ヲ留保シ第八頁ヲ採擇ス

(2) 次テ「米」ハ報告案IIノ(c)中 “leur capacité d'atteindre leur but” ナル字句ハ技術上之ヲ明確ナラシムルヲ得サルニ付一時削除ヲ主張シタルカ「佛」質問集及「佛」決議案審議ノ結果ニヨリテハ幾分明瞭トナルヘキニヨリ之ヲ維持シ度シト述ケ結局 “leur capacité d'atteindre leur but, est fonction d'un grand nombre de variables” *In ce qui concerne la charge utile, la commission a retenu...*” トハ “Parmi celles-ci” ノ語ヲ削除スルコトトスヘシト提シ決ヲ採リタル處十八對十ヲ以テ右ノ如ク修正ニ決ス

第九頁及第十頁

(3) 本部分討議ニ先チ「白」ハ「白」「典」「墨」「蘭」及「西」五國代表部ノ名ニ於テ左ノ如キ提案（Conf. D./C.A./32）ヲナセルカ「ボリヴィア」ハ主義ニ於テ贊成ナルモ數字ニ關シテハ留保ストシ「瑞西」ハ右五國案ヲ永々ト支持シ「獨」ハ小國ノ地位殊ニ軍用航空廢止問題考慮ノ要アリトシ「洪」亦「獨」ト同趣旨ヲ述フ

「蘇」ハ五國案ノ數字ニ大體賛成ナルモ化學兵器ヲ考慮セサルハ當ラス又一定限度以下ノモノヲ全然除外セル點ニ付テモ不賛成ナリトシ「葡」モ五國案ニ賛意ヲ表ス尙同案ハ提案國ノ同意ヲ得タル上原提案國及賛成國ノ名ニ於テナサレタル宣言ノ形式ニ於テ一般委員會ニ對スル報告中ニ記載スルコトナレリ

右終リテ議長ハ第九第十兩頁ハ「佛」決議案審査ニ關スル小分科會報告 (Conf. D./C.A./30) 採擇ノ場合ニハ修正ヲ加ヘラルヘキモノナルカ故ニ先ツ小分科會報告ノ討議ヲ要スト述ヘ次テ報告者ヨリ右報告ニ關シ説明アリタルカ右討議ハ「蘇」ノ要求ニヨリ空軍委員會次同會合ニ於テ行フコトナレリ

五國共同聲明 (Conf. D./C.A./32)

「白」「西」「墨」「蘭」及「典」代表部ハ

一般委員會ノ指示セル左ノ三種ニ適合スル飛行機ヲ決定スヘキ數的標準探求ノ目的ヲ以テ現ニ各國ニ於テ使用セラレツツアル多數ノ飛行機ニ付研究ヲナシタル結果左ノ結論ニ達シタリ

最モ進攻のナルモノ

最モ國防破壊ニ有效ナルモノ

最モ一般市民ニ脅威ヲ與フルモノ

(1) 技術的根據ニ基ク一ノ限界存シ右限界ヲ超ユル殆ト全部ノ飛行機ハ前記三性質ヲ具備ス

(2) 他ノ一ノ限界存シ右限界以下ニ於テハ如何ナル飛行機ト雖モ右三性質ヲ有スルモノト見做スヲ得ス

(3) 右二限界ノ中間ニアル飛行機ニ付テハ前記三性質ヲ有スル飛行機ヲ確實ニ識別スルニ足ル法則ヲ定ムルコト不能ナリ

(1) ニ掲クル限界ハ自重一、五〇〇乃至一、六〇〇砵ト定ムルヲ得ヘシ(水上機ニ關シテハ三〇〇乃至四〇〇砵ヲ加フ)

(2) ニ掲クル限界ハ一般ニ自重六〇〇砵、馬力二〇〇馬力及翼面積二十五平方米ト定ムルヲ得ヘシ但シ右三限界ノ一ヲ起ハバ一切ノ飛行機ハ前記(3)ニ掲クル機種ニ屬ス(ニ)

“Les délégations de Belgique, Espagne, Mexique, Pays-Bas et Suède,

ayant examiné un grand nombre d'avions actuellement en service en différents pays, en vue de rechercher des critères numériques pour déterminer les avions qui entrent dans les trois catégories indiquées par la Commission générale à savoir ceux qui sont

les plus spécifiquement offensifs

les plus efficaces contre la défense nationale

les plus menaçants pour la population civile

sont arrivées aux conclusions suivantes :

1) il existe une limite, basée sur des données techniques au-dessus de laquelle presque la totalité des avions possèdent les trois caractères susmentionnés.

2) il existe une limite au-dessous de laquelle aucun avion ne peut être considéré comme possédant ces trois caractères.

3) pour les avions dont les caractéristiques sont comprises entre ces deux limites, il est impossible de fixer une règle simple permettant de distinguer strictement ceux qui possèdent les trois caractères susmentionnés.

La limite visée sous 1) pourrait être fixée à un poids à vide de 1500 à 1600 kgs. (avec une augmentation de 300 à 400 kgs. pour les hydravions).

La limite visée au N° 2 pourrait d'une façon générale être fixée à un poids à vide de 600 kgs, une puissance motrice de 200 chevaux et une surface alaire de 25 m² étant entendu que tout avion dépassant l'une de ces trois limites entrerait dans la catégorie visée sous le 3° ci-dessus”.

“The delegations of Belgium, Mexico, the Netherlands, Spain and Sweden, having examined a large number of aeroplanes at present in use in various countries with a view to finding

numerical criteria to determine what aeroplanes come under the three categories indicated by the General Commission, namely,

the most specifically offensive,
the most efficacious against national defence,
the most threatening to civilians,

have come to the following conclusions:

1) there is a limit, based on technical data, above which almost all aeroplanes possess the three characteristics mentioned above;

2) there is a limit below which no aeroplane can be deemed to possess these three characteristics;

3) for aeroplanes the characteristics of which lie between the two limits, it is impossible to lay down a simple rule enabling those possessing the three above-mentioned characteristics to be distinguished with certainty.

The limit under (1) might be fixed at an unladen weight of 1500-1600 kg. (with the addition of 300 to 400 kg. for scrapages).

The limit under (2) might be fixed, in general, at an unladen weight of 600 kg, a horse-power of 200 and a wing area of 25 sq.m., on the understanding that any aeroplane exceeding any of these three limits would come under the category of (3) above.

空軍委員會第二十回會合(六月七日)

前回會合ノ際ノ取極メニ從ヒ「佛」決議案(Conf. D./C.A./30)ノ全體ニ付キ次テ頁別審議ヲ行フ

一般討議

(一)「伊」ハ技術的見地ヨリ見テ「佛」決議案ノ數字例ハ同決議案第三頁「特種的考察」前文ニ於テ現存飛行機ノ最大有效搭載量ハ民用機ニ付テハ二、七〇〇瓩、軍用機ニ關シテハ一、五〇〇瓩トアルハ只今ノ處精確ナルカ航空技術發達ノ迅速ナル今日右數字ノ如キ近ク二倍ニ増加セラルルヤモ知レス因テ「佛」決議案ニ關シ左ノ趣旨ノ留保ヲナスト共ニ本

決議案カ一般委員會ニ資スル處ナキコトヲ確言スト述フ

「伊」代表部ハ「佛」質問集ニ對スル解答ニ關スル討議及起草ニ參加セサリキ(五月三十一日設置セラレタル小分科會第三回記事冒頭參照)。同代表部ハ同解答中ニ掲ケラレタル數字並ヒニ見解ニハ現ニ存シ且動員シ得ル(「モビリザール」)軍用航空ノ事情ニ即セス却テ一般委員會ニ對シ誤解ヲ生セシメ其ノ決定ヲ困難ナラシムルモノト認ム。

(二)次テ「蘭」ハ「佛」決議案ハ何等具體的結論ヲ與ヘス又既ニ述ヘタル如ク「蘭」ハ空中爆撃ヲ以テ最も禁止ノ要アリトスルモノナルカ大國ニ其ノ意思アリヤト大國側ニ對シ挑戰的口調ヲ弄シ「蘇」ハ「佛」決議案記載ノ數字及見解ハ之ヲ受諾スルヲ得スト述フ

「瑞西」ハ五國案(Conf. D./C.A./32)ノ原則ヲ支持スルコトヲ宣シ只自重ノ限界ハ同案カ一、五〇〇乃至一、六〇〇トセルヲ更ニ低下シ一、二〇〇瓩トナスヘシト云フ

(三)「佛」決議案ヲ空軍委員會報告中ニ入ルヘキヤ否ヤノ問題ヲ決スヘシト「蘇」提議ニ付テハ決ニ先チ「英」「蘭」「米」ハ報告中ニ「佛」決議案ヲ包含スヘキ旨ヲ説キ「波」亦自國ノ夫レニ比シ五十倍モ大ナル民用航空ヲ擁スル國ヲ近隣ニ控ヘ又小型飛行機ノミヲ有スル自國トシテハ低キ數字ノミヲ考慮スルヲ得ス因テ「佛」決議案ニ異議アル代表部ハ留保スレハ可ナラスヤト間接ニ包含説ヲ支持シ「佛」ハ萬一委員會ノ大勢力自國決議案包含反對ニ傾ク場合ニ於テハ右決議案カ各國代表部ノ意見ヲモ汲ミ入レ作成セラレタル事實ニ鑑ミ單ニ報告附屬書中ニ支持國ノ國名ト共ニ之ヲ記載スルコトニハ同意シ難シ又「佛」決議案中ノ數字ハ例示のニ掲ケラレタルモノニシテ何國ヲモ拘束セスト述ヘ右ニテ討議ヲ一先ツ終リ記名投票ヲ行ヒタル處包含賛成二十三國(「日」「英」「米」「佛」等)ニ對シ反對十一國(「獨」「伊」「蘇」「支」「土」等)ニシテ「瑞西」「希」「丁」「波斯」ハ棄權シ「佛」決議案ハ之ヲ空軍委員會報告中ニ包含セシムルコトトナル

(四)「諾」「エストニア」ハ「佛」決議案中ノ數字ニ留保ヲナシ「獨」ハ右決議案ヲ受諾シ得スト宣ス「蘇」「波斯」及

「伊」ハ其ノ頁別討議ニ不参加ヲ表明シ且「伊」ハ「佛」決議案中ノ數字ノ大ナルコト「伊」ノ夫レト相去ルコト餘リニ大ナルカ故ニ一般委員會ニ對スル報告中ニハ四月二十八日附「伊」提案(Conf. D./C.A./13 第七頁)ヲ記載セラレ度シト求ム

頁別討議

第一 頁

「佛」ハ數字ニ關シ諸國ノ留保アリ且過日「日」代表ヨリ注意アリタルニ因リ IIIノ國防破壞ニ關スル努力ノ項ニ「ノート」トシテ “Les chiffres divers présentés dans la suite du rapport sont donnés à titre indicatif et ne présentent pas un caractère absolu” ト記載シアルヲ左ノ如ク敷衍シ第一頁第一項末段ト致シ度シト提議シタル處佐藤全權ハ右趣旨ノ起草ニ際シテハ「佛」決議案ノ内容ト一致スル様精確ナルヲ要スト更ニ注意シ結局同日午後三時ヨリ「諾」提案審議ノ爲メニ開催ノ起草委員會(第十八回會合記事第五頁ノ項(一)參照)ニ研究セシムルコトトシ原案第一頁ハ其ノ儘採擇「佛」案文左ノ如シ

「從テ空軍委員會ハ後記考察及事實ヲ一般委員會ニ提示スルヲ以テ同委員會ノ希望ニ合致スル所以ナリト信ス、然レトモ空軍委員會ハ本報告記載ノ數字ハ單ニ例示的ニ掲ケラレタルニ過キシテ何等絶對的性質ヲ有セサルコト並ニ右數字ハ各國代表部カ質的軍縮ニ關シ別ニナスコトアルヘキ提案ニ付何等拘束力ナキコトヲ明記ス」

En conséquence, la Commission aérienne croit répondre aux intentions de la Commission Générale en lui présentant les considérations et les constatations ci-après. Elle souligne toutefois que les chiffres qui figurent dans le présent document sont donnés à titre indicatif sans présenter de caractère absolu et qu'ils n'engagent en rien les Délégations quant aux propositions de limitation qualitative qu'elles peuvent avoir à présenter par ailleurs.

第二 頁

「佛」ハ一般的考察ノ一ノ第二項ハ必シモ提案者ノ趣旨ト合致シ居ラス左ノ如ク修正アリタシト求メ其ノ通リニ決ス

“En particulier, les répercussions d'emploi des armements aériens ne peuvent pas être les mêmes dans les pays de faible superficie, dont les points vulnérables sont près de la frontière ou qui, n'ayant que des frontières terrestres, ne sont pas séparés des autres Etats par une étendue d'eau plus ou moins large”.

第三 頁

「米」ハ第一項第四行 “centres viaux du pays” ヲ “centres viaux des pays proches” ト修正ヲ求メ其ノ通リニ決ス

第四 頁

3ノ第三項第四行 “très puissante” ヲ “peu puissante” ノ誤リナルヘシト我方ヨリ指摘シ訂正セシム

第五 頁

冒頭「ノート」ハ前顯「佛」提案ノ結果削除ト決シ又「瑞西」ハ Bノ第一項五行 “parfois très” ノ削除ヲ求メ右ニ決ス

第六 頁

「米」ハ Cノ第一項第三行 “... les aéronautes seront” ヲ “... peuvent être” トスヘシトシ右ニ決ス

第七 頁

「米」ハ Eノ第一項第四行及第五行ノ “... de leurs propres bases” ヲ “par rapport aux autres belligérants” ト修正方ヲ求メ右ニ決ス

第八 頁

其儘採擇

第九 頁

Hノ第二項第三行冒頭“colonies”ヲ“territoires d'outre mer”ト又IV第一項第四行“en même temps que”ヲ“ou”ト修正方ヲ何レモ「米」ヨリ要求アリ右ニ決ス

(一) 右頁別討議ヲ終ルヤ「佛」ハ左ノ聲明ヲナセリ

「空軍委員會報告第二部記載ノ處ニヨリテ防禦の性質ノ航空機ト特ニ進攻のナル航空機トヲ區別スル明確ナル境界ヲ設クルノ不可能ナルハ明カナリ之ヲ超ユルトキハ航空機力防禦の性質ヲ有シ得ストスル境界ノ設定ハ可能ナリトスルモノト同時ニ特ニ進攻の性質ヲ有スルト共ニ一般市民ニ脅威ヲ與フル機ト國防ニ缺クヘカラサル機ト併存スル部分存スヘキナリ」

「佛」代表部カ二月五日ノ提案 (Conf. D. 56) ヲナシ及ヒ航空機ノ威力ニ關シ二種ノ限界ヲ定メタルハ何レモ右見解ニ基クモノナリ右二限界ニ付テハ他日詳説スルコトアルヘキモ其ノ一ハ之ヲ高キニ置キ該限界ヲ超エル機ハ一切ノ力ヲ保有ラ各國ニ禁シ其ニハ低キ限界ニシテ之ニ達セサルモノハ軍縮條約中ニ規定セラルヘキ量ノ制限ニシテ既ニ軍縮條約案中ニ規定セラレアルモノノミ之ヲ付ス

右二限界ノ間ニ存スル航空機ハ其ノ性質特ニ進攻のナルカ又ハ防禦的ナルニセヨ總テ聯盟規約第十六條適用ノ場合國際聯盟ノ使用ニ供スヘキコトヲ豫メ約スルニ非スムハ各國トモ之ヲ保有スルヲ得ス」

“ La Délégation française estime que les constatations de fait contenues dans la deuxième partie du rapport de la Commission font apparaître l'impossibilité, du point de vue technique, de tracer une séparation entre les aéronefs de caractère défensif et ceux qui seraient plus spécifiquement offensifs. S'il est en effet possible de fixer une limite au-dessus de laquelle les aéronefs ne sauraient répondre à des fins proprement défensives, il y a par contre, toute une zone dans laquelle se rencontrent à la fois des appareils spécifiquement offensifs et menaçants pour la population civile et des appareils indispensables pour la défense nationale.

« La délégation française tient à déclarer que ce sont ces considérations qui l'ont conduite à établir ses propositions

du 5 février dernier et à fixer, pour la puissance des aéronautes, deux séries de limites qu'elle s'est réservée de préciser ultérieurement : l'une, la plus forte, au-dessus de laquelle aucun appareil ne pourrait être conservé par les aéronautiques nationales ; l'autre, la plus faible, au-dessous de laquelle l'utilisation des aéronautes militaires ne serait pas soumise à d'autres restrictions que celles qui résulteraient des limites d'ordre quantitatif que contiendrait la convention à établir et que prévoirait déjà le projet de la Commission préparatoire.

“Tous les aéronefs compris entre ces deux limites, que leur caractère prédominant soit offensif ou défensif, ne pourraient être conservés par les aéronautiques nationales que moyennant l’engagement préalable de mettre les appareils à la disposition de la Société des Nations en cas d’application de l’article 16 du Pacte”.

(二) 次テ「蘇」ハ軍用航空全部ヲ以テ一般委員會標準ヲ適合スルモノトスルモノナル處空軍委員會報告及「佛」決議ハ何レモ一般委員會ニ對スル回答ノ體ヲナシ居ラス因テ「蘇」代表部ハ一般委員會ニ於テ本件ニ關スル討議ヲ新ニスヘキ旨ヲ宣言シ右聲明ヲ報告中ニ記載セラレタシト述フ

(三) 最後ニ「米」ハ空軍委員會報告 (Conf. D./C.A./29) 第五頁記載「米」留保第二項ヲ

「米」ハ海
上航空兵
力ニ關ス
ル自國留
保ノ字句
ナ若干變
更シ「英」
之ニ參加
ス

“One of the texts already contained in the report is that of capability of arriving at an objective. Thus the mobility feature of ship-based aircraft is already taken into account and any further reference in the report which might give impression that *individual* ship-based aircraft are more specifically offensive than *individual* aircraft taking off bases close to land frontiers is misleading”.

ト修正シ度シト述ヘ右ハ「葡」トモ了解スミナリト披露セル處英亦直チニ之ヲ贊シ右留保ハ爾後「英」「米」「葡」「三國ノ名ニ於テナサルルコトトナレリ

第二十一回空軍委員會合（六月八日）

從來ノ討議經過ヲ參酌シ報告者ニ於テ更ニ作成セル一般委員會ニ提出スヘキ空軍委員會報告案(Conf. D. C. V. 34)ノ頁別審議ヲ行フ

第五頁

第一項末行“protégés”ハ“entourés”ト我方要求ニヨリ修正シ又第二項第四行末尾“la marche de cet agresseur”ヲ“la marche de l'agresseur”ト「希」ノ注意ニヨリ訂正ス

第六頁

3ノ二項第四行“dommage nuisible”ヲ最初議長ハ“feel”ト修正セムコトヲ提議セシカ結局「佛」ノ提案ニヨリ“sensible”ト修正ス

第七頁

議長（「瑞西」）ハ第二項第五行“résultats normaux”ハ“normaux”ノ「ミスプリント」ナリト訂正シ又「米」ハIIIノAハ（2）中“aéronauts”ノ語ヲ“avions”ト修正方希望セシモ「佛」ハ原案ノ方飛行機飛行船兩者共包含シテ可ナリト述ヘ「佛」「米」兩國ニ於テ報告者ト「レダクシヨ」決定方ニ付交渉スルコトトス

第八頁

第一行後段“si elle s'exerce”ハ“s'exerce”ノ又D第一行“usines à munitions”ハ“resines de munitions”ノ誤リナリト議長ヨリ訂正アリタリ

第九頁

議長ヨリEノ第一項第三行“100 kgs”ノ後ニ「ボアン」「ピリオド」ヲ從テ“en conséquence”ヲ“En conséquence”トシ其ノ後ニ「ヴイルギユル」「コムマ」ヲ附スヘシトス

尙「米」ハ同項第四行目ノ“par rapport à celui”ハ“以下ハ文意明瞭ヲ缺キ且英文當該項ト必シモ一致シ居ラサルカ故ニ修正ノ要アルヘシトシ（右ハ佐藤全權カ本會合開會前ニ“par rapport...”等ノ字句カ「米」提議ニヨレル事實ニ基キ「米」代表ニ注意ヲ促シタルニ因ル）左ノ如ク修正ス

“En conséquence, étant donné que l'éloignement des bases aériennes d'un belligérant par rapport à celles d'autres belligérants exigera...”

第十二頁

英文十二頁四第二項第六行ヲ“...they are capable of producing on the civilian centres close to the battlefield”ト「米」ノ提議ニヨリ附加シ又「米」ハ末項第三行目末段“though”ノ削除ヲ求メシカ議長ハ之ニ同意セス結局原案維持ニ決ス

第十三頁

「希」ノ注意ニヨリ末項第三行末尾“critères”ノ語ハ“caractères”ト修正シ四月二十二日一般委員會決議ニ關スル場合ニハ常ニ同様ニ記載スヘシトス

第十四頁

報告者ハ第一項第五行I（a）ノ次ニ§1ノ字ヲ附加ス

第十七頁

尙十七頁記載三標準ノ何レモカ同一價值アリヤ否ヤニ付報告ノ字句ニ付議論出テ「希」ハ第十七頁第一項第十行乃至第十三行ニ於テ同一價值アリト記載セルニ第十八頁第三項第四行末尾ニハ補助の標準トアリト指摘セル處「佛」ハ「三標準カ何レモ同一價值アリヤ又ハ自重以外ノ他ノ二標準カ補助の性質ノモノタルヤ否ヤニ付空軍委員會ニ於テ意見ノ一致アリタリヤ否ヤ明瞭ナラサリキ」トノ趣旨ノ一項ヲ報告中ニ加フヘシト提議シ結局「希」及報告者ヲシテ案文ヲ起草セシムルコトトス

第二十頁

報告者ハ第一項末段ノ「アンダーライン」ヲ削リ且同項第六行ノ“la Commission a été unanime”ナル字句ハ必スシモ事實ニ即セストノ抗議アリタルニ因リ“la plupart des délégations sont d'avis que”ト修正シタシトシ「佛」ハ本項ハ第一部ニ

關係アリ第二項イノ(v)ト一致セシムル爲メ第七行ヲ“... que les bombardements sérieux peuvent constituer トン且本項末尾ニ“ sans préjuger la question de leurs fins défensives ”ノ語ヲ加コムコトヲ提議セシカ議長及「白」之ニ反對シ報告者ハ更ニ第一項後段ヲ左ノ趣旨ニ訂正シタシト提議シ其ノ通り決定ス

“ Il ressort toutefois des délibérations de la Commission qu'elle a été unanime à fuser que les bombardements aériens constituent une grave menace pour la population civile ”.

第二十三頁

「佛」ハ「獨」留保ノ二ノ第二項第四行末段ニ“ questionnaire français ”トアルモ「佛」ハ右“ questionnaire ”(Conf. D./C. A./14 Annexe)ニ代リ決議案(Conf. D./C. A./30)ヲ出シタル次第故事實ニ即セスト指摘ス

第三十二頁

報告者ヨリ第一項第二行ノ“ la dernière partie de la Commission ”ハ“ la deuxième partie du rapport de la Commission ”ノ誤リナリト訂正ス

第三十三頁

報告者“ Déclaration persane ”ノ前ニ“ Déclaration de la...”ヲ加フト述フ

第三十八頁

「西」ハ翼面積ノ定義トシテ第二附屬書ニ自國案ノ一ノミヲ掲ケ居ルモ兩者(Conf. D./C. A./27)トモ掲ケラレタシト希望シ右ニ決ス

右ニテ報告全部ノ審議ヲ終リタリ

第二項 民用航空

第一、總 說

軍用航空ノ措置ニ關シ民用航空ニ緊切ナル注意ヲ拂フノ要アルハ何人モ異論ナキ處ナルカ其ノ具體的處理ニ關シテハ或ハ全然軍備制限ト直接關聯ナキ地位ニ置クヘシトスルモノ(米、獨)或ハ大ニ之ヲ參酌スヘシトスルモノ(日、佛)アル一方民用航空ヲ取締及規律スヘシトスルモノ(蘭)及更ニ進ムテ之カ國際化ヲ行フヘシトスルモノ(佛、典、西)アリ所說一ニシテ止マラス何レニセヨ軍縮ト關聯スル民用航空問題ノ解決力如何ニ困難ナルカラ認ムルニ付キテハ之亦何人モ異議ナキ處ナリキ

因テ空軍委員會カ實質的討議ヲ開始シテヨリ其ノ第二回會合(三月十日)ヨリ民用航空ハ直ニ討議中ニ現ハレ第五回會合(三月十七日)迄同航空ニ關スル審議ヲ行ヒタルモ四月二十二日一般委員會決議出ツルヤ一時席ヲ軍用航空ニ譲リタルハ本章第一項所載ノ通りニシテ其後空軍委員會ハ第二十二回會合(六月十四日)以後會議第一期終了迄ヲ本問題ノ討議ニ没頭セリ而カモ單ニ國際規律(「レーグルマンタシオン」「レギュレーション」)ノ問題ヲ議了セルノミニシテ之ト關聯スル取締及國際化問題ノ審議ハ會議後期ニ於テ行ハルルコトナレリ

第二、各 論

一、空軍委員會議事經過(一)

空軍委員會第二回會合(三月十日午前)

(一) 議長ハ一般委員會ノ作成セル空軍委員會議事日程(Conf. D./C. A./5)冒頭ニ軍用航空廢止問題(民用航空國際化ヲ伴ヒ又ハ伴ハスシテ)記載シアル處右ハ一般委員會ノ權限ニ屬スル原則問題ヲ伴フモ特ニ同委員會ヨリ廻付セラレタルモノナルカ故ニ空軍委員會ハ之ヲ議スルノ權限アリト思考セララル處委員會ノ意向如何ト諮リタル處「獨」右ハ原則上ノ問題即政治上ノ問題ナルヲ以テ先ツ一般委員會ニヨル原則上ノ決定ヲ待チ本委員會ノ議ニ移スヘク極言スレハ空軍委員會ノ今直ニ討議シ得ルモノハ其ノ議題第十民用航空公表ノ問題ノミナリト強ク主張シ「英」モ一般委員會ヘ廻付說ヲ支持シ「伊」亦大體之ニ賛成スルト同時ニ先ツ空軍委員會議題中原則上ノ問題ト技術上ノ問題トノ區別ヲ任トスル

民用航空
問題ニ關
スル「獨」
「英」
「伊」
ノ態度

小委員會設置ヲスヘシト述フ

(二)「白」ハ民用航空國際化問題ニ關スル專門の研究ハ本委員會ノ權限ニ屬シ右研究ハ一般委員會ノ本問題研究ニ資スルコト大ナルヘシト述ヘ「典」ハ民用航空ニ關スル既存材料ヲ蒐集整理ヲ任トスル小委員會ノ設置必要ナリト説キ次テ民用航空國際化ノ技術的方面極メテ重要ナルヲ以テ空軍委員會ハ先ツ其ノ專門の研究ヲ行ヒ國際化ノ意義ヲ定ムヘシト云フ

小分科會
設置

(三)然ルニ「佛」ハ軍用航空ハ民用航空ヲ考慮シ以テ之ヲ處理スヘシトハ軍縮準備委員會ニ於ケル一般の意見ナリト了解シ居レリ而シテ「佛」ハ民用航空ノ國際化ヲ先議セサレハ軍用航空廢止ノ問題ハ勿論其ノ制限ノ討議ニモ反對ニテ從テ「獨」ノ言及セル民用航空公表問題ノ如キハ勿論後廻シトスヘク但「伊」ノ小委員會設置說ニハ賛成ナリト述ヘ「佛」對「獨」「英」間ニ意見岐レ議纏ラサリシカ議長ハ右小委員會ノ權限ヲ特定スルコトヲ避ケ之カ設置ヲ決シ「日」「英」「米」「獨」「佛」「伊」「蘇」「亞」「白」「蘭」及「ビューロー」ヲ以テ右小委員會ヲ組織スルコトトセリ同小委員會ノ權限左ノ如シ

- (イ) 空軍委員會ノ討議ノ基礎トシ政治的問題ヲ含マサル技術上ノ問題ヲ審議ス
- (ロ) 一般委員會ノ任務ヲ容易ナラシムルカ爲民用航空國際化ノ特定方面ヲ討議ス
- (ハ) 討議ノ基礎ヲ提出ス

二、空軍委員會第二回會合ニ於テ設置セラレタル分科會議事經過(三月十日午後)

民間航空國際化問題ニ關シ直ニ討議ヲ開始ス

「獨」「英」共ニ空軍委員會第二回會合ノ際ニ於ケル態度ヲ固持シ特ニ「獨」ハ國際聯盟ノ他ノ機關ニヨリテ從來行ハレタル民用航空ニ關スル研究ハ専ラ經濟上ノ見地ヨリセラレタルモノニシテ現在ノ如キ意味合ヒニ於テハ全ク新ナルモノナルニ因リ先ツ一般委員會ニ付託スルコト肝要ナリト説ケル處「白」「典」亦午前中ト同様ノ主張ヲ敷衍シ之ニ對シタルモ「佛」

ハ若干妥協の態度ニ出テ議長「西」ヨリ一般委員會ヲシテ空軍委員會ハ民用航空國際化問題討議ノ權限アルコトヲ改メテ確認セシムルコトニ交渉セシメテハ如何ト提議シ種々論議ノ末「佛」「獨」及報告者「典」ヲシテ一ノ決議案ヲ起草セシメ之ニ基キ左ノ決議ヲ採擇シ來ル空軍委員會第三回會合ニ提出スルコトトシタリ

「空軍委員會ハ其ノ議題ノ討議ニ際シ民用航空國際化問題ノ付託ヲ受ケタルカ同問題ノ專門の討議ハ一般委員會ノ權限ニ屬スル原則上ノ決定ニ從屬スルモノナルコトヲ認ム

因テ空軍委員會ハ一般委員會ニ對シ本問題ニ關スル意見ノ發表ヲ求メ同委員會ニ於テ民用航空ノ國際化ヲ望マシキモノナリトスルニ於テハ同委員會カ空軍委員會ニ其ノ實現ノ可能性及様式ノ研究方ヲ委嘱セムコトヲ求ム」

三、空軍委員會議事經過(二)

空軍委員會第三回會合(三月十四日)

議長「(西)」ヨリ小委員會ニ於ケル經過ヲ説明シ同小委員會起草ニ係ル決議案(空軍委員會第二回會合記事末段參照)ヲ披露シタルニ對シ「波」「白」「亞」「智恵古」之ヲ支持又ハ余リニ一般委員會ニ討議事項ヲ廻付スルハ好マシカラストノ注意ヲナシ結局原案通り採擇シ議長ヨリ一般委員會ニ成ルヘク速ニ決定方ヲ慫慂スルコトトセリ

空軍委員會第四回會合(三月十六日)

(一) 劈頭議長ヨリ同日開催セル一般委員會カ採擇セル民用航空國際化問題ノ專門の研究方ニ關スル別記決議ヲ報告シ今後ノ議事進行方ニ付キ委員會ニ諮リタル處「白」ハ輿論ハ吾人ノ事業ノ進捗ヲ熱望シ居ル此ノ際ニモアリ「イースター」休暇中幹部會カ民用航空國際化問題ニ付キ現ニ存スル資料ヲ蒐集整理シ置クニ於テハ本委員會今後ノ任務ヲ扶クルコト大ナルヘシト提言シ「蘭」ハ本件ハ全ク新シキ問題ナルカ故ニ此際前記資料ノ蒐集ニ止マラス幹部會ハ休暇中ニ其ノ提案乃至意ヲ一層具體的ノモノニ經メ置クコト頗ル有益ナルヘシト注意ヲ促シ大體「白」提案ヲ支持シタリ

「一般委員會」

民用航空國際化研究ニ關シ空軍委員會ノ提出セル要求ヲ了承シ
一般委員會カ今後同問題ニ付爲スコトアルヘキ主義上ノ決定ヲ豫斷スルコトナク豫メ右國際化實現ノ可能性及方法ノ技術的研究ヲ行フハ前記決定ヲ容易ナラシムヘキコト大ナルヲ思ヒ

右研究ハ軍用航空ノ全廢又ハ縮少及制限ニ關シ一般委員會ノ爲スヘキ決定ト關聯シ有益ナルヲ認メ空軍委員會ニ於テ該研究ヲ行フコト竝民用航空ノ國際化及締約國ニヨル同航空ヲ軍事上ノ目的ノ爲ニスル使用ヲ防止シ得ヘキ一切ノ措置ニ關シ一般委員會ヲ裨益スヘシト空軍委員會ニ於テ認ムル處ノ一切ノ部分的又ハ全般的結論ヲ提出セムコトヲ委囑ス

右研究ノ爲空軍委員會ハ必要ニ應ジ權限アル國際機關ノ協力ヲ求ムヘシ

(二) 右ニ對シ「佛」ハ現在迄ノ處「白」「丁」「西」「佛」「典」「瑞西」「蘇」ノ諸國ハ何レモ民用航空ノ國際化又ハ之カ取締ニ付少クトモ其ノ研究ヲナスノ意向ヲ示セルカ「佛」代表部トシテハ既ニ民用航空國際化ニ關スル具體的提案ヲ爲シ居レリトテ「佛」提案 (Conf. D. 55) Iノ(1)(a)乃至(f)ヲ簡單ニ説明シ民用航空ノ國際化又ハ取締ノ問題ニ付キ好意的考慮ヲ加フルノ用意アル各代表部ニ於テ休暇中ニ豫メ研究ヲ行ヒ以テ休會明ケ後ノ委員會事業ヲ容易ナラシムヘキコトヲ德適シタリ

(三) 「英」ハ本件資料ノ蒐集ノミニテモ休暇中ノ事業トシテ充分ナルヘシト擲論シタルカ「佛」ハ現在直チニ利用シ得ル資料トシテ交通及通過委員會カ國際航空ノ經濟、行政及法律方面研究ニ關スル C. 339. M. 139. 1930 VIII ヲ次テ議長モ同趣旨ニテ同シク該委員會民用航空公表ノ問題ニ付爲シタル研究 (C. 95. M. 47. 1932 VIII) ヲ披露シタリ

(四) 「白」ハ各國航空ニ關スル文獻ハ豐富ナルモ國際化ヲ可トスル代表部ニ對シ其ノ見解ヲ一層詳細明瞭ニスルコトヲ求ムルカ或ハ委員會「ビュロー」自身之ニ當ルノ要アリ然ルニ前者ハ短時日ニ完成ヲ期シ難キヲ以テ「ビュロー」ヲ

煩スヲ可トスヘシトテ左ノ決議案ヲ出セリ (Conf. D. (C.A.) 3)

「空軍委員會ハ幹部會ニ其ノ必要ナリト認ムル場合ニ於テ事務局及權限アル國際機關ノ協力ヲ求メ空軍委員會ノ任務ヲ容易ナラシムルカ爲民用航空竝其ノ可能性及方法ニ關シ行ハレタル主ナル研究及提案ヲ要略セル客觀的研究ヲ行ハムコトヲ委囑ス」

(五) 右「白」提案ニ對シ「獨」ハ大體ニ於テ異議ナシトシ只之ニ一般委員會決議第三項末段カ明白ニ軍用航空ニ言及シ居ルニ鑑ミ同一字句即 “...ainsi que sur toute autre mesure susceptible d'empêcher les Etats signataires d'utiliser cette aéronautique pour des fins militaires” ノ字句ヲ添加スヘキコトヲ求メシニヨリ議長ハ右意見ヲ參酌シ左ノ案ヲ提出セリ
「空軍委員會ハ其ノ幹部會ニ左ヲ委囑ス」

- 1 「白」案前段ト「獨」ノ希望ニヨル一般委員會決議案第三項末段ノ字句ヲ加ヘタルモノ)
- 2 委員會ハ各代表部ニ對シ同問題(民用航空國際化)ニ關スル明確ナル提案ヲ出來得ル限り速カニ幹部會ニ提出スルコトヲ求メ幹部會ハ之ヲ配布スルコト
- 3 各代表部カ幹部會ニ送付スルコトヲ約スル報道ニ基キ各國航空ノ組織ニ關スル研究ヲ行フコト
- 4 委員會討議再開後ノ爲ニスル議事日程ヲ作成スルコト

(六) 右議長提案ニ對シ「佛」ハ先ツ同案第一項ニ關シ吾人ノ今求メツツアル處ハ單ニ資料ノ蒐集ニシテ從テ「ビュロー」ノ研究ハ問題ノ解決其ノモノニ決シテ觸ルヘキモノニ非ラス其ノ資料ハ之ヲ權限アル國際機關及「デレゲーション」ヨリ出テタルモノ即公ノ性質ヲ有スルモノニ限ルヘク然ラスムハ資料ノ過多ニ困却スヘシト注意シ次テ “Les possibilités et les modalités de sa réalisation—the possibilities and methods of carrying into effect” “「ブロー」ノ權限ニ屬セサルモノナルニ付削除スヘク又獨修正案ノ謂ハムト欲スル處ニ付テモ同一趣旨ニヨリ反對ナリトシ「獨」ハ議長案第三項「デレゲーション」ノ意義ヲ質シタル處議長ハ右ハ「政府」ヲ意味セス「代表部」ノ意ナリト答ヘタルカ結局第二回委員會

會合ニ於テ設置セラレタル小分科會へ新ニ「波」ヲ加ヘテ一ノ起草委員會ヲ組織シ之ヲ翌十七日開催シ一ノ決議案ヲ作成セシメ引續キ開催セラルヘキ空軍委員會第五回會合ニ同案ヲ提出スルコトトシタリ

空軍委員會第五回會合（三月十七日）

(一) 第四回會合ノ結果ニ基キ起草委員會ハ三月十七日開催議長案ニ一層資料蒐集ノ爲ナルコトヲ明ニスル趣旨ノ修正ヲ加ヘ空軍委員會ニ提出スルコトセリ

(二) 空軍委員會第五回會合ハ右起草委員會案ヲ其ノ儘採擇シ (Conf. D./C.A./5) 議長ヨリ同決議第三項ニ關シテハ三月二十一日頃迄ニ「ビュロー」ニ於テ一ノ質問集ヲ作成送付スヘキニヨリ各代表部ノ右質問集ニ對スル解答及第二項所載提案等ハ遅クとも四月四日迄ニ提出セラレタシト希望セリ

(三) 右ニ基キ帝國代表部ノナセル解答ハ (Conf. D./C.A./8) 第四十五頁ニ記載セラル

(四) 前記決議左ノ如シ

「空軍委員會ハ其ノ「ビュロー」ニ左ヲ委嘱ス

1 「ビュロー」ニ於テ必要ナリト認ムル場合ニ於テ事務局及權限アル國際機關ノ協力ヲ求メ空軍委員會ノ任務ヲ容易ナラシムルカ爲民用航空ノ國際化ニ關スル此等國際機關ノ主タル研究及代表部ノ公式提案並締約國ニヨル民用航空ノ軍事上ノ目的ノ爲メニスル使用ヲ防止シ得ル他ノ一切ノ措置ニ付キナセル代表部提案ヲ要略セル資料ニ關スル客觀的研究ヲナスコト

2 (議長案ニ大體同シ)

3 (同)

4 (議長案ニ全ク同シ)

四、空軍委員會議事經過（參）

空軍委員會第二十二回會合（六月十四日）

空軍委員會ハ其ノ第二回會合（三月十日）ヨリ第五回會合（三月十七日）迄ヲ專ラ民用航空國際化其他民用航空ノ軍事使用防止方法研究ニ關スル準備の審議ニ充テ其ノ間空軍委員會「ビュロー」ヲシテ討議資料ヲ蒐集セシメツツアリシ處偶々四月二十二日一般委員會決議アリ之ニ答フル必要上其ノ第六回（四月二十七日）以後第二十二回會合（六月八日）迄ハ軍用航空ニ關スル討議ヲ行ヒ銳意同決議ニ關シ一般委員會ニ提出スヘキ報告 (Conf. D. 23—Conf. D./C.A./34a) ノ起草ニ當リ右終リテ再ヒ民用航空ノ問題ノ討議ニ着手シ以テ休會ニ及ヘリ今空軍委員會第二十二回會合以後ノ經過ヲ記セハ左ノ如シ

(一) 議長（西）ハ先ツ一ノ覺書 (Conf. D./C.A./35) ヲ朗讀セルカ其ノ要旨左ノ如シ

(イ) 空軍委員會ハ一般委員會ヨリ廻付セラレタル議題表 (Conf. D. 103 第五頁) ニ基キ民用航空ノ國際化問題ノ審議ヲナスコトトナリ居リタルモ右問題ノ技術的研究ハ其ノ原則上ノ決定ヲ先決問題トスルコトヲ認メ一般委員會ニ指示ヲ仰キタリ

(ロ) 右ニ對シ一般委員會ヨリ回答アリタルニ因リ空軍委員會ハ其ノ「ビュロー」ニ對シ研究資料ノ蒐集其他ヲ命シタリ

(ハ) 右ノ結果吾人ノ現ニ有スル資料左ノ如シ

各國航空組織ニ關スル解答集 (Conf. D./C.A./8) 民用航空國際化其他ニ關スル資料 (Conf. D./C.A./9) 民用航空協力委員會報告 (Conf. D./C.A./15) 「佛」案 (Conf. D./115) 「典」案 (Conf. D./C.A./10) 及交通委員會研究 (Conf. D./53) 次テ議長ハ「西」代表トシテ一ノ討議基礎案ヲ用意セリ。テ Conf. D./C.A./36 ヲ讀上ケ左ノ如ク各項別ニ説明ヲ加ヘタリ

(1) 軍縮會議カ民用航空國際化問題ニ關與スル唯一ノ理由ハ民用航空カ直接間接ニ重大ナル影響ヲ軍備及安全保障ニ

及ホスカ故ニシテ各代表トモ本項ノ趣旨ニ異議ナシト信ス

(2) 民用航空ノ價值ハ見ル人ノ意見ニヨリ零ヨリ無限大ニ迄至ルヲ得ヘキモ本項所載事項ハ討議ノ價值充分ナルコト明ナルヘシ

(3) 軍縮會議ハ戰爭防止ヨリモ平和保持ニ努ムヘク之カ爲メニハ民衆ノ心理ニ注意ヲ拂フヲ要シ又軍用航空全廢又ハ其ノ徹底ノ縮少制限ノ場合ニ於ケル民用航空ノ價值ノ判定ヲナスヲ必要トスヘシ

民用機數ハ今日ノ處軍用機ニ比シ微々タルモノナルカ故ニ今直ニ不安ノ因ヲナスモノニハ非ルモ軍縮會議カ特ニ危險ナル軍用飛行機ノ全廢又ハ部分的廢止ヲ實現セル場合強力ナル民用航空ノ存在ハ直ニ各國民間ノ安全感ニ對スル心理上ノ障害ヲナシ爲メニ軍縮會議ハ軍用航空ノ全廢又ハ制限ヲ決スルヲ得サルニ至ルヘシ右ニ際シ民用航空ノ國際化ハ唯一ノ解決策タルヘク本項ハ慎重審議ヲ要ス

(4) 軍用航空ノ破壊力殊ニ都市ニ對スル破壊力カ該都市ノ有スル防禦手段ニ比シ有力ナルハ如何ナル專門家ト雖否認シ得サルヘク從テ民用航空ニ對シ嚴重ナル取締ヲ加ヘサルニ於テハ軍用航空ノ廢止ハ不可能タリ

(5) 技術の見地ヨリ見ルモ民用航空ノ國際化ハ必須ニシテ現ニ國際化ハ事實上行ハレツツアルモ吾人ハ更ニ軍備及安全保障ノ見地ヨリ之ヲ法律化セムトスルモノナリ

(二) 然ルニ右議長ノ聲明ニ對シ何人モ發言ヲ求ムルモノナカリシニヨリ議長提出討議基礎案ノ審議ヲ次回ニ譲レリ

空軍委員會第二十三回會合(六月十五日)

(一) 議長(西)ハ前回會合ニ披露セル討議基礎案(Conf. D/C.A./36)第二部トシテ更ニ一案(Conf. D/C.A./37)ヲ用意セリトテ右二者ニ付委員會ノ意見ヲ問フト同時ニ具體的提案ヲナセル代表部ニ於テ等ク自國案ニ付説明ヲ試ミラレタシト德意セルモ發言ヲ求ムルモノナシ暫クアリテ「典」ハ左ノ如ク説明ス

「民用航空ナル形體ニ於テ人類ノ活動ノ表ハレタルハ前例ナキ處ニ屬スルカ之カ軍事使用防止ノ爲メニハ先ツ規律ヲ

考慮スルヲ要スヘシ然ルニ嚴重ナル取締ニ對シテハ種々ノ反對ヲ豫想シ得ルヲ以テ國際化ヲ考フルニ至リタルナルカ總テ民用航空ノ審議ニ際シテハ器材ノ審議ノミニ沒頭セス人員ノ方器材ニ比シ重要ナルヲ忘ルヘカラス云々」

次テ「智恵古」ハ空軍委員會ハ本件ニ關シ「佛」案(Conf. D./115)「典」案(Conf. D/C.A./10)及前顯「西」案ヲ有シ居ル處右三案ニハ特定數ノ共通點アルヘク之ヲ摘出シ右ニ基キ一般討議ヲ行ヒテハ如何。何レニセヨ(イ)軍用航空ト民用航空トノ間ニハ相關性アル事實(ロ)各國民用航空ノ「コンモン、ポリシー」ヲ定ムヘキ國際機關設置ノ必要及(ハ)國際化問題ノ財政經濟的方面ノ研究ノ必要ニ付テハ何人トモ異議ナカルヘキカ故ニ先ツ器材ノ研究ヨリ初メ次テ人員ニ及ヒ最後ニ前記(ハ)ノ問題ニ至ルヘシト述フ

國際化ニ
對スル
新西蘭
代表ノ
評定

(一) 「新西蘭」ハ本案ノ如キハ歐洲ノ見地ヨリスレハ尤モナルヘキモ世界の見地ヨリスレハ滑稽ナリト宣明シ同代表トノ間ニ二三押問答アリタリ

討議基礎
案ニ付
決定ニ
付テ
評定ス

(二) 次ニ「獨」ハ議事進行ニ付キ發言シ本會議ノ目的ヨリ考ヘレハ空軍委員會ハ空中ヨリスル兵器ノ投下及軍用航空ヲ論スレハ足ルモノニシテ民用航空國際化ヲ論スルカ如キハ自由競争ヲ阻害スルモノナリ軍用航空ノ廢止實現スレハ民用航空力軍用ニ供セラルヘシトスル疑惑ヲ一掃セラルルニ非スヤ民用航空ノ國際化ハ航空企業ニ對スル重大ナル干涉ニシテ其ノ健全ナル發達ヲ害スル惧レ極メテ大ナルカ故ニ千九百二十六年大使會議カ「獨」民用航空ニ付考慮セルカ如キ措置(註)ニヨリ民用航空ヲ無害ナラシムレハ可ナラスヤ故ニ差當リ國際化ヨリハ民用航空ヲ無害ナラシムル方法ヲ考フヘシト述フルヤ議長ハ右ノ如キハ「西」案(Conf. D/C.A./36)(3)ニ於テ述ハラルヘシトシ若シ委員會ニシテ一ノ討議ノ基礎ヲ得ラレサルニ於テハ私的交渉ノ爲メ一時休會スヘキヤ將又議事ヲ續行スルヤト問フ

(註) 1 裝甲、武裝、防禦又ハ軍事使用ノ爲メニスル設備ヲ有スル航空機

2 國際聯盟ニ提供スヘキ登録表ノ作成。該表中ニハ一切ノ器及一切ノ操縱者(小型「スポーツ」機操縱ノ免狀ヲ有スルノミナル操縱者ヲ含ム)

3 右表記載事項ヲ公表ス

4 國ニヨルト市町村ニヨルトヲ問ハス「スポート」航空機ニ對スル公ノ補助金ヲ全禁ス

5 操縦者ナキ飛行機ノ禁止

6 國防軍及海軍人員ノ「スポート」航空ニ關スル個人的活動ハ最大限三十六名ヲ限リ然カモ經費自辨タルヘシ

7 武裝撤廢地域ニ於ケル空中交通及空港建設ニ關シ制限ヲ加フ

8 警察飛行機ヲ禁止ス

「蘇」ハ軍用航空廢止ヲ主張スルト同時ニ民用航空ノ軍用轉化防止ヲ緊要トスルモノナリ然シテ之カ爲メニハ「獨」ノ指摘セル大使會議カ千九百二十六年ニ設ケタル前記規定ヲ以テ充分トスヘシ何レニセヨ民用航空ニ先チ軍用航空廢止問題ヲ討議スヘシトス

(四)「典」ト同様民用航空國際化ニ關シ具體的提案ヲナセル (Conf. D. 115)「佛」ハ自國提案ノ根據ハ前記書類中ニ明ナレハ此際單ニ「佛」代表部ノ國際化ハ輸送航空ニ關スルモノニシテ民用航空ノ全部ニ及フモノニ非サル點ニ委員會ノ注意ヲ促シタシトテ次テ議事方法トシテハ一般委員會ハ民用航空ノ軍用供與ノ可能性ニ關スル技術的研究ヲ求メ來レルカ故ニ「西」案 (Conf. D./C.A./36) ヲ基礎トシテ議事ヲ續行スヘシト提シ右ニ決ス

(五) 尙報告者(典)不在中「諾」代表 LANGE ヲ之ニ充ツルコトト本會合ニ於テ定メタリ

空軍委員會第二十四回會合(六月十七日)

「西」案ニ
付討議ヲ
開始ス

前回會合ニ於テ空軍委員會ノ討議基礎トシテ採擇セラレタル「西」案 (Conf. D./C.A./36) (2) ((1))ハ何等議論ノ要ヲ見サル事項タリ) ヲリ討議ヲ開始ス

(一)「白」ハ「西」案(2)第二項記載各種要素ノ評價ハ興味アルモ同時ニ極メテ困難ナルカ故ニ寧ロ「民用航空ハ軍事

的見地ヨリ見テ重大且確實ナル危險ヲ構成ス」ルコトヲ認ムルヲ以テ充分トセスヤ抑モ民用航空ハ世界大戰後急速ニ發達シタルモノナルカ右發達ニハ各國ハ巨額ノ補助ヲ客マス而シテ右補助ノ動機ノ奈邊ニ存スルカハ察スルニ難カラス而シテ斯クノ如ク絶エス且組織のニ民用機ノ軍用充當ヲ考慮セラルル事實カ實ハ危險ヲ構成スル所以ナリ

國際的見地ヨリ民用航空ノ現狀ヲ律スルモノノ最重要ナルハ一九一九年十月十三日ノ條約ナルカ此種條約ハ民用航空ノ國際的障害ヲ排除セムトシツツ且一面其ノ活動ヲ阻害セサルヲ得サル實狀ニアリ國際化問題討議其ノモノニ迄反對ナル代表アルヘキモ本問題ハ民用航空ハ現狀ニ照シ當然生セサルヘカラサル問題ナリト結フ「蘭」ハ比較的發達セル民用航空ヲ有シ且軍用航空ノ問題ト民用航空トノ間ニ關聯ヲ認メサル自國トシテハ民用航空國際化ニヨリ軍縮事業カ如何ナル利益ヲ得ルヤヲ知ルニ先チ何等意見ヲ發表スル能ハス然レトモ空中爆撃ハ之ヲ最モ重視スルモノニシテ之ヲ絶對的禁止又ハ嚴重ナル規律ヲ求メテヤマスト同國從來ノ說ヲ繰リ返ヘス

(三)「獨」ハ空軍委員會ハ冷靜ニ民用航空ノ潛在的軍用價值ヲ考究スルト共ニ軍用航空ヲ有スル國ト然ラサル國トノ區別ヲ設クヘク國際法ノ根本原則ニ反スル民用航空國際「トラス」ノ基礎ヲ論スルカ如キハ之ヲ避クルヲ可トスヘク此ノ見地ヨリ討議基礎(2)ニ關聯シ民用航空機ノ軍事的價值ニ關スル質問集 (Conf. D./C.A./38) ヲ作成セリト披露シ

「英」ハ民
用航空ニ
關シテハ
條約案第
二十八條
ス

「英」民用航空國際化ハ極メテ複雑且機微ナル問題ニシテ英國側トシテハ何等具體案提出ノ意ナキモ其ノ討議ニハ參加ヲ客マス思フニ既存諸提案ハ未タ極メテ漠然タルヲ免レサルカ故ニ現狀ニテ討議ヲ行フモ效ナカルヘシ反之條約案第二十八條ハ無視スルヲ得サル規定ナリト述ヘ「佛」ハ空軍軍備ノ縮少及制限ニハ民用航空國際化ヲ條件トスト述フ

空軍委員會第二十五回會合(六月二十二日)

「加」ハ國
際化反對
ナ明言ス

(一) 劈頭「加」ハ民用航空國際化ニ關シ今日迄爲サレタル提案ハ何レモ漠然タルモノナルカ(イ)平時國際機關ノ下ニ於ケル世界民用航空ノ監理及統制(ロ)戰時特定航空兵力ノ國際聯盟ヘノ提供ヲ二大要點トスルモノノ如シ然ルニ右ノ如キハ現存國際組織ニ對スル一大變動ニシテ條約案第二十八條ノ内容ニ比スルノミニテモ如何ニ其ノ計劃ノ果敢ナルカ

「佛」國際
化ニ對
スル抱
負ヲ表
ス

「佛」提案

「米」ハ國
際化ハ歐
洲問題ナ
リトス

ヲ知ルヘク同意ヲ難クスル處ナリトテ包括の不賛成ノ意ヲ表ス

(二)「佛」ハ本件ノ取扱ニハ(イ)民用航空國際化ハ空軍軍備ノ縮少ニ必要ナリヤ否ヤ(ロ)然リトセハ如何ナル範圍ニ於テ必要ナリヤヲ定ムルヲ捷徑トスヘシト前提シ近來空軍軍備ノ膨張特ニ著シキコトヲ世界大戰以前ト現時ニ比較ヲ試ミ次テ民用航空國際化思想ノ沿革ヲ略述シ轉シテ坊間「佛」ハ民用航空ノ國際化ニヨリ「獨」民用航空ヲ制肘セムトスル意圖ヲ有スト諷フルモノアルモ斯ル意思ナキコト言ヲ俟タス然レトモ民用航空機ノ噸數ハ時ト共ニ増大スル一方ニテ此種大型飛行機カ容易ニ有力ナル爆撃機トナルハ周知ノ處ナルカ故ニ其ノ廢止可能ナラサレハ之ヲ國際化セヨト云フニアリト述ヘ左ノ提案(Conf. D./C.A./40)ヲナセリ

- (1) 空中ヨリスル化學、細菌及燒夷戰ノ禁止
- (2) 戰場又ハ空軍基地及長距離砲々床以外ノ爆撃禁止
- (3) 軍用飛行機單機最大重量(自重)ノ決定、右重量ヲ超ユルモ嚴ニ防禦の用途ニ缺クヘカラサル軍用飛行機ノ割當テ竝ニ此種飛行機ノ國際聯盟ヘノ提供
- (4) 商用輸送航空機ノ大陸別國際化
- (5) 國際化セラレサル民用飛行機最大重量ノ決定
- (6) 右ト關聯シテ採ルヘキ兵器取引及民營ニ關スル措置
- (三)「英」ハ「佛」カ具體的提案ヲナセルヲ喜ヒ右ヲ以テ此種既存案ニ比シ大ニ考究ノ價值アリトシ只吾人ハ人類ヲ害セサル範圍ニ於ケル航空ノ發達ヲ阻害セサルコトニ留意スヘク從テ單機最大重量ノ如キモ各國ニ滿足ヲ與ヘツツ然モ前記條件ニ適スル様定ムルヲ得ヘシトス
- (四)「米」ハ前記「加」ノ聲明ノ大綱ニ同意ヲ表シ民用航空ノ國際化カ歐洲大陸ニ付可能ナルニ於テハ其ノ研究ニ喜ヒ協カスヘシ又民用航空機ノ軍用轉化防止方法ニ關シテハ自國トシテモ其ノ必要ヲ認メ居レルカ「西」解答案(Conf. D./C.

A./39) 中特ニ「(1)ニ民用航空ニ對スル國家ノ補助ハ主トシテ軍事上ノ動機ニ出ツトノ趣旨アルモ「米」ニ於ケル此種補助金ハ民用航空機ノ安全ト速力増進ノ爲ニミ與ヘラルルモノニシテ其ノ額ノ如キモ鐵道及自動車網ニ對シテ與ヘラルル補助金ニ比シ大ナラスト述ヘ Conf. D./C.A./8 第十五頁第五項ヲ讀ミ上ク

(五) 右終リテ議長(西)ハ第二十三回會合ノ決定ニヨリ(同回記事(四)參照)「西」案(Conf. D./C.A./36)カ依然討論ノ基礎タルニ相違ナキモ現ニ「獨」案(Conf. D./C.A./38)又最近ニ「佛」案(Conf. D./C.A./40)ノ提出モアリタルカ故ニ討論方法ヲ改メテ考慮スルノ要アルヘク小分科會設置ノ要ナキヤト諮リタル處「獨」ハ右「佛」案ハ多クノ問題ヲ包含シ居ルヲ以テ右ニ關シ發言ヲ希望スル代表部多カルヘク小分科會ヨリハ寧ロ空軍委員會自身ニ於テ討論スルヲ可トスヘシト述ヘ他ニ右討論手續及「佛」案ニ付發言ヲ求ムルモノナカリシニ因リ今後討論方法ニ關スル決定ハ次回會合ニ讓レリ

空軍委員會第二十六回會合(六月二十四日)

討論ノ基礎案タリシ「西」案(Conf. D./C.A./36)ノ外「獨」案(Conf. D./C.A./38)及「佛」案(Conf. D./C.A./40)ノ提出アリタルニ付本會合ニ於テハ先ツ前回會合ヨリ持テ越サレタル今後ノ討論方法ノ決定ヲ行フ要アリタリ

(一)「獨」ハ「佛」案(Conf. D./C.A./40)及前回佛代表ノ陳述批評ヲ試ミ民用航空ノ國際化ナクムハ軍用航空ノ軍縮行ハレストノ「佛」ノ趣意ニハ賛成スル能ハス民用航空ノ軍用轉化防止方法トシテ千九百二十六年大使會議カ獨民用航空ニ加ヘタル制限ヲ敷衍スレハ可ナルヘク又假リニ民用航空ノ國際化ヲ必要トスルモ之ヲ歐洲ニノミニ限ルハ非ナリ

又前記「佛」案ニヨレハ爆撃ヲ一定地域ニハ認メ居ルヲ以テ爆撃ノ絕對禁止トナラサル處「テムベルホーフ」等ノ如ク獨國飛行場中大都市ニ近接又ハ其ノ中ニ在ルモノ存スルカ故ニ「佛」案ノ結果ヨリ來ル一般市民ノ脅威ハ甚大ナルモノアリ要スルニ「獨」代表部トシテハ軍用航空縮少ニ大ナル進歩ヲナスニ於テハ民用航空ニ對スル理由アル取締ヲ拒否スルモノニ非ス只民用航空ノ國際化ハ效果之シキノミナラス危險ナルカ故ニ他ニ民用航空ノ發達ヲ阻害セサル方法ヲ考慮スヘシトノ意見ナリト云フ

「獨」ハ軍
用航空
ノ民用
化ニ對
シテハ
空軍
ヲ縮
小ス
ルヲ
希
ム

國際化ニ
關スル佛
獨古戰

(二)「獨」ノ後ヲ承ケ「智惠古」ハ「佛」ノ國際化説ヲ支持シテ曰ク思フニ委員會討議ノ現狀ハ吾人ヲシテ豫メ嚴格ナル「フォーミユラ」ヲ受諾セシメムトスルニハ非スシテ基礎觀念ノ何タルカヲ知ルニアルヘシ自分トシテハ國際化ニ關スル資料ヲ研究スレハスル程其ノ實現性ノ大ナルヲ知ルモノニシテ且先ツ之ヲ歐洲ヨリ初ムヘキヲ信スルモノナリ幸ニシテ本問題ニ關シテハ「佛」及「典」案存スルニ付小分科會ヲ設ケ其ノ「タブロー、シノブテイク」ヲ作ルヲ以テ議事進行ヲ扶クル所以ナルヘシト述ヘ「西」モ「西」解答案(Conf. D./C.A./39)ニ説明ヲ加ヘ民用飛行機ノ殆ト大部分ハ軍用然カモ攻撃的用途ニ使用シ得ルモノニシテ又「獨」質問集(Conf. D./C.A./38)ノ專ラ取扱ヘル民間操縦者ニ付テモ同様ノ結論ヲ下シ得ルナリト間接ニ「獨」側態度ヲ駁スル處アリタリ

(三)次テ「佛」ハ本日會合劈頭ノ「獨」批評ニ答ヘ化學及細菌戰ニ使用セラルル手段ハ單ニ使用ヲ禁止スルノミナラス其ノ製造ヲ禁止セムトスルモノナリ又「獨」ハ空中ヨリスル空軍兵器ノ投下禁止ヲ主張シ居ルモ之カ爲メニハ右ニ使用セラルル飛行機ヲ民用及軍用共ニ考慮シ且後者ニ付テハ國際化ヲ考慮スルコト當然ニシテ右國際化ハ民用飛行機軍用轉化ニ對スル恐怖ニ關スル一大保障ナリト云フ

(四)「洪」案(Conf. D./C.A./36)(2)ノ第二項ニ對スル解答トシテハ民用航空全體トシテノ軍事的價值評定ニ付左ノ提案ヲシタリ且右ハ二國家間ノ關係ヲ基礎トシ左ノ三場合ヲ考慮セルモノナリトス

(イ)二國共民用及軍用航空双方ヲ有ス

(ロ)二國共軍用航空ヲ有セス民用航空ノミヲ有ス

(ハ)二國ノ中一方ノミ軍用航空ヲ有ス二國共民用航空ヲ有ス

次テ右三場合ニ關スル技術的説明ヲ與ヘ其ノ結論トシテ空軍委員會ハ

“La valeur militaire de l'aviation civile d'un pays dans son ensemble dépend de sa propre importance et de l'importance de la force aérienne du même pays”.

ナル趣旨ノ決議ヲナスヘシトス

「獨」空中
爆撃問題
ヲ上程セ
ムト試ム

(五)從來民用航空ニ反對ヲ表シ來レル「蘭」ハ空中爆撃ニ付テハ絶對禁止又ハ少クトモ其ノ嚴重ナル取締ヲ求ムルモノニシテ民用航空ノ軍事使用防止方法モ此ノ見地ヨリ必要トスルモノナリ因テ民用航空ノ國際化力カ爲緊要ナリトスルナラハ技術的商業的障害ヲ與ヘサルモノナルコトヲ條件トシテ國際化ニ賛成スルモ可トスヘキモ「佛」案(Conf. D./C.A./40)ハ爆撃全部ヲ禁止セス特定ノ除外ヲ認メ居リ大ニ失望ヲ感シタリ「佛」ハ右特例ヲモ廢止スル意ナキヤト詰メ寄リ且空軍委員會ハ直ニ爆撃禁止問題ヲ上議スヘキナリト説ク

「獨」ハ直ニ之ヲ支持セルカ議長ハ空軍委員會ハ現在ニ於テハ空中爆撃禁止問題討議ノ權限ナク之カ爲ニハ一般委員會ノ決定ヲ俟ツノ要アルヘシトス

(六)斯ノ如ク議論紛糾シ來レルヲ見「典」ハ一般委員會ハ民用航空ノ國際化又ハ嚴重ナル取締ノ専門的研究ヲ命シ居ルモノナルニ付右問題研究ノ爲小分科會ヲ構成スル方可ナラスヤトシ「丁」「佛」之ヲ支持シ結局「西」案(Conf. D./C.A./36)ヲ基礎トシ既存又ハ今後提出セラルヘキ提案ヲ參酌シツツ一ノ案文ヲ作成スルコトヲ任務トスル小分科會ヲ設ケ之ヲ公開トシ「ビュロー」「獨」「米」「佛」「英」「蘇」「伊」「白」「典」「蘭」「波」「亞」「洪」及我方ヲ以テ之ヲ構成スルコトトシタリ

(七)民用航空國際化問題ハ當初ヨリ難關ニ逢着シ小分科會ヲシテ研究ヲ進メシムルコトトナリタルカ同小分科會モ右事態ニ鑑ミ國際化ヲ後廻シトシ「レীগグルマンタシオン」ノ問題ノ審議ヨリ初メ右ヲ議シシ休暇ニ入リタル次第ナルカ空軍本委員會ハ休會前ニハ本會合ヲ以テ最後トシタリ

小分科會討議ノ經過ハ左ノ通り

五、六月二十四日設置空軍委員會小分科會議事經過

小分科會第一回會合(六月二十七日)

(一) 議長(西)ヨリ從來一應討議ノ基礎ト決定シ居リシ「西」案(Conf. D./C.A./36)右ニ對スル「西」解答案(Conf. D./C.A./39)及「獨」質問集(Conf. D./C.A./38)併行討議ヲ提議セシ處「獨」ハ自國案先議ヲ固執シテ譲ラス其間「西」案(Conf. D./C.A./36) (2) 及 (3) ニ關シ「米」案(Conf. D./C.A./42)ノ提出アリ審議方法決定ニ付議論紛糾セシカ「白」及「蘭」ノ取做シニヨリ結局二十八日午前中早目ニ「獨」代表カ前記自國質問集ニ付キ作成スヘキ解答案ヲ各代表部ニ配付シ右「西」二案及「米」案ト共ニ一括討議スルコトナレリ

小分科會第二回會合(六月二十八日)

(一) 議長(西)ヨリ討議ノ現狀ニ付説明ヲ加ヘタル後獨逸解答案(Conf. D./C.A./43)ヲ討議シ「西」案(Conf. D./C.A./36)ノ(2)及(3)ニ關スル決定ヲナスコトシテハ如何ト提言シ代表部ノ意見開示ヲ希望ス

(二) 「佛」ハ「獨」質問集(Conf. D./C.A./38)カ軍用民用兩航空トノ間ノ關係ヲ軍艦ト商船トニ比較セルハ正確ナラサルコト及軍民航空ノ轉用容易ナルコトヲ主張セルモ「獨」案ノ結論ニ對シテハ大體ニ於テ贊意ヲ表スト述ヘ且佛國側ハConf. D./C.A./36, 39, 39 (a) 及 42ノ全部及同々ノ結論ヲ討議ノ基礎トスルニ異議ナシ(但シ細目ニ關シ留保ス)トテ右諸文書綜合整理ノ爲メ起草委員會ノ設立ヲ提言セル處「白」ハ事務促進ノ見地ヨリ「米」案(Conf. D./C.A./42)ヲ其ノ儘「西」案(Conf. D./C.A./36) (2) 及 (3) ニ對スル解答トシ「西」「獨」解答案ヲ其ノ附屬書中ニ記載ス<シト述<「獨」「米」「蘇」「伊」之ヲ支持シ起草委員會ノ設置ニ反對シタルモ「英」ハ「西」「米」「獨」三解答案(Conf. D./C.A./39, 39(a), 42, 43)ヲ綜合整理スル爲メ起草委員會ノ設立必要ナリト述<「波」之ニ贊シ「洪」ハ「洪」提案(Conf. D./C.A./41)ヲ「米」案(Conf. D./C.A./42)ニ其ノ第二項トシテ加フルコトヲ求メ且起草委員會設立ヲ可トスト述フ

(三) 議長ハ茲ニ於テ手續問題ニ關スル前記諸提言ニ言及セル後本件ハ起草委員會ヲ設ケス報告者ヲシテ處理セシムルコト適當ナルヘク又内容トシテハ前記「米」案ニ何等修正ヲ加ヘスシテ之ヲ「西」案(Conf. D./C.A./36) (2) 及 (3)

ノ回答トナスコト如何ナルヘキヤ但シ後ニ於テ右「米」案ニ修正ヲ申出ルハ自ラ別問題ナリト述ヘタル處「獨」ハ「獨」側ハ「米」案ヲ其儘單純ニ受諾シタルモノニシテ之ニ修正ヲ加フルコトナルニ於テハ「獨」亦「米」案ニ「獨」案ヲ挿入センコトヲ提言スヘシト述フ

議長ハ之ニ對シ前記(2)及(3)ノ回答トシテ「米」案(Conf. D./C.A./42)ヲ採擇シ修正等ハ全部空軍本委員會ニ於テ討議スルノ趣旨ナリト答<(其間「白」ハ右「米」案第五行末段“influencer sur”ヲ“déterminer en général”ト修正センコトヲ提議セルモ「獨」カ原案維持ヲ主張セル爲メ之ヲ撤回ス)更ニ「米」案ヲ其儘採擇シ得サルヤト述フ

(四) 堀田公使ハ右「米」案空軍力既ニ大ナル國ニ取リ差支ナキ提案ナルモ我國ノ如ク空軍力建設ノ途上ニアルモノノ現狀ヲ充分ニ參酌セス從テ第三行「現存空軍ハ」ト云フハ適當ナラスト述ヘ「米」案ニ反對ス右ニ對シ「佛」ハ案ハ簡單ナルヲ可トスヘク又將來ノ事態ヲ取扱フヘキモノニ非サルヲ以テ「米」案第一句ヲ削除シテハ如何ト提言ス次テ議長ハ「現存」ナル文字ヲ削除セハ日本側ハ満足スルヤト問ヒ我方ハ「現存」ナル文字ヲ削除スルモ行文ハ依然トシテ斷定的ナリト述フルヤ議長ハ更ニ日本側ハ「佛」ノ第一句削除說ニ贊スルヤト問ヒ我方之ヲ肯定ス

(五) 「米」ハ「佛」提言ノ通第一句削除ニ同意シ「獨」ハ右句削除ニ反對ス

(六) 議長ハ本件ヲ一個ノ短文ニテ片付クルハ果シテ當ヲ得タルモノナルヘキヤトテ我方及「佛」側ノ再考ヲ求メタル處「佛」ハ議長ノ說ヲ首肯シ(Conf. D./C.A./36) (1)乃至(4)ヲ採擇スルコトニ同意セルヲ以テ議長ハ「西」案(5)ニ移ラシコト竝ニ日本側ノ異議ニ關シテハ報告者及我方ヲ含ム小數國ノ代表者ニ於テ別ニ直ニ之ヲ審議センコトヲ提言セル處「獨」ハ「西」案(2)及(3)特ニ(3)決定ノ要アル旨ヲ述ヘ且同國側ハ右解答トシ「米」案ヲ受諾セルニ議長ノ言ニヨレハ今ヤ事態ハ一變シ別ニ報告者ヲシテ案ヲ作成スルノ事ナルカ右ノ如キ手續ニ贊成スル能ハス宜ク「米」案ヲ指名投票ニ附スヘシト主張ス

(七) 我方ハ審議ヲ困難ナラシムルハ我方ノ本意ニ非ルヲ以テ本分科會カ「米」案ニ贊スルニ於テハ書面ヲ以テ我態度ヲ

留保スヘシト述フ之ニ對シ「佛」ハ本案ニ留保ヲ附スルハ面白カラス仍テ同國側ハ從來ノ所述ヲ全部撤回シ單純ニ「米」案ニ贊スヘク但シ留保ノ必要ナカラシムル様「米」案ヲ修正シテハ如何ト述ヘ「白」側ヨリ我方ノ削除ヲ主張セシ「現在軍備」ノ「現在」ノ語ヲ削レル新案文ノ提出アリ委員會之ヲ採擇ス

「軍用及民用航空ノ現狀ニ鑑ミ空軍委員會ハ空軍軍備ハ戰闘ノ結果ニ影響ヲ及ホスカ如キ程度ニ於ケル民用航空ノ軍事的使用ヲ防止シ得ルモノナリト認ム軍用航空ニ對シ著キ制限ノ加ヘラレル場合ニ於テハ民用航空ハ潛在的軍事價值ヲ有スルニ至ルヘク而シテ右軍事の價值ハ主トシテ空軍軍備ニ加ヘラレル制限ノ條件ニヨリ定マルヘシ」

尙議長ハ右案文ニハ當初議セラレタルカ如ク附屬書ヲ付スルコトナカルヘシト提言シ其ノ通トナル

(八) 次ヲ議長ハ「西」案 (Conf. D/C.A./36) (4) ハ不必要トナリシニ依リ直ニ「西」案(5)ノ討議ニ移ルヘシト其ノ案文ヲ朗讀シ右ハ軍縮ノ見地ヨリスレハ如何ナル程度迄民用航空ヲ國際化スヘキヤヲ探究スルヲ目的トスト説明ス

(5) 「民用航空ニ加フヘキ措置ハ航空ノ國際的組織ヨリ來ル便益ヲ技術的見地ヨリスルニ止マラス國際間ノ安全ノ點ヨリモ之ヲ考慮スルヲ要ス」

“5. Il faut envisager les mesures à prendre au sujet de l'aviation civile non seulement du point de vue strictement technique des avantages d'une organisation internationale de l'aviation, mais encore du point de vue de la sécurité internationale”.

“It is necessary to consider the measures to be taken in regard to civil aviation not only from the strictly technical standpoint of the advantages of an international organisation of aviation but also from the standpoint of international security”.

「英」ハ右案文中“measures”ノ語ノ次ニ“nécessaires et praticables”ヲ加テ“des avantages d'une organisation internationale de l'aviation”ノ句ヲ削除スヘシト提シ「獨」之ニ贊シ議長亦右修正案ヲ受諾ス

(九) スクラ會合カ一段落ヲ告グントセル際「米」ハ右(5)ニ「空軍委員會ノ議事ヲ容易ナラシムルカ爲民用航空國際化

ノ問題ハ歐洲ニ於ケル民用航空ノ見地ヨリ審議ス」トノ一項ヲ加ヘタル處「白」ハ先ツ審議ヲ開始シ然ル後歐洲問題ニ限ルヘキヤ又ハ他大陸ニモ及ホスヘキモノナリヤヲ決スヘシト述ヘ「蘭」及「獨」亦歐洲問題ト限定スル必要ナシト「米」ニ反對シタルヲ以テ「米」ハ敢テ小分科會カ右ニ關シ直ニ決ヲ探レハトハ固執セサルモ「米」トシテハ軍用航空ニハ徹底的縮減ヲ加ヘムトスル意向ナルモ歐洲ニ於ケル民用航空ニ付テハ自ラ別個ノ考慮ヲ要スト認メ「フーバー」案ニ於テモ民用航空ヲ考慮ニ入レサリシ次第ナリ尤モ右ハ本軍縮會議カ民用航空ノ直接軍事使用ヲ禁止スル際ニ於テ自國民用航空ヲ合衆國憲法ノ許容スル範圍ニ於テ之カ禁止ヲ確保スルノ意志ナシト云フニ非ルコト勿論ナリトテ其ノ立場ヲ説明シ議長ハ「米」側カ其態度ヲ固執セストノ點ヲ多トシ且本分科會ハ勿論空軍委員會ニ於テモ本件ヲ歐洲問題ニ局限スルヤ否ヤヲ決定スルノ權限アリヤ疑ナキ能ハスト述フ

(十) 終リニ小分科會今後ノ議事進行ニ關シ「佛」ハ(イ)補助金(ロ)人員(ハ)製造ノ順序ニテ討議セハ如何ト提言シ報告者ハ右案ニテハ議論百出スヘシト注意シ「白」ハ討議順序トシテ Conf. D/C.A./47ヲ提議シ「獨」ハ直ニ之ニ贊シ速ニ同案ノ討議ヲ開始スヘシト主張セルカ「英」ハ小分科會ノ任務ハ民用航空軍用使用防止方法ノ研究ニ在ルヲ以テ此點ヲ指針トシテ報告者カ討議順ノ文書ヲ作成スレハ可ナラスヤト述フ

議長ハ「白」案ヲ支持シ同案一即「民用航空ノ國際的取締及規律ノ方法」ヨリ討議ヲ開始シ順次他ニ及フヘシト述ヘ「典」之ヲ支持セルヲ以テ「英」モ讓歩シ右第一點ノ審議丈ク此際受諾スル旨ヲ述ヘタルヲ以テ結局次回ハ右第一點丈ケテ討議スルコトナレリ

(十一) 前記「白」討議順序ニ關スル提案左ノ如シ (Conf. D/C.A./47)

- 1 民用航空ノ取締及國際規律ニ關スル措置
- 2 民用航空ニ關スル國際協力特ニ國際會社ノ設置ヲ妨クル措置ノ廢止

(a) 國際法上ノモノ

(b) 國內法上ノモノ

(c) 補助金下付ノ手續ニ關スルモノ

3 民用航空間ノ協力ヲ活潑ナラシメ及國際的經營ヲ促進セシムル具體的措置

4 單一方式ニヨリ「グラウインド、オーガニゼーション」發展ヲナス爲ノ國際協力

5 左ヲ經營スル爲ノ國際會社ノ建設

(a) 「フロルマン」案實現ニ適當ナル郵便航空路

(b) 歐洲主要航空路

6 一般的措置

小分科會第三回會合

前回會合ニ於テ議題ニ關スル「白」提案 (Conf. D./C.A./47) ノ 1 ヲ先ツ採擇セル結果空軍委員會「ビユーロー」ニ於テ作成セル民用航空ノ取締及國際規律ニ關シ各國代表部ノナセル提案一覽表 (Conf. D./C.A./49) ニ付キ討議ヲ行フ右表左ノ如シ

I

一般的提案

(a) 民用航空ニ關スル嚴重ナル國際取締—一般的取締ニ關スル常設委員會ノ設置

(「L」—Conf. D./99, page 51, par. 2(6))

„/112, „ 3.)

(b) 出來得ル限り廣範圍ノ公表—技術上及經營上ノ取締—今後定ムヘキ相對關係ヲ出來得ル限り變更セサルノ義務
(「伊」—Conf. D./106, page 5)

國際化ヲ伴ハサル取締及國際規律措置ニ關スル提案

(a) 「蘇」軍縮條約案

第二十五條

第四十五條

(「蘇」—Conf. D./99, page 45, 47)

(b) 民用航空器材購入及保持ノ爲豫算ニ計上セラレ居ル經費、補助金及貸付金ノ制限

(「典」—Conf. D./110)

(c) 大使會議ニヨリ「獨」ニ課セラレタル措置 (千九百二十六年五月二十二日) ノ採用

(「獨」—Conf. D./C.A./45 Page 3)

(d) 千九百十九年巴里條約加入又ハ之ト同様ノ條約ノ成立

(「白」—Conf. D./C.A./45—I)

(e) 條約案第二十八條ノ採用

(「瑞」—Conf. D./C.A./44)

(f) 人員、器材及補助金ニ關シ民用航空軍事使用防止ニ適當ナル條約

(「蘭」—Conf. D./C.A./48)

II

國際化ニヨル取締及國際規律措置ニ關スル提案

(a) 民用航空ニ對スル嚴重ナル取締ノ基礎トシテノ國際化—國際機關及右機關所屬航空人員ニヨリ行ハルル取締

(「典」—Conf. D./C.A./10)

(b) 民用航空器材人員及行動ニ對シ取締ヲ行フ國際機關
〔亞〕—

(c) 各國民用機ノ戰爭上ノ使用ニ適スル機ヘノ改造防止規律ニヨリ補足セラルル輸送民用航空ノ國際化
〔佛〕—Conf. D./C.A./56)

” /115)

” /40)

(一) 「白」右表ノ配列ヲ評シ取締及公表ノ價值ヲ無視スルモノニアラサルモ先ツ國際的規律ノ討議ヨリ始ムルヲ論理的トセサト注意シ議長(西)之ニ贊シ又「英」ハ小分科會ノ任務ハ民用航空ノ軍事使用防止方法ノ探究ニアル點ニ注意スヘシト前同會合ニ述ヘタル點ヲ再說シ而シテ右方法タルヤ實際的且適用ノ容易ナルコトヲ必要トスヘク此點ニ關シ條約案第二十八條ハ好箇ノ指針タルヘク最近提出セル「英」案(Conf. D./C.A./50)ハ右ヲ基礎トセリト述ヘ「英」ノ小分科會議事ニ對スル態度ノ極メテ控ヘ目タルヘキヲ思ハシメタリ
右「英」案左ノ如シ

「民用航空ノ正當ナル發達及其ノ平時ニ人類ニ貢獻スル便益ヲ減スルコトナク戰時ニ於ケル同航空軍事使用防止措置ヲ採ルノ必要ナルヲ確信シ

右措置ノ有效ナルカ爲ニハ世界的性質ヲ有シ從テ一般的ニ受諾セラルルカ爲メニハ現存國內及國際機關ノ權限ヲ侵スコト出來得ル限リ少ナルコトヲ要スルヲ認メ

條約案ノ範圍内ニ於ケル討議續行ニ關スル千九百三十二年二月二十五日一般委員會決議ニ鑑ミ締約國ハ左ヲ約ス」

I 民用航空

(a)

- (1) 戰爭ニ使用スルコトアルヘキヲ豫想セル民用航空機建造ノ禁止
- (2) 民用機建造ニ際シ軍事上ノ施設ヲ容易ナラシムルカ如キ性質ノ禁止
- (b) 右(a)ニ揭クル禁止ニ違反セル一切ノ民用航空機ニ對スル飛行許可證ノ不可付
- (c) 毎年末後X月以内ニ左ノ通報ヲ國際聯盟ニナスコト

(1) 自國民用航空機總數

(2) 私有民用航空機ニ關シ

(a) 自重

(b) 許容總噸數

(d) X噸ヲ超ユル自重ヲ有スル民用航空機ニ關シ

(1) 速カニ飛行許可證下付ノ事實ヲ國際聯盟ニ通報ス

(2) 前記(a)ノ規定ニ違反セストノ證明書ヲ國際聯盟ニ送付ス

(3) 當該機使用目的、通常使用ノ航空路、所在地、自重並許容總重量ヲ國際聯盟ニ通報ス

(e) 正式ニ資格ヲ賦與セラレタル國際聯盟代表者ニ對シ一切ノ普通時間ニ於テ一切ノ民用航空機ヲ調査スルノ權限ヲ與ヘテ前記(a)ニ揭クル規定ニ此等航空機カ違反シ居ラサルコトヲ確保ス

(f) 前記(c)ニ掲クル調査ノ結果國際聯盟代表者ニ於テ一航空機カ(製造後ノ改造又ハ一切ノ他ノ原因ニヨリ)前記

(a)ノ禁止ヲ犯セルモノト認ムル場合ニハ聯盟ハ當該國ニ對シ抗議ヲナスヘク右政府ハ爾後ノ調査ニ先チ速カニ右航空機飛行許可證ノ中止又ハ取消ヲナスヘキコトヲ約ス

(註) 右提案ノ結果國際聯盟ノ下ニ「ロイド」海軍年鑑又ハ之ト類似ノ登錄簿作成セラルルニ至ルヘシ

民用航空人員

締約國ハ民用航空企業ニ對シ特種軍事訓練ヲ受ケタル人員ヲ使用スルコトヲ要セサルコト及民用航空人員ニ關シ軍事訓練ヲ命セサルコトヲ約ス

航 空 路

締約國ハ主トシテ又ハ特ニ軍事上ノ目的ノ爲メニ使用セラレ得ル航空路ヲ設ケサルコトヲ約ス

國家、ヨル、補助金

締約國ハ左ヲ約ス

- (a) 經濟上、行政上及社會上ノ目的ノ爲メニ設ケラレタル航空路以外ニ直接又ハ間接ニ補助金ヲ下附セサルコト
- (b) 一切ノ補助金ノ額及條件ヲ國際聯盟ニ通報スルコト聯盟ハ右通報ヲ公表ス

(註) 右提案ニシテ採擇セラルレハ國際航空委員會ノ權限ヲ擴張スル方新ニ國際機關ヲ設ケルヨリ可ナルヘシ

(二) 「佛」モ自國提案 (Conf. D/C.A./115) ハ現ニ小分科會ニ提示セラレアル諸案ヨリ更ニ一步ヲ進メタルモノナルモ差當リ之カ討議ヲ拒ムモノニ非ストシ結局報告者ニ於テ國際的規律ニ關スル討議基礎案ヲ次回會合迄ニ作成スルコトトセリ

小分科會第四回會合 (七月四日)

前回會合ノ際ニ於ケル取極メニ從ヒ討議基礎タル「西」案 (Conf. D/C.A./36) (5) ニ關聯シ民用航空ノ國際的規律ニ關シ報告者ノ作成セル Conf. D/C.A./52 及 53 ニ付キ報告者ヨリ前者ハ民用航空規律ニ關シ今次會議ニ於テナサレタル一切ノ提案ヲ事項別ニ收録セルモノナルコト後者ハ右ニ基キ報告者自身ニ於テ作成セル討議案ナリト説明シ直チニ後者 Conf. D/C.A./53 ヲ基礎トシ第一讀會ヲ開始ス

逐條審議ニ入ルニ先チ「波」ハ民用航空ノ國際化ノミカ同航空ノ軍用轉化防止ヲナシ得ルモノニシテ同航空ノ規律ノ如キハ不完全ナルヲ免レスト確信スルモノナルカ故ニ本小分科會カ國際化ニ關シ決定スルコトアルヘキラ條件トシ其ノ討議ニ

參加スト聲明シ「典」及「佛」之ヲ支持シ次テ「佛」ハ (Conf. D/C.A./53) ハ一般的見地ヨリ起草セラレタルモノナルヘク例ヘハ其ノ第五條ノ “les exigences normales” ノ如キ果シテ何カ正常ナル必要ナリヤニ付テハ何等言及セル處ナク他方適用ノ細目ニ付テモ同様ナルカ故ニ此ノ程度ニテ吾人所期ノ目的ヲ達シ得ルヤ疑ハシキノミナラス却テ民用航空ノ正常ナル發達ヲ害スヘシト信スト述ヘ斯クテ吾人ハ民用航空ノ國際化ヲ措キテ他ニ航空ノ軍用防止ヲ阻止スル方法ナシト「佛」代表部從來ノ見解ヲ保持スルモノニシテ本小分科會ノ討議ニ付テ一般の留保ヲナスト宣シ一般討議ヲ終ル

第一條

「締約國ハ警察用ノモノヲ除キ左ノ目的ノ爲メニノミ民用航空機ノ建造ヲ許可スヘキコトヲ約ス

(a) 乗客、貨物又ハ郵便物ノ輸送

(b) 空中作業

(c) 正常ナル「スポーツ」上ノ用途

(d) 科學上ノ用途及試験並ニ極メテ小數ニ限リ競技上ノ用途」

“Les Hautes Parties contractantes s'engagent à ne permettre que les aéronefs civils—sauf ceux destinés à la police—soient construits pour d'autres fins que les suivantes :

a) le transport des passagers, marchandises ou posts,

b) le travail aérien,

c) les buts sportifs normaux,

d) les buts scientifiques et les essais et,—mais seulement dans un nombre restreint, pour les concours.”

“The High Contracting Parties undertake that the construction of civil aircraft—apart from aircraft required for police work—shall only be allowed for the following purposes :

a) the transport of passengers, goods or mail ;

- b) air work ;
- c) normal touring requirements ;
- d) scientific and experimental requirements and, in a limited number only, competitions .

(一)「白」同條(リ)ノ“travail aérien”ノ意義ヲ問ヒタルニ對シ議長ハ本案提案者タル「蘭」ヨリ提出セル左ノ趣旨ノ説明書ヲ朗讀シ「蘭」ハ右用語ハ國際航空委員會ノ使用ニ係ルモノナルカ疑義アル場合ニ關スル決定ニ當ラシムル爲メ一ノ機關ヲ要スヘシトテ之ヲ補足説明スル處アリタリ

「官公機關及私的團體ニヨリ空中ヨリスル撮影、魚鮮ノ搜查、森林火災監視其他之ニ類スル作業」

次テ「典」ハ國有機ト然ラサルモノトニ截然區別スルヲ要スヘク本條ハ其ノ趣旨ニテ警察用飛行機ヲ除外スルモノナルヘシト述ヘ「波」ハ茲ニ謂フ警察トハ軍隊の組織セラルルモノヲモ含ムヤト質ス處アリ「白」ハ廣告用飛行ノ發達セル現狀ニ鑑ミ第一條ニ之ヲ包含セシムヘシト希望シ「瑞西」ハ衛生上ノ目的ニ使用セラルルモノニ付キ同様ノ希望ヲ述フ

(二)「米」ハ規律ノ問題ハ専ラ歐洲問題ナリト解シ居ル處「米」トシテハ他ニ憲法上ノ理由ニヨリ聯邦政府ハ各州ニ對シ民用機ヲ軍用ニ供スヘカラスト命スル權限ヲ有スルヤ否ヤ疑問ヲ有シ居レリ即チ此種事項ニ付軍縮條約案ニ於ケルカ如ク一定ノ事項ヲナササル、不作爲ノ義務ハ一般ニ受諾シ得ルモ進ムテ一定事項禁止ノ義務受諾ハ必シモ然ラス此ノ見地ヨリ「米」ハ一般の留保ヲナスト共ニ歐洲諸國間ノ議事ヲ遲滯セシメサルカ爲メ第一條乃至第五條ニ關スル討議ニ參加セサルヘシト述フ

(三)「佛」ハ再ヒ發言シ民用機ノ何タルカニ付未タ吾人ハ定義ヲ設ケサル處之ニハ狩獵用ノ機ヲ包含スルヤ又之ニ旅行用飛行機ヲ包含セシムルヤ殊ニ警察用飛行機ヲ除外セルコトカ何等制限ヲ加ヘストノ趣旨ナルニ於テハ第一條ノ一大缺陷タリト指摘シ結局原案者「蘭」ニ於テ前記各國ノ注意ヲ參酌シ新二案文ヲ起草スルコトトス

第二條

「白」ヨリ條約第二十八條第一項ノ方明確ナリト指摘シ原案者「瑞西」ハ本條撤回ヲ諾ス

第三條

「締約國ハ左ヲ禁止スルコトヲ約ス

(一) 軍用上ノ目的ニ使用スルコトアルヘキヲ慮リテナス民用航空機ノ建造
(二) 民用機ノ建造ニ際シ軍用上ノ設備ヲ容易ナラシムヘキ一切ノ性能トハ装甲、兵器又ハ一切ノ軍事的施設ヲ受クヘキ目的ヲ以テスル補強設備ヲ云フ

(三) 民用航空機ノ武裝、兵器据付又ハ戰爭ニ使用スル目的ヲ以テスル設備

(四) 民用機ヲ軍用機ニ改造スルカ爲メニ必要ナル部分品及豫備發動機ノ製造及貯藏」

“Les Hautes Parties Contractantes s’engagent à interdire :

1) la construction d’aéronefs civils en vue de leur utilisation éventuelle pour des fins militaires ;
2) dans la construction des appareils civils, toutes caractéristiques destinées à faciliter l’installation d’aménagement ou de dispositifs militaires ; on entend par “caractéristiques militaires” : les blindages, les aménagements ou renforcements en vue de recevoir des engins de guerre ou des dispositifs militaires de toute espèce.

3) l’armement des aéronefs civils, leur aménagement pour des buts d’installation des armements ou buts d’utilisation pour la guerre.

4) la fabrication et la détention de stocks de pièces détachées et de moteurs de réserve destinés à la transformation des aéronefs civils en aéronefs militaires”.

“The High Contracting Parties undertake to prohibit :

1) the construction of civil aircraft with a view to their eventual use for war purposes ;
2) In the design of civil aircraft, constructional features intended to facilitate the installation of military fixtures or fittings ; “military features” shall be taken to mean armour, installations or strengthening enabling them to be fitted

with military engines or appliances of any kind;

3) The arming of civil air craft, their preparation for the installation of armaments or for their utilisation in warfare;

4) The manufacture and stocking of spare parts and reserve engines for the purpose of converting civil into military aircraft”.

(1) 「白」ハ不用ナリトシ「波」ハ實施不可能ナリトセルモ結局採擇

(2) 「佛」ハ軍事上ノ設備ヲ容易ナラシムル性能トシテ若干性能ヲ掲ケラルモ不完全ニシテ右ハ全部 *aménager* スルモノナルモ *caractériser* スルモノニ非ス端的ニ云ハハ軍用機ト民用機トノ區別ハ不可能ナリト指摘シ本項提案國「蘭」

ト「佛」トノ間ニ協議セシムルコトトス

(3) 修正(2)中ニ包含セシムルコトトス

(4) 「波」ハ飛行機製造業者ニ此ノ種制限ヲ加フルハ民用航空發達ヲ阻害スルモノナリト反對セルモ結局採擇

第。四。條。

削 除

第。五。條。

「締約國ハ商用航空機カ企業ノ正常ナル必要ヲ超過スルヲ禁スルコトヲ約ス」

“Les Hautes Parties Contractants s'engagent à interdire que le nombre des aéronefs commerciaux dépasse les exigences normales des entreprises”.

“The High Contracting Parties undertake not to permit the number of commercial aircraft to exceed the normal requirements of aviation enterprises”.

「典」ハ本條規定ノ趣旨ノ可能性ニ付疑義ヲ述ヘタルニ反シ「蘭」ハ機數ノ制限ハ民用機ノ軍用防止ニ必要ナルヲ以テ本條保持ヲ必要トスト述ク「白」ハ本條末段ニ“Ce niveau normal pourrait être déterminé dans chaque cas par un organisme

international”トノ趣旨ヲ加フヘシト述ヘタルニ對シ「日」ハ右國際機關ノ何タルカヲ知ラサル今日自國ノ態度ヲ「コムミット」シ難ク右「白」案ニ對シ留保スト述ヘ結局右我方ノ留保及「白」提案ヲ「テーク、ノート」シ採擇

第。六。條。

「締約國ハ軍用航空機材ノ民用航空企業ニ於ケル使用ヲ禁止スルコトヲ約ス」

“Les Hautes Parties Contractants s'engagent à interdire l'utilisation du matériel de l'aéronautique militaire dans les entreprises de l'aéronautique civile”.

“The High Contracting Parties undertake to prohibit the use of military aviation material in civil aviation enterprises”.

「亞」ハ自國國情ニ適セストテ削除ヲ求メ「日」「典」及「米」ハ條約案第二十八條第二項ヲ可トスト述ヘタルカ「典」ハ其後小分科會ノ大勢非ナルニ於テハ自說ヲ必スシモ固執セスト變説シ「佛」ハ本條ノ存在ニ特ニ異議アル次第ニ非ルモ本條ノ趣旨ハ軍縮條約ノ趣旨ヲ超エタルモノニ非ルヤト指摘シ結局採決ヲ次回ニ延長シ「英」ハ「I」ニ關スル討議ハ議長カ本會合劈頭ニ述ヘタル如ク第一讀會ナルカ故ニ何國ヲモ拘束セスト念ヲ押セリ

II 人員ニ關スル規定

第。七。條。

「締約國ハ民用航空人員ニ對シ軍事上ノ性質又ハ目的ヲ有スル一切ノ教育及訓練ヲ禁スヘキコトヲ約ス」

Article 7

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire toute instruction et tout entraînement, ayant un caractère on but militaire, de toute personne après son entrée l'aéronautique civile”.

“The High Contracting Parties undertake that no person shall, after he has entered the service of civil aviation, receive any instruction or training having a military character or purpose”.

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire toute instruction et toute activité dans l'aéronautique civile des personnes appartenant aux forces armées”.

“The High Contracting Parties undertake to forbid any instruction and activity in civil aviation of persons belonging to the armed forces”.

「白」徴兵制度ヲ有スル國ノ情態ニ適セスト異議ヲ唱ヘタルニ對シ議長ハ其ノ趣旨ノ修正ヲ加フヘシトシ本條ハ第八條ト一括次回迄審議ヲ延期ス

第九條

「締約國ハ

(a) 航空人員

(b) 飛行學校及操縦者養成以外ノ學校ニ於ケル生徒ノ數ヲシテ民用航空ノ正常ナル必要ヲ超エサラシムルコトヲ約ス」

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire que le nombre :

- a) du personnel navigant
- b) des candidats aux écoles de pilotage et aux écoles d'apprentissage pour les autres catégories de membres d'équipage soit supérieur aux besoins normaux de l'aéronautique civile”.

“The High Contracting Parties undertake that the number :

- a) of the navigating personnel
- b) of pupils in schools for pilots and schools for training other categories of members of air crews shall not exceed the normal needs of civil aviation”.

「佛」ハ「ノーマル」ノ語ノ意義ハ依然不明瞭ニシテ民用航空ノ意義亦然リト述ヘ「白」ハ第五條ニ對スルト同様ノ趣

旨附加方ヲ提議セルカ之モ賛否ヲ採ラス右ニテ第一讀會ヲ終ヘタルコトトシ次テ審議スヘキ取締ノ問題ニ關シ各國代表部間ノ意見交換及具體提案ノ提出ヲ求ムルコトトセリ

小分科會第五回會合(七月八日)

前回會合ニ於テ各國ノナセル提案及留保ニ基キ報告者カ Conf. D./C.A./53 ニ修正ヲ加ヘ作成セル Conf. D./C.A./53(D) ニ依リ議事ヲ行フ

逐條審議ニ入ルニ先チ「佛」ハ民用航空ノ國際化ノミ同航空ノ軍用轉化防止ノ有效方法タリト自說ヲ更ニ繰リ返シ右見地ヨリ「レーグルマンタション」ノミヲ論セル Conf. D./C.A./53(D) ニハ一般の留保ヲナストシ「蘇」亦軍用航空ニ付制限ヲ加フルニ非スハ此ノ種手段ノ受諾ハ不可能ナリトス

第一條(舊第二條及第三條)

採擇

第二條(舊第五條)

(一)「議長」本條ニ謂フ處ノ國際機關ノ何タルカハ取締ニ關スル討議案(Conf. D./C.A./55)ニ於テ詳論スヘシト注意シ尙右國際機關ハ諮問機關ナリヤ或ハ取締機關ナリヤニ關シ本條提出者タル「白」「蘭」間ニ幾分意見ノ開キアルヤニ見受ケラルルカ如何ト問ヒタル處該二國代表何レモ諮問機關ナリト答フ

(二)「英」本討議ニ關シテハ引續キ留保ヲナスモノナルカ今議長ノ言及セル國際機關ヲ規定セル本條末段ノ趣旨ハ國際化ノ一形態ナラスヤ何レニセヨ本條所定ノ如キ漠然タル約束ヲナスヲ得スト述ヘ「亞」ハ「英」ト同一態度ニ出テ商用機ノ數ヲ制限スルハ民用航空ノ發達ヲ阻ムモノナリトス

(三)「獨」ハ有效ナル制限カ軍用航空ニ加ヘラルルニ於テハ合理的ナル取締ハ之ヲ受諾スルノ用意アリ只右取締機關ノ有スヘキ權限ハ今次會議カ具體的成果ニ達シタル時初メテ之ヲ定ムヘシト述ヘ「佛」ハ本條中ノ「正常ナル必要」ヲ定

ムル具體的方法如何本規定ハ漠然タリト酷評ス

- (四) 於茲「蘭」ハ國際化ハ到底不可能事タルカ故ニ規律ヲ以テ満足スヘシトスルノ趣旨ナリ因テ規律ノ爲ニハ若干自國主權ヲ犧牲ニスルノモ之ヲ忍フヘク此ノ覺悟ナクムハ何事モナシ得サルニ非スヤトシ「典」亦此種提案ニハ種々困難ヲ伴フヘキモ空軍委員會議事モ既ニ久シキニ互レルヲ以テ此ノ程度ニテ妥結スルヲ適當トセサルヤト德意スル處アリタリ
- (五) 議長ハ議事ノ困難ヲ察シ本條前段ヲ其ノ儘トシ後段ヲ「關係國ノ請求アル場合、訴ヘアル場合又ハ必要アリト認ムル時ハ職權ニヨリ國際機關ハ航空企業ノ必要及豫備ヲ參酌シ許容セラルヘキ航空機數ヲ定ムヘキモノトス」トノ趣旨ニ改メテハ如何ト提議セリ (Conf. D./C.A./56)

- (六) 「米」ハ前回會合ニ於テ自國憲法上ノ困難ヨリ本討議ニ留保セルニ因リ此ノ際改メテ留保ノ要ナキ次第ナルモ茲ニ一言セムニ Conf. D./C.A./53(3) ハ全然軍用航空ヨリ分離考慮シ居ルモノナルカ吾人ノ目的ハ民用航空ノ統制ヨリ分離スル規定ヲ存置スレハ達成セラレタルモノト云フヘク果シテ然ラハ民用航空企業カ不用餘分ナル機材ヲ擁スルカ如キ不經濟ヲナストハ想像セラレス又議長案ハ事態ヲ複雜ナラシムルモノナルカ故ニ寧ロ條約案ヲ可トセサト述フ

堀田公使ハ正常ナル必要測定ノ可能性及其ノ方法ニ相當疑惑ヲ有シ居ルコト從テ議長案附加ノ適否ニ付テモ俄ニ判斷シ難シト留保シ結局本件ハ Conf. D./C.A./55 ト「括討議スルコトトス

第三條 (舊第六條)

「伊」ハ「特種」場合ニ於テハ例外ニ許可ヲ與フヘク此ノ場合軍用航空機材ハ民用航空人員ニヨリテノミ使用セラルヘシ」トノ趣旨ヲ本條ニ付加スヘキコトヲ提議シ採擇セラル

第四條 (新ニ挿入)

「締約國ハ軍事上ニ使用セラルル目的ヲ以テ特ニ訓練セラレタル人員ヲ使用スルコトヲ民用航空企業ニ要求セサルコトヲ約ス」

採 擇

第五條 (舊第七條)

(一) 「英」ハ傭兵制度國タル自國ハ本條ニ同意スルヲ得ストシ「米」之ヲ支持シ本條ニ關スル Conf. D./C.A./53(3) 第三頁「フット、ノート」ヲ見ルモ右反對ノ理由自ラ明ナリトス

(二) 「佛」ハ軍事的性質ヲ有スル教育及訓練トアルモ何カ斯ル性質ヲ有スルモノタルヤ明ナラストテ左ノ修正案 (Conf. D./C.A./57) ヲ出セリ

「締約國ハ兵役義務期間以外ニ於テ一切ノ民用操縦者又ハ民用航空ニ屬スル一切ノ人員ニ對シ軍用航空ニ於ケル使用ヲ容易ナラシムルカ如キ補足的教育又ハ特種訓練ヲ課セサルコトヲ約ス」

右ニ對シ「米」ハ自國ニ於テハ民間操縦者ノ軍事的訓練ヲ受クルハ極メテ短期間ナルノミナラス其ノ「パーセンテージ」ノ如キモ徵兵制度ノ國ニ比シ極メテ低キカ故ニ原案修正案何レモ受諾シ得スト述ヘ議長ハ「佛」修正案ヲ配付シタル上改メテ審議スヘシト宣ス

第六條 (舊第八條)

「亞」ハ本條ニ反對シ「一切ハ行動ヲ軍用航空人員ニ禁止スルハ酷ナリトシ「佛」「日」之ヲ支持シ「日」ハ Conf. D./C.A./52 Article 8-B ヲ可トスト述ヘタル處「白」ハ右「一切」行動ナル用語ヲ法律的精確サヲ以テ表現スルコトハ不可ナルヘキモ常規ヲ以テ律スヘキ範圍ハ自ラアルヘキナリトセルモ「英」ハ本條ハ多クノ困難ヲ伴フノミナラス無意義ナリ而シテ此種規定ヲ必要トセハ陸、海ニモ等ク之ヲ及ホスヘキモノニシテ寧ロ軍縮條約自體ニ包含セラルヘキモノナリト述ヘタルカ「獨」ハ千九百二十六年大使會議中ニ同一用語アリタリト指摘ス次テ小分科會ハ本條ノ原則維持ヲ多數ヲ以テ支持シ更メテ「レダクシヨ」ヲ報告者ニ依頼ス

第七條 (舊第九條)

報告者ハ本條ハ「コントロール」ノ箇處ニテ論スルヲ可トスヘシトセルカ「佛」ハ本條ハ不明瞭ナル箇處多シト指摘シ「英」「米」ハ第二條ト同様ノ留保ヲナシ「亞」ハ明白ニ反對セルモ結局本條ノ原則ハ多數ニテ維持ニ決シ「レダクシヨ」ヲ更メテ報告者ニ依頼ス

小分科會第六回會合（七月十一日）

國際規律ニ關スル討議案（Conf. D./C.A./53⁽¹⁾）第八條ヨリ審議ヲ行フ

第八條（舊第十條）及第九條（第十一條）

（一）「波」ハ民用航空ノ完全ナル國際化實現ノ場合ニ於テハ本條第九條及第十條ハ削除セラルヘキモノナリトテ同國カ依然國際化ヲ重要視セルコトヲ間接ニ述ヘ「英」ハ本小分科會ニハ民用航空ニ付キ狹キ範圍ノ「コントロール」ヲ設ケムトスルモノト完全ナル國際化ヲ行ハムトスルモノトノ二派アル處現狀ノ儘ニテ討議ヲ繼續セムカ議事紛糾ヲ免レサルカ故ニ寧ロ前者ヲ以テ満足スルニ如カスヤト注意ヲ促セシモ議長（瑞西）報告者（諾）共ニ一般委員會ヨリ依囑セラレタル國際化問題ノ専門的研究ヘ赴クノ道程トシテ「コントロール」ニ關スル審議ヲ行ヒツツアルモノニテ未タ國際化ニ關スル小分科會ノ態度ヲ決スヘキ時期ニ達シ居ラスト答ヘ之ニ同意セス

（二）「佛」ハ本條中“spécifiquement”ノ意義如何ト問ヒタルニ對シ議長ハ軍縮條約案第二十八條第三項ニ“principalement”ノ語アルモ“spécifiquement”ノ語ナキカ故ニ本條ニ於テモ此ノ“spécifiquement”ノ語ヲ削除スル方可ナリトテ其ノ通ニ決シ次テ報告者ハ“subsider”ノ語アルモ“subventionner”ノ方ヲ可トセサト諮リ「佛」之ヲ支持シ之亦其通リニ決ス

（三）「典」ハ本條ヲ

“Les Hautes Parties Contractantes conviennent de ne pas créer ou maintenir ou subsidier en vue de profiter pour *des fins militaires*”.

トシ“principalement”以下ヲ削除スヘシト提セルカ「米」ハ本條、第九條及第十條ハ政府ト民用航空トノ關係ニ付キ規定シ居ル處右現在ノ形式ニ於テハ果シテ當該國政府以外ノ機關ニヨリ之ヲ適用シ得ルヤ否ヤ疑問ナルヲ以テ單ニ宣言的形式ヲ有スル單ニ條ニヨリ右三ヶ條ニ代フヘシトシ左ノ提案（Conf. D./C.A./50）ヲナセリ

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à ne pas exercer de contrôle national sur leur aviation civile, ou à accorder de subvention à celle-ci qu'à des fins économiques, administratives ou sociales, et sans tenir compte de l'utilisation militaire éventuelle de cette aviation”.

“The High Contracting Parties undertake that national control over civil aviation shall be exercised or subsidies granted for economic, administrative and social purposes, and in no way with a view to its eventual military employment”.

「典」「蘭」ハ取締ニ關スル國際機關ノ設置ヲ條件トシテ「米」案ニ賛シ又「伊」モ大體「米」案ノ趣旨ニ同意ナルモ案文トシテハ第八條及第九條ニ代ルヘキ左ノ自國案（Conf. D./C.A./53）ヲ可トスヘシト述ハタルモ「米」ハ該「伊」案ハ國ヲシテ特定事項ヲナサシムル義務ヲ負ハシムルモノニシテ「米」案ノ特定事項ヲナサルノ消極的義務ヲ課スルニ比シ更ニ一步ヲ進メタルモノナルカ故ニ同意シ得スト拒ム

尙「英」ハ右「米」案採擇セラレサル場合ニハ留保スト述ヘ

「締約國ハ民用航空ヲ戰爭ノ目的ノ爲メニスル使用ヲ防クカ爲メ民用航空ニ對シ各自取締ヲ行ヒ且經濟上、行政上又ハ社會上ノ目的ノ爲メニスルニ非スルハ補助金ヲ與ヘサルコトヲ約ス」

“Afin d'empêcher l'utilisation éventuelle pour des buts de guerre de l'aéronautique civile, les Hautes Parties Contractantes s'engagent à exercer un contrôle national sur l'aéronautique civile et à ne lui accorder des subventions qu'à des fins économiques, administratives ou sociales”.

“In order to prevent any use of civil aviation for warlike purposes, the High Contracting Parties undertake to exercise national control over civil aviation and not to subsidise it except for economic, administrative or social purposes”.

(四)「波」ハ討議カ第八條ニ止マラス「米」案ノ結果第九條及第十條ニモ及ヒタルヲ以テ第九條(舊第十一條)ニ付發言スヘシト前提シ同條ハ補助金ノ目的ニ關シ各國ニ與フル自由大ナルカ故ニ同條(a)ニ左ヲ附加シ

「社會的又ハ航空上ノ必要ニヨリ正當ト認メラレタル……………前記標準ハ各場合ニ付今後定ムヘキ國際機關ニヨリ其ノ必要ト認ムル場合評定セラルヘシ」

“… par le besoin social ou aéronautique. Les critères précités pourraient être estimés par une organisation internationale à déterminer, dans chaque cas où cette organisation le jugera nécessaire”.

“… by social or aviation needs. The criteria in question, to be settled by an international organisation to be determined whenever the said organisation may deem necessary”.

又同條(b)ハ「スポート」及「ツーリズム」航空ニ對シ嚴ニ過タルヲ以テ左ノ字句(Conf. D./C.A./51)ヲ(a)末尾括弧内ノ字句ト代フヘシトス

“Les sommes destinées au tourisme et au sport aérien qui pourraient être accordées sur les fonds du budget de l'aéronautique civile ne pourront pas dépasser …% de ce budget”.

“The sums allotted for tourist aviation and sports aviation which may be granted out of the funds of the civil aviation budget shall not exceed … per cent of that budget”.

結局直チニ決ヲ採ルコトヲ避ケ第八條及第九條ニ代ルヘキ新案文ヲ次回迄ニ起草シ置クコトトス

第十條(舊第十二條)

「佛」ハ本條ノ規定ハ余リニ嚴格ニ過ク但シ末尾“pour buts militaires”ヲ“pour des buts de guerre ou des préparations de guerre”トスレハ可ナリト述ク「伊」直ニ之ニ賛意ヲ表シタルモ「獨」ハ第十條ヲ其ノ儘トシ“…et contraire aux intentions des article 1, 3, 4, 5, 6 et 8”ト附加スヘシトシ且前記「第八條及第九條」ノ項(三)所載「米」案(Conf. D./C.A./60)ハ第八條乃至第十條ヲ「カヴァー」セシムルノ意ナリトコトナルカ右「米」案ハ第十條ヲ包括セストテ第

十條ノ保持ヲ主張シタルヲ以テ決ニ付シタル處多數ヲ以テ第十條ハ削除ニ決ス

第十條(舊第十三條)

(一)「波」ハ本條ノ趣旨ハ民用航空國際化ノ程度ト密接ナル關係アルモ議事ノ進行ヲ阻害セサルカ爲此際同問題ニ論及セサルコトトシ國際化セラレサル民用航空ノ報道供給ニ關シ詳細ナル一案(Conf. D./C.A./59)ヲ提出シ第十一條後半ノ民用大型機ニ關スル部分ハ國際化實現ノ場合ニハ不必要ナルヘシト述ヘタル處「米」ハ「波」案ノ趣旨ハ至極結構ナルモ此種報道ノ提供ハ甚大ノ準備ト手数ヲ要スルモノニシテ其ノ實行性ニ關シ疑ナキ能ハス右ハ「米」カ民用航空ニ關スル完全ナル公表ヲナスニ付主義上ノ反對ヲ有スルノ趣旨ニ非ルモ非常ナル困難ヲ伴フヘシト述ヘ「蘭」モ大體之ヲ支持ス「典」ハ國有機「獨」ハ右「波」修正案ハ民用航空ノ國際化ヲ先決問題トスト同案附議ニ異議ヲ述ヘシニ付議長ハ「波」「獨」兩國間ニ然ルヘク話シ合ヒヲ付ケラレタシト輕ク捌ク

(二) 右ノ外第十一條ニ對スル修正左ノ如シ
「米」

第一項(a)ヲ “nombre total des aéronefs civils immatriculés sur les registres nationaux”ト修正方ヲ提案スルト共ニ第十一條ニ對スル包括的修正案トシテ(Conf. D./C.A./52)ヲ提出ス右ニ關シ「獨」ハ一切ノ民用航空機カ登録セラルルコトヲ條件トシテ右ニ同意スヘシト述ヘタルモ「佛」ハ登録セラレタル航空機「切」ト云フモ組立テラレタルモ未タ登録セラレスシテ然カモ軍事の見地ヨリ考慮ヲ要スルモノアルニ非サヤト擲論ス

「蘭」

本條第一項(c)ノ la Société des Nations 以下ノ字句削除ヲ提シ結局 “par un organisme à déterminer”ト修正スルノトニ決セルカ「英」ハ右機關ハ條約案處定常設縮委員會ノ一部タルヘキモノト信ス自國提案(Conf. D./C.A./50)ニ於テハ初メ國際航空委員會ヲ以テ之ニ充ツヘシトセルカ國際航空委員會ニ加入セルモノ單ニ二十九ヶ國ニ止ムルノ

ミナラス必要ナル調査ヲナス權限ヲ有セサルニ鑑ミ斯克改メ度シト述フ

「英」

第一項(b)ノ(a) “total maximum weight authorised—the poids total maximum autorisée” トハ

又第二項ノ末段 “its unladen weight and its authorised maximum total : weight—son poids vide et son poids total maximum autorisée” ヲ同項(a)ノ末尾ニ移ス(シトス

「蘭」

第一項(a)ヲ “ainsi que le volume pour les dirigeables—the volume of dirigibles” ノ語ヲ加フ(シトス

「獨」「米」

(Conf. D./C.A./53) 第四頁ノ「フートノート」ハ實行困難ナリトノ見地ヨリ削除ヲ求メ右ニ決ス

(三) 第十一條ハ未決ノ儘次回ニ譲ル

小分科會第七回會合(七月十三日)

前回ニナサレタル修正ニ基キ報告者ノ作成セル (Conf. D./C.A./58) ト對照シミン (Conf. D./C.A./53U) ノ討議ヲ行フ

第一。條。

採擇(七月八日第五回會合ニ於テ)

第二。條。(「瑞西」提出修正案アリ (Conf. D./C.A./56)

(一) 「米」ハ既ニ憲法上ノ困難ヲ理由トシ一般留保ヲナセルカ本條亦右「米」留保ノ目的トナルモノカ各條ニ付右留保ニ適スル修正ヲ求ムルコトハ差控ヘ討議ノ終リニ右ヲ參酌セル案ヲ提出スヘシトシ「英」ハ進行振リニ秩序ナキ本分科會議事方法ニ付議長ノ注意ヲ促シ次テ「瑞西案」第一項ハ何等實質的意義ナク又第二項ニ關シテハ強キ反對ノ意向ヲ有スト述ヘ「佛」亦「瑞西」案ニ包括的反對ヲ表シ殊ニ商用飛行機ト總稱シ輸送用飛行機ヲ區別セサルハ不可ナリト云フ

(二) 「典」ハ然ラハ議長案即「瑞西」案第二項 “un organisme international à déterminer fera à donner son avis sur” トセハ如何ト提シ議長之ニ贊シ右修正ヲ採擇セルカ次テ「伊」ハ本條第二項ハ取締ニ關スル部分ニテ論スルヲ可トセスヤト注意シ之亦議長ノ同意ヲ得タリ

(三) 「蘭」ハ前記「米」ノ所言ニ對シ民用航空カ其ノ所要以上ノ飛行機ヲ擁スルコトノ脅威タル點ニハ「米」ト雖モ同感ナルヘク又「英」ニ對シテハ重大ナル場合ニ付本條所定ノ措置ヲ必要トスル次第ナルカ故ニ第二項ノ“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire à ne pas favoriser” トヤハ可ナル(シトシ議長亦 interdite ノ代リヲ à prendre des mesures ト提示セルカ「米」ハ左ノ趣旨ノ提案ヲナセリ

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à ne pas encourager, soit par voie de subventions, soit autrement, la construction et le soutien d'aéronefs commerciaux dépassant les besoins normaux de l'aéronautique civile”.

“The High Contracting Parties undertake not to encourage, either by subsidies or otherwise, the construction or maintenance of commercial aircraft exceeding the normal requirements of civil aviation”.

(四) 右「米」案ニ對シ我方「獨」「伊」「白」「亞」ハ贊成シ「英」ハ“construction”ヲ“employment—emploi”ト改ム(シトシ「佛」ハ“construction ou emploi”トス(シトセルカ結局「英」ノ提議ニテ全會一致ノ意見ヲ得ル爲メ「英」「米」「蘭」ノ三國ニテ單一案ヲ作ルコトトス(其後配付シ來レル Conf. D./C.A./65「米」案ハ右「米」案末段ヲ les besoins normaux des entreprises de l'aéronautique civile トナリ居レリ)

第三。條。

採擇(「伊」修正ヲ付シ七月八日第五回會合ニ於テ)

第四。條。

採擇(七月八日第五回會合ニ於テ)

第五。條。(關係書類 Conf. D./C.A./57 及 58)

(1) 「佛」は Conf. D/C.A./58 所載第五條前段に “Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire toute instruction *complémentaire* et tout entraînement *spécial de nature à faciliter leur emploi dans l'aéronautique militaire*: イスルニ於テハ受諾スヘシト述ク「英」ハ自國ノ兵役制度上研究ヲ要スル點アルニ付意見發表ニ先チ法律家ノ意見ヲ徵ス必要アリトシ「獨」ハ (Conf. D/C.A./53(9)) 原案ヲ可トスト述ク「米」ハ左ノ趣旨ノ案ヲ第四條及第五條及第六條ニ對スル修正案トシ採擇セラレ度ク然ラヌムハ留保スヘシト宣ス

「締約國ハ民用航空人員カ右民用航空ニ使用セララルル事實ニ因リ軍事教育ヲ受クヘキコトヲ求メサルコト及民用航空企業ニ對シ軍事的訓練ヲ受ケタル人員ヲ使用スヘキコトヲ要求又ハ獎勵セサルコトヲ約ス」

(11) 右ニ對シ「佛」は Conf. D/C.A./59 第五條 *personne soumise au service militaire* ノ *soumise* ハ義務兵役ニヨル服務ト傭兵制度ニヨル服務トヲ區別セス即服務ヲスル意思ノ因テ來ル處ヲ論セス從テ義務兵役及傭兵制度ノ何レニモ適用シ得ル規定ナリト注意セシモ結局「佛」「米」報告者三者ヲシテ單一案ヲ作成セシムルコトトス

第。六。條 (關係書類 Conf. D/C.A./53 及 Conf. D/C.A./58)

(1) 「佛」は “en service dans les forces armées—in service in the armed forces” ヲ “appartenant au service actif des forces armées—on active service with the armed forces” ト修正スヘシトシ「波」之ヲ支持シ右修正案採擇ノ場合ニハ第一句末段 “autres que les armées de milice—other than militia armies” ノ字句ハ不用トナルヘシト述ク「蘭」は Conf. D/C.A./67 即「締約國ハ現役軍人ノ民用航空ニ對スル訓練又ハ行動ヲ規定又ハ獎勵セサルコトヲ約ス但シ右約定ハ第三條所定ノ場合ニハ適用セラレス」トノ趣旨ノ修正案ヲ出シ「米」亦「締約國ハ現役軍人ノ民用航空ニ對スル訓練又ハ行動ヲ規定又ハ獎勵セサルコトヲ約ス但シ右ハ民兵「レザーヴ、コー」竝ニ捜査及試験的作業ニハ適用セラレス」トノ趣旨ノ修正案ヲ出セリ (Conf. D/C.A./66)

(2) 「佛」ハ本條ノ根本趣旨ニ疑問ヲ懷クモノニシテ此種規定カ軍縮ニ關係アリト思ハレス本規定ノ起原ハ「ブラツセ

ル」ニ於ケル民用航空専門會議ニ於ケル討議ニシテ端的ニ云ハハ民用航空ノ活動範圍ニ軍人ノ入ルヲ阻マムトスル趣旨ナリト信スルモノニシテ寧ロ削除ヲ可トスト述ヘ「英」ハ「佛」ノ說ニ贊シ但シ本條保持ノ場合ニ於テハ後半ノ保持ヲ希望シ「亞」モ一切ノ行動ナル語ノ削除ヲ求ム「佛」ハ又々發言ヲ求メ本條ト第六條ノ趣旨ノ矛盾セルコトヲ指摘シ改メ削除ノ合理的ナル所以ヲ説明シ我方モ日本代表部トシテハ一切ノ行動ナル語ノ存スル限り本條ノ受諾ヲ困難トスルカ故ニ Conf. D/C.A./52 第八條 (B) ヲ以テ之ニ代フヘシト主張スルモ寧ロ之ヲ削除スルニ如カストシ「伊」モ之ニ贊シ「典」亦「日」ト同様前記 (B) ヲ可トス

(三) 議長ハ本日ノ會合ニ於テ案文修正ヲ提議シ右ニ付直接交渉ヲ依頼セラレタル各國代表部中意見アルモノハ七月十四日午前十一時ヨリ空軍委員會書記「キアベリ」大佐事務室ニ參集シ案文起草ニ當ラレタシト述フ

「キアベリ」大佐事務室ニ於ケル打合せ會

七月十四日聯盟事務局「キアベリ」大佐事務室ニテ開催修正具體的意見ヲ提出シ直接交渉ヲ議長ヨリ委嘱セラレタル「英」「米」「佛」「蘭」及報告者「諾」出席ス我方モ出席大體 Conf. D/C.A./58 ヲ基礎トシテ討議ス

第。一。條 (其ノ儘)

第。二。條

「米」案 (Conf. D/C.A./55) ニ基キ討議ヲ行ハ “encourager” ヲ “ne pas exiger, ni favoriser” トスルコトニテ話合ヒナリタリ

第。三。條

「米」ヨリ第三條、第四條及第六條ニ代ハルヘキ一案ヲ作成シ其ノ趣旨ヲ條約案第二十八條ノ趣旨ニ若干字句ノ修正ヲ加ヘ且 Conf. D/C.A./53(7) 第三條ニ對スル「伊」修正案即 Conf. D/C.A./58 ノ第三條後段ノ趣旨ヲ加ヘタルモノニ代ヘ度シト述ヘタルカ報告者ハ第三條ハ既に受諾セラレタルモノナルノミナラス右三ヶ條單一案ニテ果シテ包含出來得

ルヤ否ヤ疑ナキ能ハスト注意シ「英」ハ右ノ如キ趣旨ハ機材ト人員トニ分チ「ドラフティング」ヲ考慮スルヲ可トセサルヤト指摘シ「米」モ之ニ賛ス

第五〇條

本條ニ關シテハ「英」案 (Conf. D/C.A./56) アリ「米」之ヲ支持セルモ我方ハ報告者案 (Conf. D/C.A./58) ノ

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire toute instruction et tout entraînement ayant un caractère militaire”.

トアリシヲ「佛」カ十三日ノ小分科會席上ニ於テ修正希望セル如ク

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire toute instruction complémentaire et tout entraînement spécial de nature à faciliter leur utilisation dans l'aéronautique militaire”.

トシ只後半(a)及(b)ハ「佛」案 (Conf. D/C.A./57) ヨリ報告者案其ノ儘ヲ可トスト述ヘ且右「佛」案中 service militaire actif ハ豫後傭兵ヲ排除スルモノナリヤト「佛」ニ問ヒタル處「佛」ハ現役ニ限ル意味ニ非ス簡單ニ云ヘハ軍服ヲ着、兵營ニテ現實ニ勤務スルトキハ現役ト豫後傭兵トノ區別ナク“en service actif”ナリト答ヘタル處傍ヨリ「米」ハ英語ニテハ寧ロ右ノ辭句現役ヲ意味スト傍ヨリ付言セルカ結局左ノ案文ニ落着キタリ

“Les Hautes Parties contractantes s'interdisent de donner une instruction complémentaire et un entraînement spécial de nature à faciliter leur utilisation dans l'aéronautique militaire”

a) de tout pilote et de toute personne de l'aéronautique civile non soumise au service militaire;

b) de toute personne de l'aéronautique civile soumise au service militaire en dehors des périodes prévues par la législation”.

右ニ對シ傭兵制度國タル「英」ハ左ノ一案ヲ出シ「米」之ヲ支持シ右案文第二項トシテ採擇ニ決ス

“Nothing in this article shall infringe with the right of persons serving in the civil aviation to volunteer for service in territorial, militia or auxiliary formations”.

尙前記佛文(a)ノ“service militaire”ノ後ニ“volontaire ou obligatoire”ノ語ヲ加ヘムコトヲ「英」ヨリ提セルカ有耶

無耶ノ裡ニ終ヘリ

第六〇條

「英」「米」ハ「英」案 (Conf. D/C.A./56) ニ付議事ヲ進メントシ報告者モ之ニ同意ノ形勢見エシヲ以テ「日」ハ Conf. D/C.A./57 提案國タル直接「蘭」ニ我方事情ヲ説明シ l'activité ノ語ノ削除ヲ求メタル處「蘭」及報告者ハ l'activité en tant que membre d'équipage トスレハ如何ト問ヒシヲ以テ之ヲ諾シタル處「英」ハ本條ハ寧ロ削除ヲ可トセスヤト述フ報告者ハ右ノ如キハ本日會合ノ趣旨ニ戻ルヘシトテ同意セス「日」ハ削除ヲ可トスルモ保持セラルル場合ニハ一切ノ行動ヲ前記ノ如ク特定スヘシトシ結局左ノ案ニ落付ケリ

“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à ne prescrire (?) ni favoriser l'instruction ou l'activité dans l'aéronautique civile en tant que membre d'équipage des personnes en service actif des forces armées”.

Cet engagement ne s'applique pas dans les cas mentionnés à l'article 3 ni dans les cas d'essai et de recherche”.

小分科會第八回會合(七月十五日)

小分科會前回會合及七月十四日行ハレタル提案國打合會ノ結果ニヨリ作成セラレタル Conf. D/C.A./58 ヲ基礎トシ未決條項ニ付キ討議ス

第二〇條

採擇(但「佛」ハ本條ノ趣旨其ノモノニ留保ス)

第三〇條

「米」ハ留保シ「獨」ハ Conf. D/C.A./53(1) 第二頁ニ存セル脚註ナキハ奇怪ナリ復活スヘシト求メ報告者(諾)ヨリ右脚註挿入ニ強キ反對ヲ有スル代表部一二アリシニ因リ省略セリト説明セルカ議長「瑞西」ノ取做シニヨリ空軍委員會ニ

對スル報告中ニ記載スルコトシ本條採擇

第五條

(一)「英」ハ單ニ兵役ニ服スルモノト云ハス義務兵役又ハ傭兵制度ノ何レタルヲ問ハストノ趣旨ノ字句挿入方ヲ求メシ處報告者ハ右「英」ノ希望ハ本條(b)ニテ包括セラレ居レリト述ハタルカ結局「佛」及議長ノ提案ニヨリ(a)及(b)双方ニ“(non) soumise, volontairement ou obligatoirement”トスルコトトシ

(二)次テ「獨」「典」ヨリ Conf. D./C.A./53(1)ニテ“Les Hautes Parties Contractantes s'engagent à interdire”トアリシヲ Les H.P.C. s'interdisent トナセルハ如何ナル理由ニヨルヤ寧ロ原案ヲ可トセシヤト云ヒ「佛」モ他ノ條文ニ於テハ“s'engager”ノ語ヲ用ヒ居ルヲ以テ字句ノ統一上ヨリ見ルモ原案ヲ可トスヘシト「獨」「典」ヲ支持シ其ノ通リニ決ス終リニ「典」ハ本條末項ヲ新ニ附加セル所以ヲ問ヒタルニ對シ右ハ徵兵國ト義務兵役制度ノ國トノ間ニ均衡ヲトラシムヘシトノ「英」「米」側ノ主張ニヨルト説明アリタリ

(三)尙「米」ハ右末項末段ニ and to receive military instruction therein—et de recevoir l'instruction militaire correspondante”ト附加スヘシトシ「英」之ヲ支持シ其ノ通リニ決ス

第六條

「佛」ハ新ニ挿入セラレタル“en tant que membre d'équipage”ノ語ノ意義如何ト問ヒ右字句挿入方ヲ求メタル我方ヨリ説明スル處アリ「亞」ハ右修正アリトモ本條ニ對シ反對ナリト述ヘ「典」ハ現在ノ案文ニテハ留保ヲセサルヲ得ス條約案第二十八條ノ趣旨ヲ可トセシヤト自説ヲ繰リ返シ「獨」「諸」「白」ハ留保ス

斯クテ議論紛糾セシヲ以テ「米」ニ於テ第三條第四條及第六條ヲ一括シ其ノ趣旨大體ニ於テ第二十八條ト同一ナル一案ヲ用意セリト披露シ結局本條ハ「米」案ノ配付ヲ待チ次回ニ討議スルコトトス

第七條

「英」「亞」共ニ留保シ「佛」ハ本條ノ適用ハ不可能ナリト云ヒタルカ「蘭」ハ然ラス適用可能ナリトテ承服セス因テ決ヲトリタル處本條ノ主義ニ反對スルモノ多數ヲ占メ削除ニ決ス

第八條及第九條 (關係書類 Conf. D./C.A./53(1), C.A./50 及 C.A./53)

本條ニ關シテハ「米」修正案 (Conf. D./C.A./60) 及「伊」修正案 (Conf. D./C.A./53) 兩者アリシ處「米」ハ「伊」案ノ趣旨ト自國案ノ趣旨同一ナリトテ前者ヲ支持シ自國案ヲ撤回シ「英」「亞」何レモ「伊」案ヲ支持セルカ本條ノ討議ヲ次回ニ譲ル

小分科會第九回會合 (七月十八日會合)

前回會合ニ於ケル討議經過ヲ參照シテ新ニ作成セル Conf. D./C.A./59 及第十一條ニ關スル「波」修正案 (Conf. D./C.A./59) ニ付討議ス

報告者ヨリ第六條ニ關シテハ日本ノ提案ニヨリ Conf. D./C.A./68 第六條中ニ“en tant que membre d'équipage—as the members of crew”ナル語ヲ挿入セシモ留保多カリシ事實ニモ鑑ミ之カ代リニ特種且一時的ナル場合ノ趣旨ナル字句ヲ以テセリト披露ス

第六條

(一)「米」ハ第六條後段“recognised as such”以下ノ趣旨ハ各國主權ニ影響アル事項ナルカ故ニ削除スヘシト提シ「英」之ヲ支持シ「蘇」ハ“save in the case of force majeure”以下前部ヲ削除スヘキコトヲ求ム

(二)此ノ時議長(瑞西)ハ唐突ニ本分科會ノ議事ハ既ニ會ヲ重スルコト九回ノ久シキニ互レルヲ以テ幹部會ヲシテ一ノ報告ヲ作成シ權限アル機關ニ提出シ議事ヲ中止シ度シトテ第九回會合即規律ニ關スル討議ノ一應終了ヲ以テ一時小分科會討議ヲ打切りタキカ如キ口吻ヲ洩セシカ「佛」ハ右ニ頓着ナク(註)第六條ノ「レダクシオン」ニ付キ發言シ“s'engagent à interdire”ノ方“s'engagent à ne prescrire ni favoriser”ニ優レリト述ヘ議論細目ニ入ルト見エシヲ以テ議長ハ本條ノ

主義ニ付句別ニ決ヲトリ末段“recognised as such”以下ハ削除ト決ス

第。八。條。

採擇(但シ英文條文“humanitarian”ノ語ヲ“social”ト修正ス)

第。十。條。

(一) 右終リテ Conf. D/C.A./53(D) 第十一條ノ討議ヲ開始セルカ右條ニ付テハ「英」修正案 (Conf. D/C.A./68 第四頁) 及「米」修正案 (Conf. D/C.A./62) ヲ「英」ハ「米」案ヲ支持シ自國案ヲ撤回ス

(二) 右ノ外本條ニ關シ「波」修正案 (Conf. D/C.A./59) アリシハ前回會合記事ノ通ナルカ「波」ハ改メテ提案理由ヲ説明シ「日」「典」之ヲ支持シ「獨」「洪」ハ軍用航空ニモ之ヲ適用スルコトヲ條件トシテ同意シ「米」ハ實行困難ナリト反對ス於茲議長ハ「波」修正案ハ報告中ニ附屬書トシテハ記載シテハ如何ト提議セシモ「波」ハ決ヲトルコトヲ求メ票決ヲ行ヒタル處八對五ニテ否決セラレタリ

(三) 次テ「米」修正案 (Conf. D/C.A./62) ノ討議ニ入レリ

1ノ(a) “under national registry”ヲ“registered and non registered”ト修正

2ノ(a) “the number of registered and non registered civil aeroplanes above an unladen weight of (X) kilograms, the number above (Y) kilograms and the number above (Z) kilograms; the number and the volume of dirigibles.”

「獨」ハ右1ノ(a)修正案ハ「本條ノ規定ハ此レト同趣旨ノ規定軍用航空ニ付キテモ適用セラルヘシトノ豫想ノ下ニ起草セラレタリ」トノ「フートノート」ヲ付シ賛成スヘシト述ヘタルカ採決ノ結果「獨」提案敗レ「米」案採擇

尙2ノ(a)ハ採擇

(四) 右ニテ議長ハ閉會セムトセシモ「英」「米」ハ第三條ノ主義ヲ認ムルコトニ付キテハ採決済ミナリシモ「レダクシヨ」

ニ付テハ然ラスト執拗ニ主張シタルカ爲メ又々議事ヲ再開シ結局第三條ヲ第六條ト一致セシムル趣旨ニテ“recognised as such”以下ヲ削除シ其ノ代リ「伊」ノ要求ニヨリ“Dans de pareils cas, le matériel militaire ne sera utilisé que par le personnel de l'aéronautique militaire. In such cases, military materiel shall only be used by the personnel of the military Air Force”

トスルコトトセリ

(五) スクテ小分科會ハ規律ニ關スル討議ヲ終リ右ニ關スル報告書ハ此ノ際空軍委員會ニ提出セサルコトトシ休會ニ入レルカ散會ニ先テ「佛」「洪」兩國ハ本小分科會討議ノ結果ニ付一般の留保ヲナセリ